NEC

SigmaSystemCenter 3.1

リファレンスガイド
データ編

ー第 2 版ー

Copyright © NEC Corporation 2003-2013. All rights reserved.

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

▪SigmaSystemCenter、WebSAM、Netvisor、InterSecVM、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、EXPRESSSCOPE、およびSIGMABLADEは日本電気株式会社の登録商標です。

▪ Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer、SQL ServerおよびHyper-Vは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Intel、Itaniumは、Intel社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
▪ NetApp, Data ONTAP, FilerView, MultiStore, vFiler, SnapshotおよびFlexVolは、米国およびその他の国におけるNetApp, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。
なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

目次

はじめに vii

対象読者と目的 vii
本書の構成 vii
SigmaSystemCenterマニュアル体系 viii
本書の表記規則 x

1. 障害・ポリシー 13

1.1. 障害監視・ポリシー処理 14
1.2. SigmaSystemCenterが検出できる障害 15
1.2.1.ESMPRO/ServerManager経由で検出できる障害 17
1.2.2.ESMPRO/ServerManager経由で検出できるイベントを確認するには 23
1.2.3.SystemProvisioningで検出できる障害一覧 26
1.2.4.SystemMonitor性能監視で検出できる障害イベント 26
1.2.5.VMware (vCenter Server) 連携機能で検出できる障害一覧 39
1.2.6.VMware (ESXi) 連携機能で検出できる障害一覧 48
1.2.7.最適配置機能で検出できるイベント一覧 49
1.2.8.Out-of-Band Management管理で検出できるイベント一覧 50
1.2.9.Hyper-Vクラスタ連携機能で取得できるイベント一覧 69
1.3. ポリシー設定 72
1.4. アクションの設定 73
1.4.1.複数アクションのフロー制御 73
1.4.2.アクション実行の抑制 (障害イベントの抑制) 77
1.4.3.複数イベントのグループ化 77
1.5. 診断機能について 78
1.5.1.マシン診断 78
1.5.2.センサー診断 80
1.5.3.個別ステータス診断 83
1.5.4.総合回復診断 87
1.6. 標準ポリシーについて 89
1.6.1.標準ポリシーの設定内容 90
1.6.2.標準ポリシー (N+1) の設定内容 94
1.6.3.標準ポリシー (仮想マシン) の設定内容 99
1.6.4.標準ポリシー (仮想マシンサーバ)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力) の設定内容 101
1.6.5.標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi) の設定内容 104
1.6.6.標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 省電力) の設定内容 105
1.6.7.システムポリシー (マネージャ) の設定内容 107
1.6.8.HW予兆監視系イベントの設定内容 109
1.7. ポリシーのアクション一覧 114
1.7.1.通報 / E-mail通報、イベントログ出力 115
1.7.2.通報 / E-mail送信 117
1.7.3.次のアクション実行を待機 117
1.7.4.マシン設定 / ステータス設定 正常 117
1.7.5.マシン設定 / ステータス設定 一部故障 118
1.7.6.マシン設定 / ステータス設定 故障 118
1.7.7.マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定 118
1.7.8.マシン設定 / 個別ステータス診断、ステータス設定・正常 119
1.7.9.マシン設定 / 総合回復診断、ステータス設定・正常 119
1.7.10.マシン操作 / マシン起動 119

1.7.11.マシン操作 / マシン再起動 119
1.7.12.マシン操作 / マシン停止 (シャットダウン) 119
1.7.13.マシン操作 / LED点灯 120
1.7.14.マシン操作 / LED消灯 120
1.7.15.マシン操作 / マシン置換 120
1.7.16.マシン操作 / マシン置換 (直ちに強制OFF) 120
1.7.17.マシン操作 / マシン診断・強制OFF 120
1.7.18.グループ操作 / スケールアウト マシン追加 121
1.7.19.グループ操作 / スケールアウト マシン起動 121
1.7.20.グループ操作 / グループマシン作成・追加 121
1.7.21.グループ操作 / スケールイン マシン削除 121
1.7.22.グループ操作 / グループマシン削除 (VM削除) 121
1.7.23.グループ操作 / スケールイン マシン休止 (サスペンド) 122
1.7.24.グループ操作 / スケールイン マシン停止 (シャットダウン) 122
1.7.25.グループ操作 / VM配置制約を適用する 122
1.7.26.グループ操作 / 予備VMサーバを起動する 122
1.7.27.VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Failover) 122
1.7.28.VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration) 123
1.7.29.VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration, Failover) 123
1.7.30.VMS操作 / 全VMを移動 (Failover) 123
1.7.31.VMS操作 / 全VMを移動 (Migration) 123
1.7.32.VMS操作 / 全VMを移動 (Migration, Failover) 123
1.7.33.VMS操作 / 全VMを移動 (Quick Migration, Failover) 124
1.7.34.VMS操作 / VMSパワーセーブ (省電力) 124
1.7.35.VMS操作 / VMSロードバランス 124
1.7.36.VMS操作 / VM配置制約を適用する 124
1.7.37.VMS操作 / VMサーバ停止 (予兆) 125
1.7.38.ローカルスクリプト実行 125
1.7.39.アクション実行結果のリセット 125

2. ログ 127

2.1. ログの種類 128
2.2. イベントログ 129
2.2.1.SystemProvisioningのイベントログ 129
2.2.2.ESMPRO/ServerManager連携に関するイベントログ 176
2.3. ログファイル一覧 177
2.3.1.SystemProvisioningのログ 177
2.3.2.DPMのログ 179
2.3.3.SystemMonitor性能監視のログ 186
2.3.4.ESMPRO/ServerManagerのログ 186

付録 A ネットワークポートとプロトコル一覧 205

SystemProvisioning 205
SystemProvisioning (仮想マシンコンソール・SOLコンソール) 207
DeploymentManager 208
ESMPRO/ServerManager 215
SigmaSystemCenter/電源管理基本パック 218
SystemMonitor性能監視 220
Windows Server 2008ファイアウォールにおけるICMP Echo Replyの例外設定方法 221

付録 B 構成情報データベースの移行 227

Windows認証ログインを使用する 227
SQL認証ログインを使用する 233

付録 C データベースが使用する容量の見積もり方法 239

SystemProvisioning 239

SystemMonitor性能監視 241
DeployMentManager 242

付録 D　アクションシーケンスの種類 243

付録 E　改版履歴 247

付録 F　ライセンス情報 249

はじめに

対象読者と目的

「SigmaSystemCenterリファレンスガイド　データ編」は、SigmaSystemCenterの管理者を対象に、SigmaSystemCenterの構築時、運用時に必要となる製品のメンテナンス関連情報について記載しています。「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。SigmaSystemCenterの構築時、運用時に必要な情報を参照してください。

本書の構成

セクション Ⅰ メンテナンス情報

1　「障害・ポリシー」: SigmaSystemCenter が検出できる障害、異常、およびポリシーのアクション一覧と既定の処置を記載します。
2　「ログ」: SigmaSystemCenter から表示されるイベントログについて説明します。

付録 A 「ネットワークポートとプロトコル一覧」
付録 B 「構成情報データベースの移行」
付録 C 「データベースが使用する容量の見積もり方法」
付録 D 「アクションシーケンスの種類」
付録 E 「改版履歴」
付録 F 「ライセンス情報」

SigmaSystemCenterマニュアル体系

SigmaSystemCenter のマニュアルは、各製品、およびコンポーネントごとに以下のように構成されています。
また、本書内では、各マニュアルは「本書での呼び方」の名称で記載します。

製品 / コンポーネント名	マニュアル名	本書での呼び方
SigmaSystemCenter 3.1	SigmaSystemCenter 3.1 ファーストステップガイド	SigmaSystemCenter ファーストステップガイド
	SigmaSystemCenter 3.1 インストレーションガイド	SigmaSystemCenter インストレーションガイド
	SigmaSystemCenter 3.1 コンフィグレーションガイド	SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド
	SigmaSystemCenter 3.1 リファレンスガイド	SigmaSystemCenter リファレンスガイド
ESMPRO/ServerManager 5.63	ESMPRO/ServerManager Ver.5.6 インストレーションガイド	ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド
WebSAM DeploymentManager 6.1	WebSAM DeploymentManager Ver6.1 ファーストステップガイド	DeploymentManager ファーストステップガイド
	WebSAM DeploymentManager Ver6.1 インストレーションガイド	DeploymentManager インストレーションガイド
	WebSAM DeploymentManager Ver6.1 オペレーションガイド	DeploymentManager オペレーションガイド
	WebSAM DeploymentManager Ver6.1 リファレンスガイド	DeploymentManager リファレンスガイド
SystemMonitor性能監視 5.2	SystemMonitor性能監視 5.2 ユーザーズガイド	SystemMonitor性能監視 ユーザーズガイド
	SigmaSystemCenter 仮想マシンサーバ(ESX) プロビジョニングソリューションガイド	SigmaSystemCenter 仮想マシンサーバプロビジョニングソリューションガイド
	SigmaSystemCenter sscコマンドリファレンス	sscコマンドリファレンス
	SigmaSystemCenter クラスタ構築手順	SigmaSystemCenterクラスタ構築手順
	SigmaSystemCenter ネットワークアダプタ冗長化構築資料	SigmaSystemCenterネットワークアダプタ冗長化構築資料
	SigmaSystemCenter ブートコンフィグ運用ガイド	SigmaSystemCenterブートコンフィグ運用ガイド

関連情報: SigmaSystemCenter のすべての最新のマニュアルは、以下の URL から入手できます。
http://www.nec.co.jp/WebSAM/SigmaSystemCenter/

SigmaSystemCenter の製品概要、インストール、設定、運用、保守に関する情報は、以下の４つのマニュアルに含みます。各マニュアルの役割を以下に示します。

「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」
SigmaSystemCenter を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、システム設計方法、動作環境などについて記載します。

「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」
SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」
インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。また、保守の操作についても説明します。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」
SigmaSystemCenter の管理者を対象読者とし、SigmaSystemCenter の機能説明、操作画面一覧、操作方法、メンテナンス関連情報、およびトラブルシューティング情報などを記載します。「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」、および「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項、および関連情報を以下のように表記します。

注: は、機能、操作、および設定に関する注意事項、警告事項、および補足事項です。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[ ] 角かっこ	画面に表示される項目 (テキストボックス、チェックボックス、タブなど) の前後	[マシン名] テキストボックスにマシン名を入力します。 [すべて] チェックボックス
「」 かぎかっこ	画面名 (ダイアログボックス、ウィンドウなど)、他のマニュアル名の前後	「設定」ウィンドウ 「インストレーションガイド」
コマンドライン中の [ ] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	add [/a] Gr1
モノスペースフォント (courier New)	コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)	以下のコマンドを実行してください。 `replace Gr1`
モノスペースフォント斜体 (*courier New*)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目 値の中にスペースが含まれる場合は "" (二重引用符) で値を囲んでください。	`add GroupName` `InstallPath="Install Path"`

セクション I　メンテナンス情報

このセクションでは、SigmaSystemCenterの保守について説明します。

- 1　障害・ポリシー
- 2　ログ

1.　障害・ポリシー

本章では、SigmaSystemCenterが検出できる障害、および想定した障害への対応処置を設定するポリシーの詳細について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 1.1　障害監視・ポリシー処理 14
- 1.2　SigmaSystemCenter が検出できる障害 15
- 1.3　ポリシー設定 72
- 1.4　アクションの設定 73
- 1.5　診断機能について 78
- 1.6　標準ポリシーについて 89
- 1.7　ポリシーのアクション一覧 114

1.1. 障害監視・ポリシー処理

SigmaSystemCenter は、管理対象マシンの障害や性能を監視することができます。また、管理対象マシン上で障害が発生したとき、復旧のための構成変更制御やユーザへの通知処理を自動で実行することができます。

SigmaSystemCenter は、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent や VMware vCenter Server、SystemMonitor 性能監視などの複数の連携製品、およびコンポーネントを使用して管理対象マシンの稼動状態や障害、性能を監視します。各監視製品、およびコンポーネントは、管理対象マシンの状態変化を検出すると、SigmaSystemCenter のポリシー制御処理にイベントを通報します。

SigmaSystemCenter のポリシー制御処理は、通報されたイベントの情報を運用ログに出力後、ポリシー設定に従いイベントに対応する処理を実行します。

ポリシー設定は、イベント別に実行するアクションや処理順序、実行条件などを定義することができます。また、運用グループやモデル単位で別々のポリシー設定を割り当てることができます。

1.2. SigmaSystemCenter が検出できる障害

SigmaSystemCenter が利用可能な監視製品、およびコンポーネント、その監視内容は以下です。

注: Windows OS は、ご使用の環境が x86 OS と x64 OS でレジストリのパスが異なります。レジストリは x86 OS の表記ですので、適宜読み替えてください。

- x86 OS : HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE
- x64 OS : HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node

◆ ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerManager は、管理対象マシン上の ESMPRO/ServerAgent に一定間隔で SNMP による情報取得要求を行い、取得できない場合、管理対象マシンがダウン状態になったとみなし、"マシンアクセス不可能障害" イベントを SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報します。また、各リソースの統計情報を閾値監視して、イベントを通報することも可能です。

また、ESMPRO/ServerAgent は管理対象マシンの各リソースの状態を常に監視しており、各リソースの障害を検出すると ESMPRO/ServerManager に障害を通報します。ESMPRO/ServerAgent からの通報を受けて、ESMPRO/ServerManager は、SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報を行います。

ESX の場合、ESMPRO/ServerAgent に加えて HDD アクセス不可監視モジュールをインストールすると、HDD にアクセスできない状態になった場合でも、ESMPRO/ServerManager で SNMP サービスアクセス不能を検出する精度を向上できます。

関連情報: HDD アクセス不可監視モジュールの詳細、およびダウンロードについては、以下 URL を参照してください。

http://www.nec.co.jp/pfsoft/smsa/

ダウンロード > 機能追加モジュール

◆ SystemProvisioning

管理対象マシンに対して、以下を定期的に実行することで死活状態を監視します。

- Ping による疎通確認 (Ping 確認)
- 指定した TCP ポートへの接続 (Port 監視)

また、仮想マシンサーバに関しては、管理対象マシンが仮想マシンサーバとして機能しているかを監視することが可能です (仮想化基盤監視)。仮想化基盤監視は、Xen / Hyper-V / KVM で利用できます。

◆ SystemMonitor 性能監視

管理対象マシンの CPU 負荷率、ディスク使用量などの使用状況の統計情報や、グループ配下の複数のマシンについての統計情報が閾値を超えた場合、SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報を行います。

また、VM 最適配置機能の動作契機となる仮想マシンサーバへの高/低負荷通報用の監視は、SystemMonitor 性能監視が行います。

◆ VMware vCenter Server 経由の監視

SigmaSystemCenter は、vCenter Server 経由で以下の監視を行うことができます。

- 仮想マシンサーバ (VMware) の接続確認
- 仮想マシンサーバ (VMware) の CPU 使用率
- 仮想マシンサーバ (VMware) のメモリ使用率
- 仮想マシン (VMware) のハートビート状態
- 仮想マシン (VMware) の CPU 使用率
- 仮想マシン (VMware) のメモリ使用率
- 仮想マシン (VMware) の電源状態
- データストア使用率
- データストア割り当て率
- データストアの接続状態
- ネットワークの接続状態

異常発生時、vCenter Server 上でアラートが発生します。上記に関連するアラートが発生すると、SigmaSystemCenter はポリシー制御処理へ通報を行います。

◆ VMware ESXi への監視

管理対象マシンが VMware ESXi の場合、VMware ESXi の稼動状態監視のために SigmaSystemCenter は VMware ESXi に対して、リモートで接続して直接監視を行います。

死活監視のため、SigmaSystemCenter は管理サーバから VMware ESXi への接続を確認し、接続不可の場合は "マシンアクセス不可障害" イベントを SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報し、"マシンアクセス不可能障害" から復旧した場合は、"マシンアクセス復旧" イベントを SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報します。また、ディスクのアクセス状況についても、定期的にチェックを行い、チェックが失敗した場合、"ハードディスク障害" イベントを SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報します。

◆ 最適配置機能

最適配置が提供する負荷分散機能では、現在グループに存在するすべての仮想マシンサーバを利用しても、高負荷状態を解消し得る状態ではないと判断した場合、"スケールアウト提案" イベントを SigmaSystemCenter のポリシー制御処理に通報します。

また、リソースプールの "消費"、および "実際に消費" の量を監視し、閾値を超過、もしくは下回った場合、リソースプール消費量に関するイベントを SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報します。

◆ Out-of-Band Management 管理

管理対象マシンの BMC から直接 PET を受信し、管理することによってハードウェアに関わる異常、障害を検出することができます。ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent によるハードウェア障害イベントに相当するイベントを検出しますが、大きな違いとしては、OS 上のサービスを利用しないため、OS がアクセス不能な状態においてもこれらの異常を検出することができます。

筐体の電圧や温度などを監視し、ハードウェアが致命的な障害状況になることを予兆し、HW 予兆系のイベントとして SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報することを可能とします。

注: ESMPRO/ServerAgent がインストールされている管理対象マシンでは、PET の送信は行われず、ESMPRO/ServerAgent からの通報のみとなります。しかし、ハードウェア障害発生のタイミングによっては、ESMPRO/ServerAgent の通報と PET の両方が送信される場合があります。その場合でも、ESMPRO/ServerManager で管理されているマシンについては、PET を契機とした OOB Management イベントは発生しません。

◆ Microsoft Failover Cluster 経由の監視

管理対象マシンが、Microsoft Failover Cluster で管理された Hyper-V の仮想マシンサーバのノード、または仮想マシンである場合、SigmaSystemCenter は、Microsoft Failover Cluster からイベントを取得して、SigmaSystemCenter のポリシー制御処理へ通報を行います。

これらのマシンを管理対象とするには、サブシステムから Hyper-V クラスタを追加します。

Microsoft Failover Cluster は、高可用化されたシステムであり、そこで動作する仮想マシンは、当然ながら高可用化されています。例えば、仮想マシンに異常が発生した場合には、この仮想マシンは Microsoft Failover Cluster により異なるノードへ Failover されます。SigmaSystemCenter では、Microsoft Failover Cluster が検出するノード停止や仮想マシンの障害イベントを取得して、構成情報データベースへの反映、管理者への通報などを行うことが、主な運用形態となります。

本節では、これらの監視製品、コンポーネントが検出できる障害、および検出イベントの確認方法について説明します。

1.2.1. ESMPRO/ServerManager経由で検出できる障害

ESMPRO/ServerManager 経由で検出できる障害には、以下の様なものがあります。

以下の障害イベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[通報元] に "SystemMonitorEvent" を指定することで確認でき、[イベント] には、下表のソース名とイベント ID を合わせた値 (例えば、ESMFSSERVICE[0XC00403E8]) が表示されます。

関連情報: 障害の詳細については、以下の ESMPRO 製品ホームページの「ESMPRO アラート一覧」を参照してください。

http://www.nec.co.jp/pfsoft/smsa/download.html

イベント区分	ESMPRO/ServerManager 検出イベント		
	ソース名	イベント ID	概要
ハードディスク復旧可能障害	ESMMYLEXSERVICE	0X800403E9	システムドライブCRITICAL
	ESMAMISERVICE	0X800403E9	AMI論理デバイスDegraded
	ESMAMISERVICE	0X800403F1	AMIアレイコントローラバッテリー充電異常
	ESMAMISERVICE	0XC00403F2	AMIアレイコントローラバッテリー異常
	ESMDISKARRAY	0X800403E9	Disk Array 論理デバイス Critical
	ASMBENOTIFY	0X0000200C	アレイを構成する物理デバイスがダウン
	ASMBENOTIFY	0X0000200D	アレイを構成する物理デバイスが消滅
	ASMBENOTIFY	0X0000200E	物理デバイス障害でアレイがオフライン
	ASMBENOTIFY	0X00002023	アレイはDegraded状態
	ASMBENOTIFY	0X0000205C	リビルド完了 アレイはdegraded状態
	ASMBENOTIFY	0X0000B00E	デバイスが故障
	ASMBENOTIFY	0X0000B033	アレイはデグレード
	ASMBENOTIFY	0X0000B034	セカンドレベルアレイはデグレード
	ASMBENOTIFY	0X0000B036	アレイはデグレード
	ASMBENOTIFY	0X0000B037	セカンドレベルアレイはデグレード
	RAIDSRV	0X80000192	論理ドライブ縮退
ハードディスク交換障害	ESMMYLEXSERVICE	0XC00403EB	物理デバイスDEAD
	ESMMYLEXSERVICE	0X800403F0	物理デバイス予防保守: 閾値オーバー
	ESMAMISERVICE	0XC00403ED	AMI物理デバイスFailed
	ESMAMISERVICE	0XC00403F3	AMI物理デバイス予防保守エラー
	ESMDISKARRAY	0XC00403F3	Disk Array 物理デバイス Dead
	ESMDISKARRAY	0XC00403F7	Disk Array 物理デバイス Dead
	ESMDISKARRAY	0X800403FC	Disk Array 物理デバイス S.M.A.R.T.警告
	ESMSTORAGESERVICE	0X800403E8	ハードディスク予防保守: 閾値オーバー

イベント区分	ESMPRO/ServerManager 検出イベント		
	ソース名	イベント ID	概要
	ESMSTORAGESERVICE	0X800403E9	ハードディスク予防保守: S.M.A.R.T エラー
	ASMBENOTIFY	0X00002014	I/Oエラーによりリビルド中止
	ASMBENOTIFY	0X00002017	I/OエラーによりVerify中止
	ASMBENOTIFY	0X00002019	I/OエラーによりInitialize中止
	ASMBENOTIFY	0X0000202D	I/Oエラーによりリビルドの開始不可
	ASMBENOTIFY	0X00002035	Initializeが完了直前に失敗
	ASMBENOTIFY	0X00002038	スケジュール起動のリビルドの開始に失敗
	ASMBENOTIFY	0X00002039	スケジュール起動のVerifyの開始に失敗
	ASMBENOTIFY	0X0000204E	Verifyの開始に失敗 アレイのメンバはFailed
	ASMBENOTIFY	0X00002059	ホットスペアが障害
	ASMBENOTIFY	0X00002085	Verify with fixがI/Oエラーで異常終了
	ASMBENOTIFY	0X00002090	アレイメンバの物理デバイスにS.M.A.R.T.エラーを検出
	ASMBENOTIFY	0X00002091	アレイに未構成の物理デバイスにS.M.A.R.T.エラーを検出
	ASMBENOTIFY	0X00002094	I/OエラーによってVerify中止
	ASMBENOTIFY	0X000020AD	デバイスが故障
	ASMBENOTIFY	0X0000B069	アレイはフォーマット待ちのため使用不能
	ASMBENOTIFY	0X0000B090	訂正されないECCエラー発生
	ASMBENOTIFY	0X0000B11E	診断チェック失敗によりチャネルはオフライン
	ASMBENOTIFY	0X0000B11F	過度の再初期化によりチャネルはオフライン
	ASMBENOTIFY	0X0000B121	バスリセット失敗によりチャネルはオフライン
	ASMBENOTIFY	0X0000B122	PCIバスエラーによりチャネルはオフライン
	ASMBENOTIFY	0X0000B123	初期化失敗によりチャネルはオフライン
	RAIDSRV	0X80000131	S.M.A.R.T.エラー
	RAIDSRV	0XC0000130	物理デバイス故障
ハードディスク障害	ESMMYLEXSERVICE	0XC00403EA	システムドライブOFFLINE
	ESMAMISERVICE	0XC00403EA	AMI論理デバイスOffline

イベント区分	ESMPRO/ServerManager 検出イベント		
	ソース名	イベント ID	概要
	ESMDISKARRAY	0XC00403EA	Disk Array 論理デバイス Offline
	ESMDISKARRAY	0XC00403EC	Disk Array 論理デバイス Offline
	ESMDISKARRAY	0X80040407	Disk Array オプション通報 警告
	ESMDISKARRAY	0XC0040408	Disk Array オプション通報 異常
	ASMBENOTIFY	0X0000200F	物理デバイスが障害か未接続でアレイがオフライン
	ASMBENOTIFY	0X0000B057	アレイは使用不能
	ASMBENOTIFY	0X0000B058	セカンドレベルアレイは使用不能
	ASMBENOTIFY	0X0000B05A	アレイは複数ドライブの故障により使用不能
	ASMBENOTIFY	0X0000B05B	セカンドレベルアレイは複数ドライブの故障により使用不能
	ASMBENOTIFY	0X0000B06A	セカンドレベルアレイはフォーマット待ちのため使用不能
	RAIDSRV	0XC0000193	論理ドライブオフライン
CPU負荷障害	ESMCPUPERF	0XC0000064	システムCPU異常高負荷
	ESMCPUPERF	0XC0000068	システムCPU異常高負荷
	ESMCPUPERF	0X80000066	システムCPU高負荷
	ESMCPUPERF	0X8000006A	システムCPU高負荷
CPU縮退障害	ESMCOMMONSERVICE	0X800002BD	CPU縮退状態
	ESMCOMMONSERVICE	0X800002BF	CPU縮退状態
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000838	CPU縮退
CPU障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000451	CPU内部エラー
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000454	CPU熱暴走
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000523	プロセッサ無効
	ESMCOMMONSERVICE	0xC0000947	プロセッサー異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000B04	CPUセルフテストエラー
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000B07	CPU初期化エラー
CPU温度異常障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000454	CPU熱暴走
メモリ縮退障害	ESMCOMMONSERVICE	0X800002BE	メモリ縮退状態
	ESMCOMMONSERVICE	0X800002C6	メモリ縮退状態
	ESMCOMMONSERVICE	0X80000515	POSTメモリリサイズ
	ESMCOMMONSERVICE	0X8000051A	キャッシュ縮退
	ESMCOMMONSERVICE	0XC000051C	キャッシュECC複数Bitエラー
メモリ障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC000044C	ECC複数ビットエラー

イベント区分	ESMPRO/ServerManager 検出イベント		
	ソース名	イベント ID	概要
	ESMCOMMONSERVICE	0XC00008FC	修正不可能メモリエラー
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000903	修正不可能メモリエラー
	ESMCOMMONSERVICE	0xC0000959	メモリ異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000B18	メモリパリティエラー
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000B24	メモリ温度異常
メモリ不足	ESMCOMMONSERVICE	0X80000BC2	メモリ使用量警告
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000BC0	メモリ使用量異常
マシンアクセス不可能障害	ESMDSVNT	0XC0000002	SNMPサービスアクセス不能
HW予兆:筐体温度異常障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000066	システム温度異常低温
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000070	システム温度異常低温
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000064	システム温度異常高温
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000072	システム温度異常高温
	ESMCOMMONSERVICE	0XC000093E	温度異常
HW予兆:電源装置異常障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000915	電源縮退
HW予兆:電圧異常障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC00001FD	電圧異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC00001FF	電圧異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000203	電圧異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000205	電圧異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000932	電圧異常
HW予兆:ファン/冷却装置異常障害	ESMCOMMONSERVICE	0XC00000C8	ファン異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC00000D0	ファン異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC00000D2	ファン異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC00000D6	ファン異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC00000D8	ファン異常
	ESMCOMMONSERVICE	0XC0000A8C	水冷ユニット液漏れ異常
ハードディスク復旧可能障害の回復	ESMMYLEXSERVICE	0X400403E8	システムドライブ ONLINE
	ESMMYLEXSERVICE	0X400403EC	物理デバイス REBUILD中
	ESMMYLEXSERVICE	0X400403ED	物理デバイス ONLINE
	ESMMYLEXSERVICE	0X400403EE	物理デバイス HOTSPARE
	ESMMYLEXSERVICE	0X800403EF	物理デバイス 物理デバイス REBUILD中断中
	ESMAMISERVICE	0X400403E8	AMI論理デバイス Optimal
	ESMAMISERVICE	0X400403EB	AMI論理デバイス CheckConsistency

イベント区分	ESMPRO/ServerManager 検出イベント		
	ソース名	イベント ID	概要
	ESMAMISERVICE	0X400403EC	AMI物理デバイス Online
	ESMAMISERVICE	0X400403EE	AMI物理デバイス Rebuild
	ESMAMISERVICE	0X400403EF	AMI物理デバイス Hot Spare
	ESMDISKARRAY	0X400403E8	Disk Array 論理デバイス Online
	ESMDISKARRAY	0X400403EB	Disk Array 論理デバイス Consistency Check
	ESMDISKARRAY	0X400403F2	Disk Array 物理デバイス Online
	ESMDISKARRAY	0X400403F4	Disk Array 物理デバイス Rebuild
	ESMDISKARRAY	0X400403F5	Disk Array 物理デバイス Hot Spare
	ESMDISKARRAY	0X400403F6	Disk Array 物理デバイス Ready
	ESMDISKARRAY	0X40040406	Disk Array オプション通報 正常
	ASMBENOTIFY	0X00002013	リビルド正常終了
	ASMBENOTIFY	0X0000B02D	アレイは正常
	RAIDSRV	0X40000191	論理ドライブオンライン
CPU負荷障害回復	ESMCPUPERF	0X40000067	システムCPU高負荷回復
	ESMCPUPERF	0X4000006B	システムCPU高負荷回復
	ESMCPUPERF	0X80000065	システムCPU異常高負荷回復
	ESMCPUPERF	0X80000069	システムCPU異常高負荷回復
CPU温度異常回復	ESMCOMMONSERVICE	0X 40000949	CPU熱暴走回復
メモリ不足回復	ESMCOMMONSERVICE	0X80000BC1	メモリ使用量異常回復
	ESMCOMMONSERVICE	0X40000BC3	メモリ使用量回復
マシンアクセス復旧	ESMDSVNT	0X40000001	SNMPサービスアクセス回復
HW予兆：筐体温度異常障害回復	ESMCOMMONSERVICE	0X8000006B	システム温度高温異常回復
	ESMCOMMONSERVICE	0X8000006A	システム温度低温異常回復
HW予兆：電圧異常障害回復	ESMCOMMONSERVICE	0X800001FE	電圧異常回復
	ESMCOMMONSERVICE	0X80000204	電圧異常回復
	ESMCOMMONSERVICE	0X40000BAD	電圧回復
HW予兆：ファン/冷却装置異常障害回復	ESMCOMMONSERVICE	0X800000D1	ファン異常回復
	ESMCOMMONSERVICE	0X800000D7	ファン異常回復
	ESMCOMMONSERVICE	0X400002C3	冷却装置縮退状態
	ESMCOMMONSERVICE	0X400000CD	ファン異常回復
クラスタ：ノード停止	CLUSTERPRO	0XC00008A4	サーバダウン
	CLUSTERPRO X	0X40000002	サーバダウン

イベント区分	ESMPRO/ServerManager 検出イベント		
	ソース名	イベント ID	概要
	EXPRESSCLUSTER X	0X40000002	サーバダウン
クラスタ:ネットワーク障害	CLUSTERPRO	0XC0005217	パブリックLAN異常
		0XC000521B	パブリックLAN異常
		0XC000521C	パブリックLAN異常
		0XC000521D	パブリックLAN異常
ファイルシステム空き容量異常	ESMFSSERVICE	0XC00403E8	ファイルシステム空き容量:異常
	ESMFSSERVICE	0X800403E9	ファイルシステム空き容量:警告
ファイルシステム空き容量回復	ESMFSSERVICE	0X400403EA	ファイルシステム空き容量:正常

1.2.2. ESMPRO/ServerManager経由で検出できるイベントを確認するには

ESMPRO/ServerManager 経由で検出できるイベントは、ESMPRO/ServerAgent 側の「監視対象の書き出し」機能を使用することで参照可能です。以下の手順に従ってイベントを参照してください。

注: 以下は、Windows 版向けの確認手順です。

Linux 版 ESMPRO/ServerAgent で検出できるイベントについては、以下の URL にて公開している [SNMP トラップ一覧] の "Manager" 列が "ON" のイベントを参照してください。

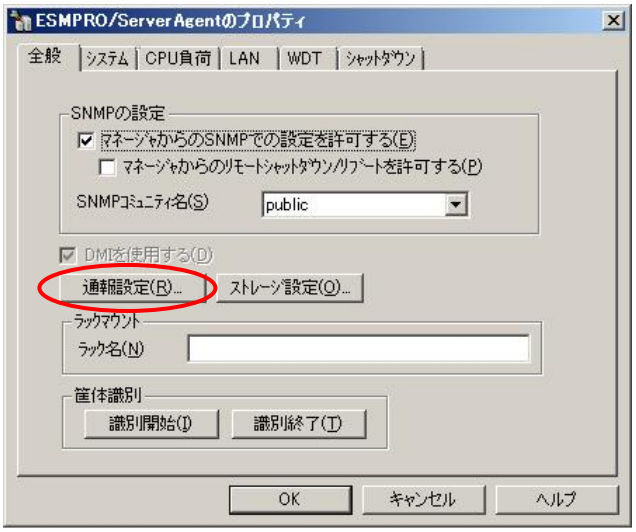
http://www.express.nec.co.jp/linux/dload/esmpro/docs.html

ただし、通報連携する他の製品については、SNMP トラップ一覧に記載はありません。

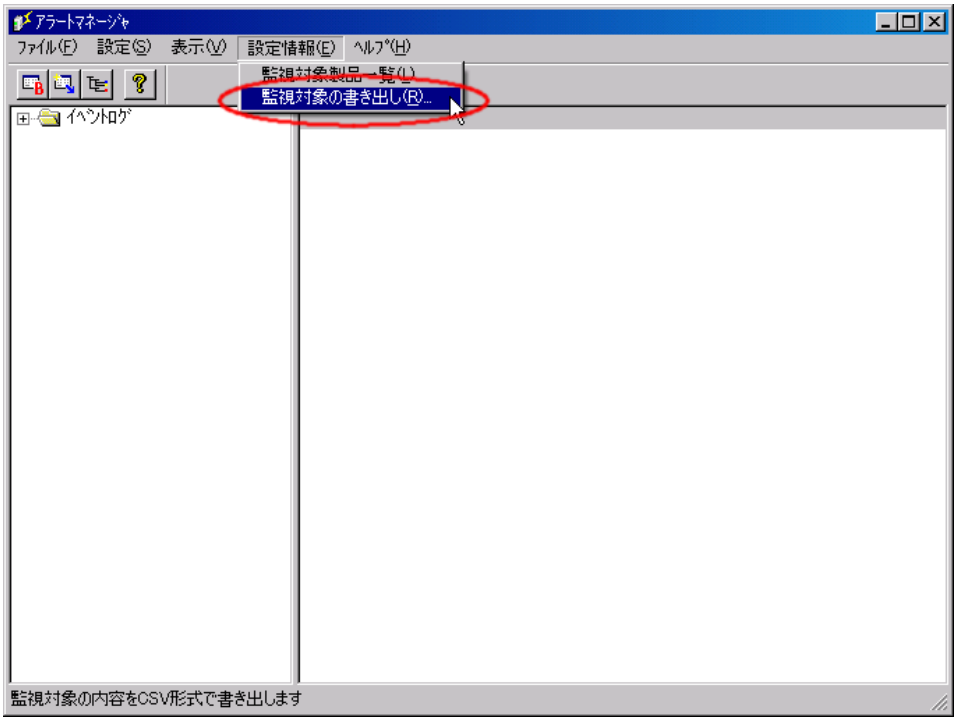
また、ESMPRO/ServerAgent の監視設定を既定値から変更している場合は、実際とは異なる場合があります。

1. ESMPRO/ServerAgent 側のコントロールパネルから [ESMPRO ServerAgent] を起動します。

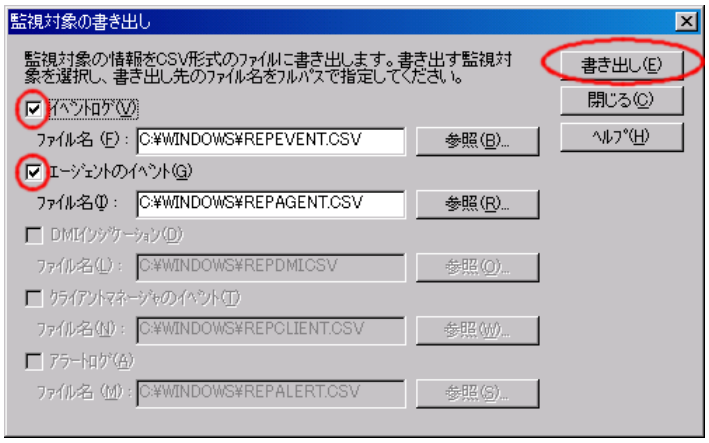
2. [全般] タブの [通報設定(R)] をクリックし、通報設定ツールを起動します。



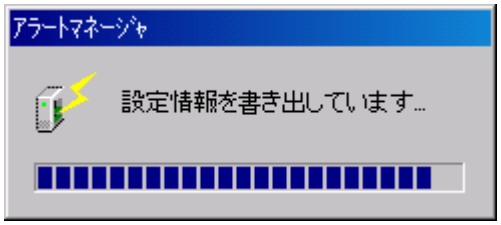
3. 通報設定ツールのメニューから [設定情報(E)] ― [監視対象の書き出し(R)] をクリックします。



4. 「監視対象の書き出し」ダイアログが表示されます。[イベントログ(V)] チェックボックス、および [エージェントのイベント(G)] チェックボックスをオンにし、[書き出し(E)] をクリックします。



5. ファイルへ監視対象の書き出しを開始します。監視対象の書き出し中は以下のダイアログが表示されます。



6. 監視対象の書き出しが終了すると、上のダイアログは消えます。

以上で、監視対象の書き出しは完了です。

書き出されたファイルは、ファイルの 1 行目はヘッダ行、2 行目以降にデータを CSV 形式で作成されたものです。"マネージャ" のフィールドが "YES" になっているイベントを参照してください。

注: SigmaSystemCenter が ESMPRO/ServerManager 経由で検出できるイベントは、ServerAgent の既定の監視対象イベントのみです。ServerAgent の監視対象を既定値から変更している場合は、正確に確認できない場合があります。

1.2.3. SystemProvisioningで検出できる障害一覧

SystemProvisioning 経由で検出できる障害は、以下の通りです。

以下の障害イベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[通報元] に "AliveMonitor" を指定することで確認できます。

イベント区分	イベント ID	イベント名	説明
マシンアクセス不可能障害	[PeriodicalAliveMonitor] TargetDown	マシンへのアクセスに失敗しました。	Ping 応答無し、または指定ポートのいずれかに接続できなかった。 仮想マシンサーバが対象の場合は、仮想マシンサーバとして機能していない。

- 250 台を超えるマシンを Port 監視の対象とする場合、以下の式を目安に [最大同時監視数]、および [最大監視時間] の設定変更を行ってください (初期設定では、250 台のマシンが Port 監視可能です)。
- 式: (Port 監視対象マシン台数) * 20 [sec] / (最大同時監視数) < (最大監視時間)
- [最大同時監視数] を増やした場合、一度の監視にかかる時間は短くなりますが、管理サーバの負荷が増加します。また、[最大監視時間] を増やした場合、管理サーバの負荷は減少しますが、一度の監視にかかる時間が長くなります。

注: SystemProvisioning で行う死活監視の対象となるマシンの台数、およびマシンの電源状態などによっては、監視に時間がかかる場合があります。すべての対象マシンの監視にかかった時間が設定した監視間隔より長い場合、運用ログに以下のメッセージが表示されます。運用ログに以下のメッセージが出力される場合、監視間隔の見直しを行ってください。

定期死活監視: 一度の監視が終わりました。 監視に x[sec]かかっています。

定期死活監視の監視間隔は x sec と設定されています。

関連情報: 監視間隔の設定については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.4.9 死活監視の設定を行うには」を参照してください。

1.2.4. SystemMonitor性能監視で検出できる障害イベント

SystemMonitor 性能監視では、監視対象マシンの負荷状態を監視して、閾値超過時と回復時に SystemProvisioning へイベントとして通報することができます。また、VM 最適配置機能を使用している場合には、仮想マシンサーバの負荷が、高負荷境界を上回った場合に VM サーバ高負荷イベントを、低負荷境界を下回った場合に VM サーバ低負荷イベントを通報します。SystemMonitor 性能監視から通報されるイベントのイベント区分は、以下の通りです。以下の障害イベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[通報元] に "SystemMonitorPerf" を指定することで確認できます。

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
マシン用カスタム通報	10000001	マシン用カスタム通報1	対象マシンの性能データが閾値超過した / 超過状態から回復した ※1
	10000002	マシン用カスタム通報2	
	10000003	マシン用カスタム通報3	
	10000004	マシン用カスタム通報4	
	10000005	マシン用カスタム通報5	
	10000006	マシン用カスタム通報6	
	10000007	マシン用カスタム通報7	
	10000008	マシン用カスタム通報8	
	10000009	マシン用カスタム通報9	
	1000000A	マシン用カスタム通報10	
グループ用カスタム通報	11000001	グループ用カスタム通報1	対象グループの性能データが閾値超過した / 超過状態から回復した ※1
	11000002	グループ用カスタム通報2	
	11000003	グループ用カスタム通報3	
	11000004	グループ用カスタム通報4	
	11000005	グループ用カスタム通報5	
VMサーバ用通報	11000006	VMサーバ高負荷	仮想マシンサーバのCPU使用率が高負荷境界を上回った ※2
	11000007	VMサーバ低負荷	仮想マシンサーバのCPU使用率が低負荷境界を下回った ※2
CPU負荷障害	20000107	CPU Usage (%) 上限異常超過	CPU負荷が閾値超過した ※1
	20000407	CPU Usage (MHz) 上限異常超過	
	20000B07	Guest CPU Usage (%) 上限異常超過	
	20000C07	Guest CPU Usage (MHz) 上限異常超過	
CPU負荷障害回復	20000106	CPU Usage (%) 上限異常回復	CPU負荷が超過状態から回復した ※1
	20000406	CPU Usage (MHz) 上限異常回復	
	20000B06	Guest CPU Usage (%) 上限異常回復	
	20000C06	Guest CPU Usage (MHz) 上限異常回復	
メモリ不足	20003D03	Physical Memory Space (MB) 下限異常超過	メモリが不足になった ※1
	20003E03	Physical Memory Space Ratio (%) 下限異常超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20004707	Guest Memory Usage (%) 上限異常超過	
	20004807	Guest Memory Usage (MB) 上限異常超過	
メモリ不足回復	20003D02	Physical Memory Space (MB) 下限異常回復	メモリが不足状態から回復した ※1
	20003E02	Physical Memory Space Ratio (%) 下限異常回復	
	20004706	Guest Memory Usage (%) 上限異常回復	
	20004806	Guest Memory Usage (MB) 上限異常回復	
その他	20000100	CPU Usage (%) 下限警告回復	上記のCPU、メモリ以外のビルトイン性能情報の性能データが閾値超過した / 超過状態から回復した ※1
	20000101	CPU Usage (%) 下限警告超過	
	20000102	CPU Usage (%) 下限異常回復	
	20000103	CPU Usage (%) 下限異常超過	
	20000104	CPU Usage (%) 上限警告回復	
	20000105	CPU Usage (%) 上限警告超過	
	20000200	CPU System Usage (%) 下限警告回復	
	20000201	CPU System Usage (%) 下限警告超過	
	20000202	CPU System Usage (%) 下限異常回復	
	20000203	CPU System Usage (%) 下限異常超過	
	20000204	CPU System Usage (%) 上限警告回復	
	20000205	CPU System Usage (%) 上限警告超過	
	20000206	CPU System Usage (%) 上限異常回復	
	20000207	CPU System Usage (%) 上限異常超過	
	20000300	CPU User Usage (%) 下限警告回復	
	20000301	CPU User Usage (%) 下限警告超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20000302	CPU User Usage (%) 下限異常回復	
	20000303	CPU User Usage (%) 下限異常超過	
	20000304	CPU User Usage (%) 上限警告回復	
	20000305	CPU User Usage (%) 上限警告超過	
	20000306	CPU User Usage (%) 上限異常回復	
	20000307	CPU User Usage (%) 上限異常超過	
	20000400	CPU Usage (MHz) 下限警告回復	
	20000401	CPU Usage (MHz) 下限警告超過	
	20000402	CPU Usage (MHz) 下限異常回復	
	20000403	CPU Usage (MHz) 下限異常超過	
	20000404	CPU Usage (MHz) 上限警告回復	
	20000405	CPU Usage (MHz) 上限警告超過	
	20000B00	Guest CPU Usage (%) 下限警告回復	
	20000B01	Guest CPU Usage (%) 下限警告超過	
	20000B02	Guest CPU Usage (%) 下限異常回復	
	20000B03	Guest CPU Usage (%) 下限異常超過	
	20000B04	Guest CPU Usage (%) 上限警告回復	
	20000B05	Guest CPU Usage (%) 上限警告超過	
	20000C00	Guest CPU Usage (MHz) 下限警告回復	
	20000C01	Guest CPU Usage (MHz) 下限警告超過	
	20000C02	Guest CPU Usage (MHz) 下限異常回復	
	20000C03	Guest CPU Usage (MHz) 下限異常超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20000C04	Guest CPU Usage (MHz) 上限警告回復	
	20000C05	Guest CPU Usage (MHz) 上限警告超過	
	20000D00	Host CPU Usage (%) 下限警告回復	
	20000D01	Host CPU Usage (%) 下限警告超過	
	20000D02	Host CPU Usage (%) 下限異常回復	
	20000D03	Host CPU Usage (%) 下限異常超過	
	20000D04	Host CPU Usage (%) 上限警告回復	
	20000D05	Host CPU Usage (%) 上限警告超過	
	20000D06	Host CPU Usage (%) 上限異常回復	
	20000D07	Host CPU Usage (%) 上限異常超過	
	20000E00	Host CPU Usage (MHz) 下限警告回復	
	20000E01	Host CPU Usage (MHz) 下限警告超過	
	20000E02	Host CPU Usage (MHz) 下限異常回復	
	20000E03	Host CPU Usage (MHz) 下限異常超過	
	20000E04	Host CPU Usage (MHz) 上限警告回復	
	20000E05	Host CPU Usage (MHz) 上限警告超過	
	20000E06	Host CPU Usage (MHz) 上限異常回復	
	20000E07	Host CPU Usage (MHz) 上限異常超過	
	20001500	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20001501	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20001502	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	
	20001503	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20001504	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20001505	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20001506	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20001507	Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20001600	Disk IO Count (IO/sec) 下限警告回復	
	20001601	Disk IO Count (IO/sec) 下限警告超過	
	20001602	Disk IO Count (IO/sec) 下限異常回復	
	20001603	Disk IO Count (IO/sec) 下限異常超過	
	20001604	Disk IO Count (IO/sec) 上限警告回復	
	20001605	Disk IO Count (IO/sec) 上限警告超過	
	20001606	Disk IO Count (IO/sec) 上限異常回復	
	20001607	Disk IO Count (IO/sec) 上限異常超過	
	20001700	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20001701	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20001702	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	
	20001703	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20001704	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20001705	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20001706	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20001707	Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20001800	Disk Read Count (IO/sec) 下限警告回復	
	20001801	Disk Read Count (IO/sec) 下限警告超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20001802	Disk Read Count (IO/sec) 下限異常回復	
	20001803	Disk Read Count (IO/sec) 下限異常超過	
	20001804	Disk Read Count (IO/sec) 上限警告回復	
	20001805	Disk Read Count (IO/sec) 上限警告超過	
	20001806	Disk Read Count (IO/sec) 上限異常回復	
	20001807	Disk Read Count (IO/sec) 上限異常超過	
	20001900	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20001901	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20001902	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	
	20001903	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20001904	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20001905	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20001906	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20001907	Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20001A00	Disk Write Count (IO/sec) 下限警告回復	
	20001A01	Disk Write Count (IO/sec) 下限警告超過	
	20001A02	Disk Write Count (IO/sec) 下限異常回復	
	20001A03	Disk Write Count (IO/sec) 下限異常超過	
	20001A04	Disk Write Count (IO/sec) 上限警告回復	
	20001A05	Disk Write Count (IO/sec) 上限警告超過	
	20001A06	Disk Write Count (IO/sec) 上限異常回復	
	20001A07	Disk Write Count (IO/sec) 上限異常超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20001B00	Disk Space (MB) 下限警告回復	
	20001B01	Disk Space (MB) 下限警告超過	
	20001B02	Disk Space (MB) 下限異常回復	
	20001B03	Disk Space (MB) 下限異常超過	
	20001B04	Disk Space (MB) 上限警告回復	
	20001B05	Disk Space (MB) 上限警告超過	
	20001B06	Disk Space (MB) 上限異常回復	
	20001B07	Disk Space (MB) 上限異常超過	
	20001C00	Disk Space Ratio (%) 下限警告回復	
	20001C01	Disk Space Ratio (%) 下限警告超過	
	20001C02	Disk Space Ratio (%) 下限異常回復	
	20001C03	Disk Space Ratio (%) 下限異常超過	
	20001C04	Disk Space Ratio (%) 上限警告回復	
	20001C05	Disk Space Ratio (%) 上限警告超過	
	20001C06	Disk Space Ratio (%) 上限異常回復	
	20001C07	Disk Space Ratio (%) 上限異常超過	
	20001F00	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20001F01	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20001F02	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	
	20001F03	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20001F04	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20001F05	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20001F06	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20001F07	Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20002500	Guest Disk Usage (MB) 下限警告回復	
	20002501	Guest Disk Usage (MB) 下限警告超過	
	20002502	Guest Disk Usage (MB) 下限異常回復	
	20002503	Guest Disk Usage (MB) 下限異常超過	
	20002504	Guest Disk Usage (MB) 上限警告回復	
	20002505	Guest Disk Usage (MB) 上限警告超過	
	20002506	Guest Disk Usage (MB) 上限異常回復	
	20002507	Guest Disk Usage (MB) 上限異常超過	
	20002600	Guest Disk Usage (%) 下限警告回復	
	20002601	Guest Disk Usage (%) 下限警告超過	
	20002602	Guest Disk Usage (%) 下限異常回復	
	20002603	Guest Disk Usage (%) 下限異常超過	
	20002604	Guest Disk Usage (%) 上限警告回復	
	20002605	Guest Disk Usage (%) 上限警告超過	
	20002606	Guest Disk Usage (%) 上限異常回復	
	20002607	Guest Disk Usage (%) 上限異常超過	
	20002900	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20002901	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20002902	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20002903	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20002904	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20002905	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20002906	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20002907	Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20002A00	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20002A01	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20002A02	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	
	20002A03	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20002A04	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20002A05	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20002A06	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20002A07	Network Packet Reception Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20002B00	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20002B01	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20002B02	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20002B03	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20002B04	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20002B05	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20002B06	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20002B07	Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20003300	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告回復	
	20003301	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 下限警告超過	
	20003302	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常回復	
	20003303	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 下限異常超過	
	20003304	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告回復	
	20003305	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 上限警告超過	
	20003306	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常回復	
	20003307	Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec) 上限異常超過	
	20003D00	Physical Memory Space (MB) 下限警告回復	
	20003D01	Physical Memory Space (MB) 下限警告超過	
	20003D04	Physical Memory Space (MB) 上限警告回復	
	20003D05	Physical Memory Space (MB) 上限警告超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20003D06	Physical Memory Space (MB) 上限異常回復	
	20003D07	Physical Memory Space (MB) 上限異常超過	
	20003E00	Physical Memory Space Ratio (%) 下限警告回復	
	20003E01	Physical Memory Space Ratio (%) 下限警告超過	
	20003E04	Physical Memory Space Ratio (%) 上限警告回復	
	20003E05	Physical Memory Space Ratio (%) 上限警告超過	
	20003E06	Physical Memory Space Ratio (%) 上限異常回復	
	20003E07	Physical Memory Space Ratio (%) 上限異常超過	
	20004700	Guest Memory Usage (%) 下限警告回復	
	20004701	Guest Memory Usage (%) 下限警告超過	
	20004702	Guest Memory Usage (%) 下限異常回復	
	20004703	Guest Memory Usage (%) 下限異常超過	
	20004704	Guest Memory Usage (%) 上限警告回復	
	20004705	Guest Memory Usage (%) 上限警告超過	
	20004800	Guest Memory Usage (MB) 下限警告回復	
	20004801	Guest Memory Usage (MB) 下限警告超過	
	20004802	Guest Memory Usage (MB) 下限異常回復	
	20004803	Guest Memory Usage (MB) 下限異常超過	
	20004804	Guest Memory Usage (MB) 上限警告回復	
	20004805	Guest Memory Usage (MB) 上限警告超過	
	20004900	Host Memory Usage (%) 下限警告回復	
	20004901	Host Memory Usage (%) 下限警告超過	

イベント区分	イベント ID	イベント名	概要
	20004902	Host Memory Usage (%) 下限異常回復	
	20004903	Host Memory Usage (%) 下限異常超過	
	20004904	Host Memory Usage (%) 上限警告回復	
	20004905	Host Memory Usage (%) 上限警告超過	
	20004906	Host Memory Usage (%) 上限異常回復	
	20004907	Host Memory Usage (%) 上限異常超過	
	20004A00	Host Memory Usage (MB) 下限警告回復	
	20004A01	Host Memory Usage (MB) 下限警告超過	
	20004A02	Host Memory Usage (MB) 下限異常回復	
	20004A03	Host Memory Usage (MB) 下限異常超過	
	20004A04	Host Memory Usage (MB) 上限警告回復	
	20004A05	Host Memory Usage (MB) 上限警告超過	
	20004A06	Host Memory Usage (MB) 上限異常回復	
	20004A07	Host Memory Usage (MB) 上限異常超過	
	20006500	Current Power (W) 下限警告回復	
	20006501	Current Power (W) 下限警告超過	
	20006502	Current Power (W) 下限異常回復	
	20006503	Current Power (W) 下限異常超過	
	20006504	Current Power (W) 上限警告回復	
	20006505	Current Power (W) 上限警告超過	
	20006506	Current Power (W) 上限異常回復	
	20006507	Current Power (W) 上限異常超過	

※1　通報内容、閾値設定は、SystemMonitor性能監視、もしくはSystemProvisioningで指定します。

※2　境界値は、SystemProvisioningで指定します。

- マシン用カスタム通報: マシン単体での性能障害イベントの通報に使用します。例えば、あるマシンについて、CPU 使用率が閾値を超過したことを契機に復旧処理を実施する場合などに利用できます。アクションとしては、マシン単位の復旧処理 (シャットダウン、リブート、置換など) を設定してください。
- グループ用カスタム通報: グループでの性能障害イベントの通報に使用します。例えば、あるグループについて、グループ配下のマシンの CPU 使用率の平均値が閾値を超過したことを契機に復旧処理を実施する場合などに利用できます。アクションとしては、グループとしての復旧処理 (スケールイン、スケールアウトなど) を設定してください。
- VM サーバ用通報: VM 最適配置機能を使用する場合に、性能障害イベントの通報に使用します。VM 最適配置での復旧処理 (VMS ロードバランス、VMS のパワーセーブ) を設定してください。
- CPU 負荷障害: CPU 負荷障害イベントの通報に使用します。
- CPU 負荷障害回復: CPU 負荷が障害状態から回復するイベントの通報に使用します。
- メモリ不足: 未使用のメモリ容量が不足になる障害イベントの通報に使用します。
- メモリ不足回復: 未使用のメモリ容量が不足状態から回復する障害イベントの通報に使用します。
- その他: CPU、メモリ以外のビルトイン性能情報の障害イベント、回復イベントの通報に使用します。

カスタム通報イベントとビルトイン通報イベントが通報するイベントの内容は、SigmaSystemCenter の Web コンソールでは、監視プロファイル設定の閾値監視設定で設定します。また、SystemMonitor 性能監視の管理コンソールでは、閾値監視設定の閾値定義設定で設定します。

関連情報: SystemProvisioning へ性能障害イベントを通報するための、SystemMonitor 性能監視の設定手順の詳細については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」を参照してください。

1.2.5. VMware (vCenter Server) 連携機能で検出できる障害一覧

VMware (vCenter Server) 連携で検出できる仮想マシン、および仮想マシンサーバの障害は、以下の通りです。

以下の障害イベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[通報元] に "VMwareProvider" を指定することで確認できます。

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
仮想マシンサーバ接続状態	マシンアクセス復旧	Alarm Host connection state on VMS changed from gray to green	仮想マシンサーバからの応答が復活した
	マシンアクセス不可能障害	Alarm Host connection state on VMS changed from gray to red	仮想マシンサーバからの応答がなくなった
	その他	Alarm Host connection state on VMS changed from green to gray	仮想マシンサーバからの応答がなくなった
	マシンアクセス不可能障害	Alarm Host connection state on VMS changed from green to red	仮想マシンサーバからの応答がなくなった
	その他	Alarm Host connection state on VMS changed from red to gray	仮想マシンサーバからの応答がなくなった
	マシンアクセス復旧	Alarm Host connection state on VMS changed from red to green	仮想マシンサーバからの応答が復活した
仮想マシンサーバCPU使用率	CPU高負荷障害回復	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from gray to green	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from gray to yellow	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	CPU高負荷障害	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from gray to red	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from green to gray	仮想マシンサーバのCPU使用率が不明になった
	その他	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from green to yellow	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	CPU高負荷障害	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from green to red	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from yellow to gray	仮想マシンサーバのCPU使用率が不明になった

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	CPU高負荷障害回復	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from yellow to green	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	CPU高負荷障害	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from yellow to red	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from red to gray	仮想マシンサーバのCPU使用率が不明になった
	CPU高負荷障害回復	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from red to green	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Host CPU Usage on VMS changed from red to yellow	仮想マシンサーバのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 90%)
仮想マシンサーバメモリ使用率	メモリ不足回復	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from gray to green	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from gray to yellow	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	メモリ不足	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from gray to red	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from green to gray	仮想マシンサーバのメモリ使用率が不明になった
	その他	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from green to yellow	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	メモリ不足	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from green to red	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from yellow to gray	仮想マシンサーバのメモリ使用率が不明になった

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	メモリ不足回復	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from yellow to green	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	メモリ不足	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from yellow to red	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from red to gray	仮想マシンサーバのメモリ使用率が不明になった
	メモリ不足回復	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from red to green	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Host Memory Usage on VMS changed from red to yellow	仮想マシンサーバのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 90%)
データストア割り当て率	その他	Alarm DataStore Overallocation on disk on DATASTORE changed from gray to green	データストアの割り当て率がn%未満になった。 (既定値:400%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from gray to yellow	データストアの割り当て率がn%未満になった。 (既定値:700%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from gray to red	データストアの割り当て率がn%以上になった。 (既定値:700%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from green to gray	データストアの割り当て率が不明になった。
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from green to yellow	データストアの割り当て率がn%未満になった。 (既定値:700%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from green to red	データストアの割り当て率がn%以上になった。 (既定値:700%)

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from yellow to gray	データストアの割り当て率が不明になった。
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from yellow to green	データストアの割り当て率がn%未満になった。 (既定値:400%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from yellow to red	データストアの割り当て率がn%以上になった。 (既定値:700%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from red to gray.	データストアの割り当て率が不明になった。
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from red to green	データストアの割り当て率がn%未満になった。 (既定値:400%)
	その他	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from red to yellow	データストアの割り当て率がn%未満になった。 (既定値:700%)
データストア使用率	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from gray to green	データストア使用率がn%未満になった。 (既定値:75)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from gray to yellow	データストア使用率がn%未満になった。 (既定値:85)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from gray to red	データストア使用率がn%以上になった。 (既定値:85)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from green to gray	データストア使用率が不明になった。
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from green to yellow	データストア使用率がn%未満になった。 (既定値:85)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from green to red	データストア使用率がn%以上になった。 (既定値:85)

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from yellow to gray	データストア使用率が不明になった。
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from yellow to green	データストア使用率がn%未満になった。 (既定値:75)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from yellow to red	データストア使用率がn%以上になった。 (既定値:85)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from red to gray	データストア使用率が不明になった。
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from red to green	データストア使用率がn%未満になった。 (既定値:75)
	その他	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from red to yellow	データストア使用率がn%未満になった。 (既定値:85)
データストアの接続状態	ハードディスク障害	Storage path connectivity on VMS is lost	データストアに接続できない。
	ハードディスク障害	VMFS heartbeat on VMS is timedout	VMFSボリュームの接続が低下した。
	その他	Storage path redundancy on VMS is lost	ストレージの冗長性がなくなった。
	その他	Storage path redundancy on VMS is degraded	ストレージの冗長性が低下した。
ネットワークの接続状態	その他	Network connectivity on VMS is lost	ネットワークに接続できない。
	その他	Network redundancy on VMS is lost	ネットワークの冗長性がなくなった。
	その他	Network redundancy on VMS is degraded	ネットワークの冗長性が低下した。
StoragePathSavior for VMware 連携 ※2	その他	[NEC_SATP_SPS v1] LUN is not redundant	非冗長パスが存在する。
	ハードディスク障害	[NEC_SATP_SPS v1] Path state moved to DEAD From STATE on HBA	パス障害が発生した。
	その他	[NEC_SATP_SPS v1] Path state moved to UNAVAILABLE From STATE on HBA	使用しないパスが存在する。

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	ハードディスク障害	[NEC_SATP_SPS v1] Path state moved to PERM_LOSS From STATE on HBA	PDL対象ステータスを検出した。
	その他	[NEC_SATP_SPS v1] Path HBA cannot be failbacked automatically	間欠障害を検出した。
仮想マシンハートビート状態	マシンアクセス復旧	Alarm Virtual Machine Heartbeat on VM changed from gray to green	仮想マシンのハートビート値が閾値以上になった
	マシンアクセス不可能障害	Alarm Virtual Machine Heartbeat on VM changed from gray to red	仮想マシンのハートビート値が閾値以下になった
	その他	Alarm Virtual Machine Heartbeat on VM changed from green to gray	仮想マシンのハートビート値が不明
	マシンアクセス不可能障害	Alarm Virtual Machine Heartbeat on VM changed from green to red	仮想マシンのハートビート値が閾値以下になった
	その他	Alarm Virtual Machine Heartbeat on VM changed from red to gray	仮想マシンのハートビート値が不明
	マシンアクセス復旧	Alarm Virtual Machine Heartbeat on VM changed from red to green	仮想マシンのハートビート値が閾値以上になった
仮想マシン電源状態	マシンアクセス復旧	VM on VMS in DC is powered on	仮想マシンが電源オン状態になった
	マシンアクセス不可能障害	VM on VMS in DC is powered off	仮想マシンが電源オフ状態になった
	その他	VM on VMS in DC is suspended	仮想マシンがサスペンド状態になった
仮想マシンCPU使用率	CPU高負荷障害回復	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from gray to green	仮想マシンのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from gray to yellow	仮想マシンのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	CPU高負荷障害	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from gray to red	仮想マシンのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 90%)

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	その他	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from green to gray	仮想マシンのCPU使用率が不明になった
	その他	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from green to yellow	仮想マシンのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	CPU高負荷障害	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from green to red	仮想マシンのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from yellow to gray	仮想マシンのCPU使用率が不明になった
	CPU高負荷障害回復	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from yellow to green	仮想マシンのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	CPU高負荷障害	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from yellow to red	仮想マシンのCPU使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from red to gray	仮想マシンのCPU使用率が不明になった
	CPU高負荷障害回復	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from red to green	仮想マシンのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Virtual Machine CPU Usage on VM changed from red to yellow	仮想マシンのCPU使用率がn%未満になった (既定値: 90%)
仮想マシンメモリ使用率	メモリ不足回復	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from gray to green	仮想マシンのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from gray to yellow	仮想マシンのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	メモリ不足	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from gray to red	仮想マシンのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from green to gray	仮想マシンのメモリ使用率が不明になった

分類	イベント区分	障害	説明 ※1
	その他	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from green to yellow	仮想マシンのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 75%)
	メモリ不足	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from green to red	仮想マシンのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from yellow to gray	仮想マシンのメモリ使用率が不明になった
	メモリ不足回復	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from yellow to green	仮想マシンのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	メモリ不足	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from yellow to red	仮想マシンのメモリ使用率がn%以上になった (既定値: 90%)
	その他	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from red to gray	仮想マシンのメモリ使用率が不明になった
	メモリ不足回復	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from red to green	仮想マシンのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 75%)
	その他	Alarm Virtual Machine Memory Usage on VM changed from red to yellow	仮想マシンのメモリ使用率がn%未満になった (既定値: 90%)

※1　CPU使用率、メモリ使用率、データストア使用率、データストア割り当て率の閾値設定は、vCenter Serverで変更可能

※2　ESXにStoragePathSavior for VMwareがインストールされ、vCenter Serverで設定する必要があります。

注:

- 仮想マシン起動時に仮想マシンハートビート状態の「仮想マシンのハートビート値が閾値以下になった」のイベントが検出される場合があります。この場合は、障害イベントの抑制機能を有効にしてください。

設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.10.5 ポリシープロパティを設定するには」を参照してください。

- 仮想マシンハートビート状態、およびデータストア割り当て率のイベントのアラーム定義は既定では無効です。仮想マシンハートビート状態のイベントを有効にするには、下記のレジストリを作成 / 変更し、PVM サービスの再起動を行ってください。

キー名:
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥PVM¥Provider¥VM¥VMware¥Event

値名 (型): DisableHeartbeatEvent (REG_DWORD)

値: 0

データストア割り当て率のイベントを有効にするには下記のレジストリを作成 / 変更し、PVM サービスの再起動を行ってください。

キー名:
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥PVM¥Provider¥VM¥VMware¥Event

値名 (型): DisableDatastore (REG_DWORD)

値: 0

1.2.6. VMware (ESXi) 連携機能で検出できる障害一覧

VMware (ESXi) 連携で検出できる仮想マシン、および仮想マシンサーバの障害は、以下の通りです。

以下の障害イベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[通報元] に "StandaloneEsxProvider" を指定することで確認できます。

イベント区分	障害	説明
ハードディスク障害	Alarm Datastore on VMS can not be available	仮想マシンサーバからデータストアが使用できなくなった。
	VMFS heartbeat on VMS is timedout	VMFSボリュームの接続が低下した。
StoragePathSavior for VMware 連携 ※1	[NEC_SATP_SPS v1] LUN is not redundant	非冗長パスが存在する。
	[NEC_SATP_SPS v1] Path state moved to DEAD From STATE on HBA	パス障害が発生した。
	[NEC_SATP_SPS v1] Path state moved to UNAVAILABLE From STATE on HBA	使用しないパスが存在する。
	[NEC_SATP_SPS v1] Path state moved to PERM_LOSS From STATE on HBA	PDL対象ステータスを検出した。

イベント区分	障害	説明
	[NEC_SATP_SPS v1] Path HBA cannot be failbacked automatically	間欠障害を検出した。
マシンアクセス不可能障害	Alarm Host connection state on VMS changed from green to red	仮想マシンサーバからの応答がなくなった
マシンアクセス復旧	Alarm Host connection state on VMS changed from red to green	仮想マシンサーバからの応答が復活した

※1　ESXにStoragePathSavior for VMwareがインストールされ、vCenter Serverで設定する必要があります。

注:

- PVM サービスの再起動、仮想マシンサーバの再起動操作を行うと、既に通報した "ハードディスク障害" イベントが再度通報される場合があります。
- データストアのチェック中にネットワーク障害が発生すると、ハードディスク障害が通報される場合があります。

1.2.7. 最適配置機能で検出できるイベント一覧

最適配置機能で検出できるイベントの一覧は、以下の通りです。

最適配置機能が通報するイベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[イベント区分] に VM 最適配置通報を選択することで確認できます。

イベント区分	イベント	イベント名	説明
VM最適配置通報	Scaleout Recommendation	スケールアウト提案	負荷分散の結果、移動が可能な仮想マシンを検出したが、移動先として利用可能なVMサーバがサーバグループ内に存在しない。
VM最適配置通報	Resource-Pool Critical Asserted	リソースプール消費量 警告(致命的)通知	リソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト100%) を超えた項目を検出した。
VM最適配置通報	Resource-Pool Warning Asserted	リソースプール消費量 警告通知	リソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト80%) を超えた項目を検出した。
VM最適配置通報	Resource-Pool Info Asserted	リソースプール消費量 情報通知	リソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト60%) を超えた項目を検出した。

イベント区分	イベント	イベント名	説明
VM最適配置通報	Resource-Pool Critical Deasserted	リソースプール消費量 警告(致命的)通知解除	リソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト100%) を下回った項目を検出した。
VM最適配置通報	Resource-Pool Warning Deasserted	リソースプール消費量 警告通知解除	リソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト80%) を下回った項目を検出した。
VM最適配置通報	Resource-Pool Info Deasserted	リソースプール消費量 情報通知解除	リソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト60%) を下回った項目を検出した。
VM最適配置通報	Sub-Resource-Pool Critical Asserted	サブリソースプール消費量 警告(致命的)通知	サブリソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト100%) を超えた項目を検出した。
VM最適配置通報	Sub-Resource-Pool Warning Asserted	サブリソースプール消費量 警告通知	サブリソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト80%) を超えた項目を検出した。
VM最適配置通報	Sub-Resource-Pool Info Asserted	サブリソースプール消費量 情報通知	サブリソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト60%) を超えた項目を検出した。
VM最適配置通報	Sub-Resource-Pool Critical Deasserted	サブリソースプール消費量 警告(致命的)通知解除	サブリソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト100%) を下回った項目を検出した。
VM最適配置通報	Sub-Resource-Pool Warning Deasserted	サブリソースプール消費量 警告通知解除	サブリソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト80%) を下回った項目を検出した。
VM最適配置通報	Sub-Resource-Pool Info Deasserted	サブリソースプール消費量 情報通知解除	サブリソースプールの消費量、もしくは実際の消費量について、閾値 (デフォルト60%) を下回った項目を検出した。

注: "スケールアウト提案"、およびリソースプールの消費量通知イベントは、グループに対するリソース不足を通報します。グループとしての復旧処理を設定してください (マシン単位の復旧処理には利用できません)。

なお、最適配置機能を検出できるイベントは、SystemProvisioning の内部イベントであるため、設定不要です。

1.2.8. Out-of-Band Management管理で検出できるイベント一覧

Out-of-Band Management 管理で検出できる管理対象マシンのハードウェア障害は、以下の通りです。

以下のイベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[イベント区分] にイベントが属するイベント区分を下記の表から確認して指定し、[通報元] に"OobManagement"を指定することで確認できます。

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
温度	HW:予兆:筐体温度異常障害	[PET] 0x00010102	Temperature: Lower Critical - going low	温度下限危険値を下回りました
		[PET] 0x00010104	Temperature: Lower Non-recoverable - going low	温度下限回復不能値を下回りました
		[PET] 0x00010109	Temperature: Upper Critical - going high	温度上限危険値を上回りました
		[PET] 0x0001010B	Temperature: Upper Non-recoverable - going high	温度上限回復不能値を上回りました
	HW:予兆:筐体温度異常障害回復	[PET] 0x80010102	Temperature: Lower Critical - going high	温度下限危険値から回復しました
		[PET] 0x80010109	Temperature: Upper Critical - going low	温度上限危険値から回復しました
	その他	[PET] 0x00010100	Temperature: Lower Non-critical - going low	温度下限警告値を下回りました
		[PET] 0x80010100	Temperature: Lower Non-critical - going high	温度下限警告値から回復しました
		[PET] 0x80010104	Temperature: Lower Non-recoverable - going high	温度下限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x00010107	Temperature: Upper Non-critical - going high	温度上限警告値を上回りました
		[PET] 0x80010107	Temperature: Upper Non-critical - going low	温度上限警告値から回復しました
		[PET] 0x8001010B	Temperature: Upper Non-recoverable - going low	温度上限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x00010301	Temperature: Monitoring event occurred	温度異常が発生しました
		[PET] 0x80010301	Temperature: Monitoring event cleared	温度異常から回復しました
		[PET] 0x00010501	Temperature: Limit Exceeded	温度が限界を超えました
		[PET] 0x80010501	Temperature: Limit Not Exceeded	温度が安定値になりました
		[PET] 0x00010700	Temperature: Transition to OK	温度が正常になりました
		[PET] 0x80010700	Temperature: Transition to Abnormal	温度異常が発生しました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00010701	Temperature: Transition to Non-Critical	温度が警告レベルになりました
		[PET] 0x00010702	Temperature: Transition to Critical	温度が危険レベルになりました
		[PET] 0x00010703	Temperature: Transition to Non-recoverable	温度が回復不能レベルになりました。
電圧	HW予兆: 電圧異常障害	[PET] 0x00020102	Voltage: Lower Critical - going low	電圧下限危険値を下回りました
		[PET] 0x00020104	Voltage: Lower Non-recoverable - going low	電圧下限回復不能値を下回りました
		[PET] 0x00020109	Voltage: Upper Critical - going high	電圧上限危険値を上回りました
		[PET] 0x0002010B	Voltage: Upper Non-recoverable - going high	電圧上限回復不能値を上回りました
		[PET] 0x00020703	Voltage: Transition to Non-recoverable	電圧が回復不能レベルになりました
	HW予兆: 電圧異常障害回復	[PET] 0x80020102	Voltage: Lower Critical - going high	電圧下限危険値から回復しました
		[PET] 0x80020109	Voltage: Upper Critical - going low	電圧上限危険値から回復しました
		[PET] 0x00020700	Voltage: Transition to OK	電圧が正常になりました
	その他	[PET] 0x00020100	Voltage: Lower Non-critical - going low	電圧下限警告値を下回りました
		[PET] 0x80020100	Voltage: Lower Non-critical - going high	電圧下限警告値から回復しました
		[PET] 0x80020104	Voltage: Lower Non-recoverable - going high	電圧下限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x00020107	Voltage: Upper Non-critical - going high	電圧上限警告値を上回りました
		[PET] 0x80020107	Voltage: Upper Non-critical - going low	電圧上限警告値から回復しました
		[PET] 0x8002010B	Voltage: Upper Non-recoverable - going low	電圧上限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x00020301	Voltage: Monitoring event occurred	電圧異常が発生しました
		[PET] 0x80020301	Voltage: Monitoring event cleared	電圧異常から回復しました
		[PET] 0x00020501	Voltage: Limit Exceeded	電圧が限界を超えました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x80020501	Voltage: Limit Not Exceeded	電圧が安定値になりました
		[PET] 0x00020601	Voltage: Performance Lags	電圧の警告を検知しました
		[PET] 0x80020601	Voltage: Performance Met	電圧の警告が回復しました
		[PET] 0x80020700	Voltage: Transition to Abnormal	電圧異常が発生しました
		[PET] 0x00020701	Voltage: Transition to Non-Critical	電圧が警告レベルになりました
		[PET] 0x00020702	Voltage: Transition to Critical	電圧が危険レベルになりました
電力/電流	その他	[PET] 0x00030301	Current: Monitoring event occurred	電力/電流異常が発生しました
		[PET] 0x80030301	Current: Monitoring event cleared	電力/電流異常が回復しました
		[PET] 0x00030501	Current: Limit Exceeded	電力/電流が限界値を超えました
		[PET] 0x80030501	Current: Limit Not Exceeded	電力/電流が安定値になりました
FAN	HW予兆:ファン/冷却装置異常障害	[PET] 0x00040102	Fan(Speed): Lower Critical - going low	FANの回転数が下限危険値を下回りました
		[PET] 0x00040104	Fan(Speed): Lower Non-recoverable - going low	FANの回転数が下限回復不能値を下回りました
		[PET] 0x00040109	Fan(Speed): Upper Critical - going high	FANの回転数が上限危険値を上回りました
		[PET] 0x0004010B	Fan(Speed): Upper Non-recoverable - going high	FANの回転数が上限回復不能値を上回りました
		[PET] 0x00040301	Fan(Speed): Monitoring event occurred	FAN異常が発生しました
	HW予兆:ファン/冷却装置異常障害回復	[PET] 0x80040102	Fan(Speed): Lower Critical - going high	FANの回転数が下限危険値から回復しました
		[PET] 0x80040109	Fan(Speed): Upper Critical - going low	FANの回転数が上限危険値から回復しました
		[PET] 0x80040301	Fan(Speed): Monitoring event cleared	FAN異常から回復しました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
	その他	[PET] 0x00040100	Fan(Speed): Lower Non-critical - going low	FANの回転数が下限警告値を下回りました
		[PET] 0x80040100	Fan(Speed): Lower Non-critical - going high	FANの回転数が下限警告値から回復しました
		[PET] 0x80040104	Fan(Speed): Lower Non-recoverable - going high	FANの回転数が下限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x00040107	Fan(Speed): Upper Non-critical - going high	FANの回転数が上限警告値を上回りました
		[PET] 0x80040107	Fan(Speed): Upper Non-critical - going low	FANの回転数が上限警告値から回復しました
		[PET] 0x8004010B	Fan(Speed): Upper Non-recoverable - going low	FANの回転数が上限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x00040401	Fan(Speed): Predictive Failure occurred	FANの状態が限界を超えました
		[PET] 0x80040401	Fan(Speed): Predictive Failure cleared	FANの状態が安定値になりました
		[PET] 0x00040601	Fan(Speed): Performance Lags	FANの状態の警告を検知しました
		[PET] 0x80040601	Fan(Speed): Performance Met	FANの状態の警告が回復しました
		[PET] 0x00040700	Fan(Speed): Transition to OK	FANの状態が正常になりました
		[PET] 0x80040700	Fan(Speed): Transition to Abnormal	FANの状態異常が発生しました
		[PET] 0x00040701	Fan(Speed): Transition to Non-Critical	FANの状態が警告レベルになりました
		[PET] 0x00040702	Fan(Speed): Transition to Critical	FANの状態が危険レベルになりました
		[PET] 0x00040703	Fan(Speed): Transition to Non-recoverable	FANの状態が回復不能レベルになりました
		[PET] 0x00040B00	Fan(Speed): Redundancy Full	FANは冗長構成です
		[PET] 0x00040B01	Fan(Speed): Redundancy Lost	FANの冗長性がなくなりました
		[PET] 0x00040B02	Fan(Speed): Redundancy Degraded	FANの冗長性がなくなりましたが、動作可能です

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00040B03	Fan(Speed): Non-Redundant(Sufficient Resources)	FANが非冗長構成です
		[PET] 0x00040B05	Fan(Speed): Non-Redundant(Insufficient Resources)	FANが非冗長構成です。動作する十分な機能がありません
セキュリティ	その他	[PET] 0x00050301	Physical Security(Chassis Intrusion): Monitoring event occurred	カバーが開きました
		[PET] 0x80050301	Physical Security(Chassis Intrusion): Monitoring event cleared	カバーが閉じました
		[PET] 0x00056F00	Physical Security(Chassis Intrusion): General Chassis Intrusion occurred	カバーが開きました
		[PET] 0x80056F00	Physical Security(Chassis Intrusion): General Chassis Intrusion cleared	カバーが閉じました
		[PET] 0x00056F01	Physical Security(Chassis Intrusion): Drive Bay Intrusion occurred	ドライブベイのカバーが開きました
		[PET] 0x80056F01	Physical Security(Chassis Intrusion): Drive Bay Intrusion cleared	ドライブベイのカバーが閉じました
		[PET] 0x00056F02	Physical Security(Chassis Intrusion): I/O Card area Intrusion occurred	IOカードエリアのカバーが開きました
		[PET] 0x80056F02	Physical Security(Chassis Intrusion): I/O Card area Intrusion cleared	IOカードエリアのカバーが閉じました
		[PET] 0x00056F03	Physical Security(Chassis Intrusion): Processor area Intrusion occurred	CPUエリアのカバーが開きました
		[PET] 0x80056F03	Physical Security(Chassis Intrusion): Processor area Intrusion cleared	CPUエリアのカバーが閉じました
		[PET] 0x00056F04	Physical Security(Chassis Intrusion): LAN Leash Lost (System is unplugged from LAN) occurred	LANケーブルが外されました
		[PET] 0x80056F04	Physical Security(Chassis Intrusion): LAN Leash Lost (System is unplugged from LAN) cleared	LANケーブルが繋がれました
		[PET] 0x00056F05	Physical Security(Chassis Intrusion): Unauthorized dock occurred	不正な接続が発生しました
		[PET] 0x80056F05	Physical Security(Chassis Intrusion): Unauthorized dock cleared	不正な接続が取り外されました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00056F06	Physical Security(Chassis Intrusion): FAN area intrusion occurred	FANカバーが開きました
		[PET] 0x80056F06	Physical Security(Chassis Intrusion): FAN area intrusion cleared	FANカバーが閉じました
セキュリティ違反	その他	[PET] 0x00066F00	Platform Security Violation Attempt: Secure Mode (Front Panel Lockout) Violation attempt	フロントパネルの鍵が開かれました
		[PET] 0x00066F01	Platform Security Violation Attempt: Pre-boot Password Violation - user password	不正なユーザパスワードです
		[PET] 0x00066F02	Platform Security Violation Attempt: Pre-boot Password Violation - setup password	不正なセットアップパスワードです
		[PET] 0x00066F03	Platform Security Violation Attempt: Pre-boot Password Violation - network boot password	不正なネットワークブートパスワードです
		[PET] 0x00066F04	Platform Security Violation Attempt: Other pre-boot Password Violation	その他不正なパスワードです
		[PET] 0x00066F05	Platform Security Violation Attempt: Out-of-band Access Password Violation	OOBアクセスパスワード違反です
CPU	CPU障害	[PET] 0x00070702	Processor: Transition to Critical	CPUは危険状態になりました
		[PET] 0x00070703	Processor: Transition to Non-recoverable	CPUが回復不能状態になりました
		[PET] 0x00076F00	Processor: IERR occurred	CPU内部エラーが発生しました
		[PET] 0x00076F02	Processor: FRB1/BIST failure occurred	CPUエラーが発生しました
		[PET] 0x00076F04	Processor: FRB3/Processor Startup/Initialization failure (CPU didn't start) occurred	初期化エラーが発生しました
		[PET] 0x00076F08	Processor: Processor disabled	CPUが無効状態になりました
	CPU温度異常障害	[PET] 0x00076F01	Processor: Thermal Trip occurred	CPU熱暴走が発生しました。
	CPU温度異常障害回復	[PET] 0x80076F01	Processor: Thermal Trip cleared	CPU熱暴走がおさまりました
	その他	[PET] 0x00070700	Processor: Transition to OK	CPUは正常状態になりました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x80070700	Processor: Transition to Abnormal	CPUが異常状態になりました
		[PET] 0x00070701	Processor: Transition to Non-Critical	CPUが警告状態になりました
		[PET] 0x80076F00	Processor: IERR cleared	CPU内部エラーから回復しました
		[PET] 0x80076F02	Processor: FRB1/BIST failure cleared	CPUエラーが回復しました
		[PET] 0x00076F03	Processor: FRB2/Hang in POST failure occurred	POSTストールが発生しました
		[PET] 0x80076F03	Processor: FRB2/Hang in POST failure cleared	POSTストールが回復しました
		[PET] 0x80076F04	Processor: FRB3/Processor Startup/Initialization failure (CPU didn't start) cleared	初期化エラーが回復しました
		[PET] 0x00076F05	Processor: Configuration Error occurred	CPU設定エラーが発生しました
		[PET] 0x80076F05	Processor: Configuration Error cleared	CPU設定エラーが回復しました
		[PET] 0x00076F06	Processor: SM BIOS 'Uncorrectable CPU-complex Error' occurred	システムバス上でシステムエラーが発生しました
		[PET] 0x80076F06	Processor: SM BIOS 'Uncorrectable CPU-complex Error' cleared	システムバス上でのシステムエラーが回復しました
		[PET] 0x00076F07	Processor: Processor Presence detected	CPUが実装されています
		[PET] 0x80076F07	Processor: Processor Removed	CPUが取り外されました
		[PET] 0x80076F08	Processor: Processor Enabled	CPUが有効になりました
		[PET] 0x00076F09	Processor: Terminator Presence Detected	ターミネータが実装されています
		[PET] 0x80076F09	Processor: Terminator Removed	ターミネータが取り外されました
		[PET] 0x00076F0A	Processor: Processor Automatically Throttled	CPU自動スロットルが発生しました。
		[PET] 0x80076F0A	Processor: Processor Recovered from Automatically Throttled	CPU自動スロットルが回復しました
電力供給装置	その他	[PET] 0x00080301	Power Supply: Monitoring event occurred	電力供給装置に異常が発生しました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x80080301	Power Supply: Monitoring event cleared	電力供給装置の異常が回復しました
		[PET] 0x00080700	Power Supply: Transition to OK	電力供給装置は正常状態になりました。
		[PET] 0x80080700	Power Supply: Transition to Abnormal	電力供給装置が異常状態になりました
		[PET] 0x00080701	Power Supply: Transition to Non-Critical	電力供給装置が警告状態になりました
		[PET] 0x00080702	Power Supply: Transition to Critical	電力供給装置が危険状態になりました
		[PET] 0x00080703	Power Supply: Transition to Non-recoverable	電力供給装置が回復不能状態になりました
		[PET] 0x00080B00	Power Supply: Redundancy Full	電力供給装置は冗長構成です
		[PET] 0x00080B01	Power Supply: Redundancy Lost	電力供給装置の冗長性がなくなりました
		[PET] 0x00080B02	Power Supply: Redundancy Degraded	電力供給装置の冗長性がなくなりましたが、動作可能です
		[PET] 0x00080B03	Power Supply: Non-Redundant(Sufficient Resources)	電力供給装置が非冗長構成です
		[PET] 0x00080B05	Power Supply: Non-Redundant(Insufficient Resources)	電力供給装置が非冗長構成です。動作する十分な機能がありません
		[PET] 0x00086F00	Power Supply: Presence detected	電力供給装置が検出されました
		[PET] 0x80086F00	Power Supply: Removed	電力供給装置が取り外されました
		[PET] 0x00086F01	Power Supply: Power Supply Failure detected	電力供給装置異常が検出されました
		[PET] 0x80086F01	Power Supply: Power Supply Recovered	電力供給装置が回復しました
		[PET] 0x00086F02	Power Supply: Predictive Failure detected	電力供給装置にて障害予兆が検出されました
		[PET] 0x00086F03	Power Supply: Power Supply input lost (AC/DC)	電力供給装置の入力電力が途絶えました
		[PET] 0x00086F04	Power Supply: Power Supply input lost or out-of-range	電力供給装置の入力電力が途絶えた、もしくは定格外となりました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00086F05	Power Supply: Power Supply input out-of-range, but present	電力供給装置の入力電力が定格外となりました
		[PET] 0x00086F06	Power Supply: Configuration error occurred	電力供給装置の設定エラーが発生しました
電力装置	HW予兆: 電源装置異常障害	[PET] 0x00090B05	Power Unit: Non-Redundant(Insufficient Resources)	電力装置が非冗長構成です。動作する十分な機能がありません
	その他	[PET] 0x00090901	Power Unit: Device Enabled	電力装置が有効になりました
		[PET] 0x80090901	Power Unit: Device Disabled	電力装置が無効になりました
		[PET] 0x00090B00	Power Unit: Redundancy Full	電力装置は冗長状態です
		[PET] 0x00090B01	Power Unit: Redundancy Lost	電力装置が非冗長状態になりました
		[PET] 0x00090B02	Power Unit: Redundancy Degraded	電力装置の冗長性がなくなりましたが、動作可能です
		[PET] 0x00090B03	Power Unit: Non-Redundant(Sufficient Resources)	電力装置が非冗長構成です
		[PET] 0x00090C00	Power Unit: D0 Power State	Device Power StateがD0状態です
		[PET] 0x00090C01	Power Unit: D1 Power State	Device Power StateがD1状態です
		[PET] 0x00090C02	Power Unit: D2 Power State	Device Power StateがD2状態です
		[PET] 0x00090C03	Power Unit: D3 Power State	Device Power StateがD3状態です
		[PET] 0x00096F00	Power Unit: Power Off / Power Down	電源OFF状態です
		[PET] 0x80096F00	Power Unit: Power ON	電源ON状態です
		[PET] 0x00096F01	Power Unit: Power Cycle	Power-Cycleが実行されました
		[PET] 0x00096F02	Power Unit: 240VA Power Down	240VAがPower Downしました
		[PET] 0x00096F03	Power Unit: Interlock Power Down	サイドカバーがオープンされたため強制電源断が実行されました
		[PET] 0x00096F04	Power Unit: AC lost	ACが断絶しました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00096F05	Power Unit: Soft Power Control Failure (unit did not respond to request to turn on)	ソフトウェアによる電源操作に失敗しました
		[PET] 0x80096F05	Power Unit: Soft Power Control Failure cleared	ソフトウェアによる電源操作が回復しました
		[PET] 0x00096F06	Power Unit: Power Unit Failure detected	電源異常が発生しました
		[PET] 0x80096F06	Power Unit: Power Unit Failure cleared	電源異常から回復しました
		[PET] 0x00096F07	Power Unit: Predictive Failure detected	電源の障害予兆が検出されました
		[PET] 0x80096F07	Power Unit: Predictive Failure cleared	電源の障害予兆が解消されました
冷却装置	HW予兆:ファン/冷却装置異常障害	[PET] 0x000A0102	Cooling Device: Lower Critical - going low	冷却装置が下限危険値を下回りました
		[PET] 0x000A0104	Cooling Device: Lower Non-recoverable - going low	冷却装置が下限回復不能値を下回りました
		[PET] 0x000A0109	Cooling Device: Upper Critical - going high	冷却装置が上限危険値を上回りました
		[PET] 0x000A010B	Cooling Device: Upper Non-recoverable - going high	冷却装置が上限回復不能値を上回りました
		[PET] 0x000A0702	Cooling Device: Transition to Critical	冷却装置の状態が危険レベルになりました。 液漏れの可能性があります
	HW予兆:ファン/冷却装置異常障害回復	[PET] 0x800A0102	Cooling Device: Lower Critical - going high	冷却装置が下限危険値から回復しました
		[PET] 0x800A0109	Cooling Device: Upper Critical - going low	冷却装置が上限危険値から回復しました
		[PET] 0x000A0700	Cooling Device: Transition to OK	冷却装置が正常になりました
	その他	[PET] 0x000A0100	Cooling Device: Lower Non-critical - going low	冷却装置が下限警告値を下回りました
		[PET] 0x800A0100	Cooling Device: Lower Non-critical - going high	冷却装置が下限警告値から回復しました
		[PET] 0x800A0104	Cooling Device: Lower Non-recoverable - going high	冷却装置が下限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x000A0107	Cooling Device: Upper Non-critical - going high	冷却装置が上限警告値を上回りました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x800A0107	Cooling Device: Upper Non-critical - going low	冷却装置が上限警告値から回復しました
		[PET] 0x800A010B	Cooling Device: Upper Non-recoverable - going low	冷却装置が上限回復不能値から回復しました
		[PET] 0x800A0700	Cooling Device: Transition to Abnormal	冷却装置異常が発生しました
		[PET] 0x000A0701	Cooling Device: Transition to Non-Critical	冷却装置の状態が警告レベルになりました
		[PET] 0x000A0703	Cooling Device: Transition to Non-recoverable	冷却装置の状態が回復不能レベルになりました。 液漏れの可能性があります
		[PET] 0x000A0B00	Cooling Device: Redundancy Full	冷却装置は冗長構成です
		[PET] 0x000A0B01	Cooling Device: Redundancy Lost	冷却装置の冗長性がなくなりました
		[PET] 0x000A0B02	Cooling Device: Redundancy Degraded	冷却装置の冗長性がなくなりましたが、動作可能です
		[PET] 0x000A0B03	Cooling Device: Non-Redundant(Sufficient Resources)	冷却装置が非冗長構成です
		[PET] 0x000A0B05	Cooling Device: Non-Redundant(Insufficient Resources)	冷却装置が非冗長構成です。動作する十分な機能がありません
メモリ	メモリ障害	[PET] 0x000C6F01	Memory: Uncorrectable ECC occurred	修正不能ECC エラーが発生しました
		[PET] 0x000C6F02	Memory: Memory Parity Error occurred	メモリ一部エラーが発生しました
		[PET] 0x000C0702	Memory: Transition to Critical	メモリが危険状態になりました
		[PET] 0x000C0703	Memory: Transition to Non-recoverable	メモリが回復不能状態になりました
	メモリ障害回復	[PET] 0x800C6F01	Memory: Uncorrectable ECC cleared	修正不能ECC エラーが回復しました
	その他	[PET] 0x000C0700	Memory: Transition to OK	メモリが正常になりました
		[PET] 0x800C0700	Memory: Transition to Abnormal	メモリが異常状態になりました
		[PET] 0x000C0701	Memory: Transition to Non-Critical	メモリが警告状態になりました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x000C0B00	Memory: Redundancy Full	メモリが冗長構成です
		[PET] 0x000C0B01	Memory: Redundancy Lost	メモリの冗長性がなくなりました
		[PET] 0x000C0B02	Memory: Redundancy Degraded	メモリの冗長性がなくなりましたが、動作可能です
		[PET] 0x000C0B03	Memory: Non-Redundant(Sufficient Resources)	メモリが非冗長構成です
		[PET] 0x000C0B05	Memory: Non-Redundant(Insufficient Resources)	メモリが非冗長構成です。動作する十分な機能がありません
		[PET] 0x000C6F00	Memory: Correctable ECC occurred	1Bitエラーが発生しました
		[PET] 0x800C6F00	Memory: Correctable ECC cleared	1Bitエラーが回復しました
		[PET] 0x800C6F02	Memory: Memory Parity Error cleared	メモリー部エラーが回復しました
		[PET] 0x000C6F03	Memory: Memory Scrub Failed (stuck bit)	メモリ スクラブ失敗
		[PET] 0x800C6F03	Memory: Memory Scrub Error cleared (stuck bit)	メモリスクラブエラーが回復しました
		[PET] 0x000C6F04	Memory: Memory Device Disabled	メモリが無効です
		[PET] 0x800C6F04	Memory: Memory Device Enabled	メモリが有効です
		[PET] 0x000C6F05	Memory: Correctable ECC / other correctable memory error logging limit reached	1bitエラーが多発しています
		[PET] 0x800C6F05	Memory: Correctable ECC have receded.	1bitエラーが沈静化しました
		[PET] 0x000C6F06	Memory: Presence detected	メモリが実装されています
		[PET] 0x800C6F06	Memory: Removed	メモリが取り外されました
		[PET] 0x000C6F07	Memory: Configuration error	メモリ設定エラーが発生しました
		[PET] 0x800C6F07	Memory: Configuration Error cleared	メモリ設定エラーが回復しました
		[PET] 0x000C6F08	Memory: Spare entity	メモリのスペアです
		[PET] 0x800C6F08	Memory: Not spare entity	プライマリメモリです

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x000C6F09	Memory: Memory Automatically Throttled.	メモリの自動スロットルが発生しました
		[PET] 0x800C6F09	Memory: Memory recovered from Automatically Throttled.	自動スロットル状態から回復しました
		[PET] 0x000C6F0A	Memory: Critical Overtemperature.	メモリの熱暴走が発生しました
		[PET] 0x800C6F0A	Memory: Memory Temperature Error Recovered	メモリの熱暴走から回復しました
スロット	その他	[PET] 0x000D0801	Drive Slot(Bay): Device Inserted/Device Present	スロットに装置が実装されています
		[PET] 0x800D0801	Drive Slot(Bay): Device Removed/Device Absent	スロットから装置が取り外されました
		[PET] 0x000D6F00	Drive Slot(Bay): Device Presence	スロットに装置が実装されています
		[PET] 0x800D6F00	Drive Slot(Bay): Removed	スロットから装置が取り外されました
		[PET] 0x000D6F01	Drive Slot(Bay): Drive Fault	スロットのドライブ装置故障です
		[PET] 0x800D6F01	Drive Slot(Bay): Drive Recovered	スロットのドライブ装置が回復しました
POSTメモリ	メモリ縮退障害	[PET] 0x000E0301	POST Memory Resize: Monitoring event occurred	メモリ縮退が発生しました
	メモリ障害回復	[PET] 0x800E0301	POST Memory Resize: Monitoring event cleared	メモリ縮退が回復しました
POSTエラー	その他	[PET] 0x000F0301	POST Error: Monitoring event occurred	POSTエラーが発生しました
		[PET] 0x800F0301	POST Error: Monitoring event cleared	POSTエラーが回復しました
		[PET] 0x000F6F00	POST Error: System Firmware Error.	ファームウェアエラーが発生しました
イベントログ	その他	[PET] 0x00106F00	Event Logging: Correctable Memory Error Logging Disabled	1bitエラーの記録が無効です
		[PET] 0x00106F01	Event Logging: Specific Event Logging Disabled	指定したイベントの記録が無効です
		[PET] 0x00106F02	Event Logging: Log Area Reset / Cleared	イベントログがすべて消去されました
		[PET] 0x00106F03	Event Logging: All Event Logging Disabled	すべてのイベントの記録が無効です

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00106F04	Event Logging: SEL Full	SEL記録領域に空きがありません。 SELを消去してください
		[PET] 0x00106F05	Event Logging: SEL Almost Full	SEL記録領域にほとんど空きがありません。 SELを消去してください
システムイベント	その他	[PET] 0x00126F00	System Event: System Reconfigured	システムが再構成されました
		[PET] 0x00126F01	System Event: OEM System Boot Event	OEM システム起動イベントが発生しました
		[PET] 0x00126F02	System Event: Undetermined system hardware failure	不明なハードウェアエラーが発生しました
割り込み	その他	[PET] 0x00136F00	Critical Interrupt: Front Panel NMI (Dump Switch)	ダンプスイッチが押されました
		[PET] 0x00136F01	Critical Interrupt: Bus Timeout(EISA/ISA Bus)	バスのタイムアウトが発生しました
		[PET] 0x00136F02	Critical Interrupt: I/O channel check NMI	I/Oチャネルチェックによる NMIが発生しました
		[PET] 0x00136F03	Critical Interrupt: Software NMI	ソフトウェアNMIが発生しました
		[PET] 0x00136F04	Critical Interrupt: PCI PERR	PCI PERRが発生しました
		[PET] 0x00136F05	Critical Interrupt: PCI SERR	PCI SERRが発生しました
		[PET] 0x00136F06	Critical Interrupt: EISA Fail Safe Timeout	EISA フェールセーフ Timeoutが発生しました
		[PET] 0x00136F07	Critical Interrupt: Bus Correctable Error	BUS 修正可能エラーが発生しました
		[PET] 0x00136F08	Critical Interrupt: Bus Uncorrectable Error	BUS 修正不可能エラーが発生しました
		[PET] 0x00136F09	Critical Interrupt: Fatal NMI (port61h bit7)	致命的なNMIが発生しました
		[PET] 0x00136F0A	Critical Interrupt: Bus Fatal error	致命的なBUSエラーが発生しました
ボタン/スイッチ	その他	[PET] 0x00140801	Button/Switch: Device Inserted/Device Present	ボタンが実装されています

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x80140801	Button/Switch: Device Removed/Device Absent	ボタンが取り外されました。
		[PET] 0x00146F00	Button/Switch: Power Button pressed	電源ボタンが押されました
		[PET] 0x00146F01	Button/Switch: Sleep Button pressed	スリープボタンが押されました
		[PET] 0x00146F02	Button/Switch: Reset Button pressed	リセットボタンが押されました
モジュール/ボード	その他	[PET] 0x00150301	Module/Board: Monitoring event occurred	モジュール異常が発生しました
		[PET] 0x80150301	Module/Board: Monitoring event cleared	モジュール異常が回復しました
		[PET] 0x00150700	Module/Board: Transition to OK	モジュールは正常状態になりました
		[PET] 0x80150700	Module/Board: Transition to Abnormal	モジュールが異常状態になりました
		[PET] 0x00150701	Module/Board: Transition to Non-Critical	モジュールは警告状態になりました
		[PET] 0x00150702	Module/Board: Transition to Critical	モジュールは危険状態になりました
		[PET] 0x00150703	Module/Board: Transition to Non-recoverable	モジュールは回復不能状態になりました
		[PET] 0x00150801	Module/Board: Device Inserted/Device Present	モジュールが実装されています
		[PET] 0x80150801	Module/Board: Device Removed/Device Absent	モジュールが取り外されました
筐体	その他	[PET] 0x00180700	Chassis: Transition to OK	筐体は正常になりました
		[PET] 0x80180700	Chassis: Transition to Abnormal	筐体が異常状態になりました
		[PET] 0x00180701	Chassis: Transition to Non-Critical	筐体が警告状態になりました
		[PET] 0x00180702	Chassis: Transition to Critical	筐体が危険状態になりました
		[PET] 0x00180703	Chassis: Transition to Non-recoverable	筐体が回復不能状態になりました
チップセット	その他	[PET] 0x00190700	Chip Set: Transition to OK	チップセットは正常になりました
		[PET] 0x80190700	Chip Set: Transition to Abnormal	チップセットが異常状態になりました
		[PET] 0x00190701	Chip Set: Transition to Non-Critical	チップセットが警告状態になりました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00190702	Chip Set: Transition to Critical	チップセットが危険状態になりました
		[PET] 0x00190703	Chip Set: Transition to Non-recoverable	チップセットが回復不能状態になりました
ケーブル	その他	[PET] 0x001B0700	Cable/Interconnect: Transition to OK	ケーブルは正常になりました
		[PET] 0x801B0700	Cable/Interconnect: Transition to Abnormal	ケーブルが異常状態になりました
		[PET] 0x001B0701	Cable/Interconnect: Transition to Non-Critical	ケーブルが警告状態になりました
		[PET] 0x001B0702	Cable/Interconnect: Transition to Critical	ケーブルが危険状態になりました
		[PET] 0x001B0703	Cable/Interconnect: Transition to Non-recoverable	ケーブルが回復不能状態になりました
		[PET] 0x001B0801	Cable/Interconnect: Device Inserted/Device Present	ケーブルが実装されています
		[PET] 0x801B0801	Cable/Interconnect: Device Removed/Device Absent	ケーブルが取り外されました
		[PET] 0x001B6F00	Cable/Interconnect: Cable/Interconnect is connected	ケーブルは接続されています
		[PET] 0x801B6F00	Cable/Interconnect: Cable/Interconnect is disconnected	ケーブルが切断されました
		[PET] 0x001B6F01	Cable/Interconnect: Configuration Error - Incorrect cable connected / Incorrect interconnection	設定エラーが発生しました。間違ったケーブル配線がされています
		[PET] 0x801B6F01	Cable/Interconnect: Configuration Error cleared	設定エラーが回復しました
OS	その他	[PET] 0x00206F00	OS Stop/Shutdown: Critical stop during OS load / Initialization	OS初期化中に停止しました
		[PET] 0x00206F01	OS Stop/Shutdown: Run-time Critical Stop	OS動作中に停止しました
スロット/コネクタ	その他	[PET] 0x00216F00	Slot/Connector: Fault Status asserted	スロットが異常状態になりました
		[PET] 0x80216F00	Slot/Connector: Fault Status negated	スロットの異常状態が回復しました
		[PET] 0x00216F02	Slot/Connector: Slot/Connector Device Installed	スロットに装置が実装されています
		[PET] 0x80216F02	Slot/Connector: Slot/Connector Device Removed	スロットから装置が取り外されました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x00216F05	Slot/Connector: Slot Power is OFF	スロットの電力がオフです
		[PET] 0x80216F05	Slot/Connector: Slot Power is ON	スロットの電力がオンです
		[PET] 0x00216F07	Slot/Connector: Interlock asserted	Interlockが発生しました
		[PET] 0x80216F07	Slot/Connector: Interlock negated	Interlock状態から回復しました
		[PET] 0x00216F08	Slot/Connector: Slot is Disabled	スロットが無効です
		[PET] 0x80216F08	Slot/Connector: Slot is Enabled	スロットが有効です
ACPI 電力状態	その他	[PET] 0x00226F00	System ACPI Power State: S0/G0 Working	System ACPI Power State: S0/G0 Working
		[PET] 0x00226F05	System ACPI Power State: S5/G2 Soft off	System ACPI Power State: S5/G2 Soft off
		[PET] 0x00226F07	System ACPI Power State: G3 Mechanical Off	System ACPI Power State: G3 Mechanical Off
		[PET] 0x00226F09	System ACPI Power State: G1 Sleeping	System ACPI Power State: G1 Sleeping
Watchdog Timer	その他	[PET] 0x00236F00	Watchdog Timer: Timer expired, status only (no action, no interrupt)	Watchdog Timerが時間内に更新されませんでした。(アクションは設定されていません)
		[PET] 0x80236F00	Watchdog Timer: Recover from Timer expired only	時間切れ状態から回復しました
		[PET] 0x00236F01	Watchdog Timer: Hard Reset	Watchdog Timerによるハードリセットをしました
		[PET] 0x80236F01	Watchdog Timer: Recover from Hard Reset	Watchdog Timerによるハードリセットから回復しました
		[PET] 0x00236F02	Watchdog Timer: Power Down	Watchdog Timerによる電源OFFを実行しました
		[PET] 0x80236F02	Watchdog Timer: Recover from Power Down	Watchdog Timerによる電源OFFから回復しました
		[PET] 0x00236F03	Watchdog Timer: Power Cycle	Watchdog TimerによるPower Cycleを実行しました

分類	イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
		[PET] 0x80236F03	Watchdog Timer: Recover from Power Cycle	Watchdog TimerによるPower Cycleから回復しました
		[PET] 0x00236F08	Watchdog Timer: Timer interrupt	Timer割り込みが発生しました
装置	その他	[PET] 0x00256F00	Entity Presence Information: Entity Present	装置が実装されています
		[PET] 0x00256F01	Entity Presence Information: Entity Absent	装置は空です
		[PET] 0x00256F02	Entity Presence Information: Entity Disabled	装置は無効です
		[PET] 0x80256F02	Entity Presence Information: Entity Enabled	装置は有効です
ASIC/IC	その他	[PET] 0x00260301	Monitor ASIC/IC: Monitoring event occurred	ASIC/ICで異常が発生しました
		[PET] 0x80260301	Monitor ASIC/IC: Monitoring event cleared	ASIC/ICで異常が回復しました
LAN	その他	[PET] 0x00270301	LAN: Monitoring event occurred	LANにて異常が発生しました
		[PET] 0x80270301	LAN: Monitoring event cleared	LAN異常が回復しました
管理サブシステム	その他	[PET] 0x00286F03	Management Subsystem Health: Management Controller unavailable	BMCが利用できません
バッテリ	その他	[PET] 0x00296F00	Battery: Battery Low	バッテリの電圧が低下しています
		[PET] 0x80296F00	Battery: Recover from Battery Low	電圧が回復しました
		[PET] 0x00296F01	Battery: Battery Failed	バッテリ異常が発生しました
		[PET] 0x80296F01	Battery: Recover from Battery Failed	バッテリ異常が回復しました
		[PET] 0x00296F02	Battery: Battery detected	バッテリを検出しました
		[PET] 0x80296F02	Battery: No Battery	バッテリが見つかりませんでした

注: PET のフィルタリングについて SigmaSystemCenter は PET を OOB Management イベントとして扱います。PET が SigmaSystemCenter 管理サーバに届いても、対応する OOB Management イベントが SigmaSystemCenter の画面上に表示されないことがあります。これは SigmaSystemCenter 内部で PET を選別しているためです。以下の表に PET を破棄する条件を示します。

#	PETを破棄するケース
1	再送されてきたPETを破棄します。 SigmaSystemCenterの管理対象マシンのBMCがPETを再送することがあります。SigmaSystemCenterはPETが持つシーケンス番号という情報を確認していますが、このとき、直前に受信したPETとシーケンス番号が同じ場合は後から来たPETを破棄します。
2	PET送信元マシンがESMPROの管理対象となっている場合、そのPETを破棄します。
3	PET発生元のセンサー情報がない場合、そのPETを破棄します。
4	アカウント情報を設定していないマシンからのPETを破棄します。
5	直前に上がってきたPETと同じイベントを表すと思われるPETは破棄します。
6	上記の表に存在しないPETは破棄します。

1.2.9. Hyper-Vクラスタ連携機能で取得できるイベント一覧

Hyper-V クラスタ連携機能で、Microsoft Failover Cluster から取得できるイベントの一覧は、以下の通りです。

以下のイベントは、ポリシー設定の「対応処置詳細設定」ウィンドウで、[イベント区分] にイベントが属するイベント区分を下記の表から確認して指定し、[通報元] に "HyperVProvider" を指定することで確認できます。

イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
クラスタ:ノード停止	Node[Down]	Hyper-V Cluster ノード停止	クラスタのノードが停止した
	Cluster[NotRunning]	Hyper-V Cluster 停止	クラスタとの接続が切断された
クラスタ:ノード回復	Node[Up] ※4	Hyper-V Cluster ノード起動	クラスタのノードが回復した
	Cluster[Running]	Hyper-V Cluster 稼働	クラスタに再接続した
マシンアクセス不可能障害	Resources(VM)[Failed]	Hyper-V Cluster VM 利用不可	仮想マシンがクラスタからアクセスできない

イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
	Resources(VM)[Offline]※1	Hyper-V Cluster VM リソースオフライン	仮想マシンのリソースがオフラインになった
マシンアクセス復旧	Resources(VM)[Online]	Hyper-V Cluster VM リソースオンライン	仮想マシンのリソースがオンラインになった
ハードディスク復旧可能障害	CSV[Scarce] ※2	Hyper-V Cluster CSV 空き容量下限閾値未満	CSVの空き領域、または、使用率が閾値を超えた
	CSV[Critical] ※3	Hyper-V Cluster CSV 空き容量不足によるVM緊急一時停止	CSVの空き容量不足により、仮想マシンが緊急一時停止した
	CSV[Maintenance]	Hyper-V Cluster CSV Maintenance ステータス	CSVのステータスがMaintenance
	CSV[NoAccess]	Hyper-V Cluster CSV No Access ステータス	CSVのステータスがNoAccess
	CSV[NoDirectIO]	Hyper-V Cluster CSV No Direct IO ステータス	CSVのステータスがNoDirectIO
	Resources(PhysicalDisk)[Failed]	Hyper-V Cluster Physical Disk リソース障害	ディスクのリソースが失敗
	Resources(PhysicalDisk)[Offline]	Hyper-V Cluster Physical Disk リソースオフライン	ディスクのリソースがオフライン
ハードディスク復旧可能障害回復	CSV[Abundant] ※2	Hyper-V Cluster CSV 空き容量下限閾値以上	CSVの空き領域、または、使用率の値が正常値に回復した
	CSV[NonCritical] ※3	Hyper-V Cluster CSV 空き容量不足によるVM緊急一時停止閾値以上	CSVの空き容量が、緊急一時停止の閾値より大きくなった
	CSV[NoFaults]	Hyper-V Cluster No Faults ステータス	CSVのステータスがNoFaults
	Resources(PhysicalDisk)[Online]	Hyper-V Cluster Physical Disk リソースオンライン	ディスクのリソースがオンライン
クラスタ:ネットワーク障害	Network[Down]	Hyper-V Cluster ネットワーク停止	ネットワークが停止
	Network[Partitioned]	Hyper-V Cluster ネットワーク パーティション分割	ネットワークがパーティション分割
	Network[Unavailable]	Hyper-V Cluster ネットワーク 利用不可	ネットワークが利用不可

イベント区分	イベント ID	メッセージ	説明
	NetworkInterface[Failed]	Hyper-V Cluster ネットワークインターフェイス 障害	ネットワークインターフェースが障害
	NetworkInterface[Unavailable]	Hyper-V Cluster ネットワークインターフェイス 利用不可	ネットワークインターフェースが利用不可
	NetworkInterface[Unreachable]	Hyper-V Cluster ネットワークインターフェイス 到達不能	ネットワークインターフェースが到達不能
クラスタ:ネットワーク回復	Network[Up]	Hyper-V Cluster ネットワーク 稼働	ネットワークが稼動
	NetworkInterface[Up]	Hyper-V Cluster ネットワークインターフェイス 稼働	ネットワークインターフェースが稼動

※1 既定では無効になっています。有効にする場合は、以下のレジストリを設定して下さい。
キー名: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥PVM¥Provider¥VM¥HyperV¥
値名 (型): EnableVMOffEvent (REG_DWORD)
値: 1
再度、無効にする場合には、値を0に設定して下さい。

※2 ディスク容量の空き領域と使用率の閾値はレジストリにより変更できます。
キー名:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥PVM¥Provider¥VM¥HyperV¥
・ 空き領域
値名 (型): FreeSpaceThreshold (REG_DWORD)
既定値:2048(MB)
・ 使用率
値名 (型): DiskUsageThreshold (REG_DWORD)
既定値:75(%)

※3 仮想マシンの緊急一時停止は、CSVの空き領域が200MBを下回ると、発生します。
CSV[Critical]のイベントは、仮想マシンが緊急一時停止した時点で通報されます。
CSV[NonCritical]のイベントは、容量監視によりCSVの空き領域が200MB以上になった場合に通報されますが、この時点で仮想マシンの緊急一時停止状態は解除されないため、空き領域が充分にあることを確認してから、仮想マシンを起動する必要があります。

※4 クラスタ:ノード回復イベントは、すべての回復のケースで発生するものではありません。回復の仕方により、イベントが発生しないケースもあります。

1.3. ポリシー設定

ポリシーの設定は、通常管理対象マシンの種類別や用途別に用意された標準ポリシーをベースに作成します。ポリシー設定は、運用グループやモデル別に異なる設定を割り当てることができます。

SigmaSystemCenter は、状態変化検出時に通報されたイベントの情報より状態変化が発生した管理対象マシンやグループ (モデル) を特定し、そのグループ (モデル) に割り当てられたポリシー設定を参照します。参照するポリシー設定内に、発生した状態変化イベントに対応するアクションが設定されている場合、SigmaSystemCenter はそのアクションを実行します。

1.4. アクションの設定

アクションの設定は、通常単体イベントに対して行いますが、同一イベント区分に属する全イベントに対して同じアクションを実行する場合は、一括して設定することができます。また、実行するアクションを複数指定したり、アクションの実行条件を指定したりすることができます。

イベントの対応処置設定がない場合は、そのイベントに対応して、運用ログへの出力までアクションは実行されません。イベントの対応処置設定が設定されている場合においても、抑制設定の条件を満たす場合は、アクションは実行されません。

1.4.1. 複数アクションのフロー制御

イベントに対応して実行するアクションは、最大で 30 件設定することができます。複数のアクションが指定された場合、設定画面上で上から登録されている順番にアクションを実行します。

2 つ目以降のアクションは、対象のアクション ([ラベル] 省略時は、1 つ上に登録されているアクション、[ラベル] 指定時は、その番号に登録されているアクション)の実行結果を実行の条件として、以下のパターンで指定することができます。

- Success:
  対象のアクションが実行され、正常終了したときに実行します。
  対象のアクションが実行されない場合や、実行結果がエラーの場合は実行しません。
- Completed:
  対象のアクションの実行完了後に実行します。
  対象のアクションが実行されない場合は、実行しません。
- Failed
  対象のアクションが実行され、異常終了したときに実行します。
  対象アクションが実行されない場合や実行結果が正常の場合は実行しません。

実行途中でジョブのキャンセルが実行された場合、処理を中断してジョブは異常終了します。後続のアクションについても、設定した実行条件に関わらず実行されずに終了します。

全体の実行結果は、すべて正常終了したときのみ、正常終了となります。いずれか 1 つのアクションが異常終了になった場合は、異常終了で終了します。ただし、「実行結果のリセット」アクションが、異常終了になったアクションの後で実行された場合には、それ以降のアクションがすべて正常終了すれば、全体の実行結果も正常終了となります。

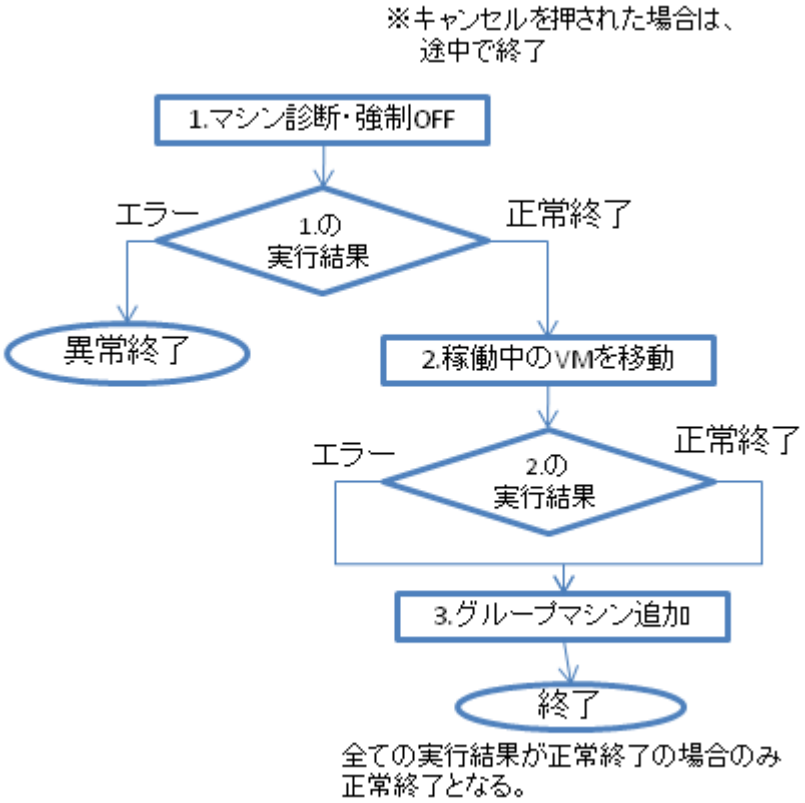
注: 例外として、「センサー診断、故障ステータス設定」、「マシン設定 / 総合回復診断、ステータス設定・正常」、「マシン設定 / 個別ステータス診断、ステータス設定・正常」のアクションが異常終了し、ジョブが終了した場合も、全体の実行結果としては正常終了となります。

[例 1]

仮想マシンサーバ上でマシンアクセス不可障害が発生した場合を想定して、マシンアクセス不可障害の対応処置として以下の設定を行った場合について説明します。

- 管理対象マシンの種類: 仮想マシンサーバ
- 発生イベント: マシンアクセス不可障害
- 対応処置詳細 (括弧内は実行条件)
  1. マシン診断・強制 OFF
  2. 稼動中の VM を移動 (1.が成功した場合に実行)
  3. スケールアウト マシン追加 (2.が終了した場合に実行)

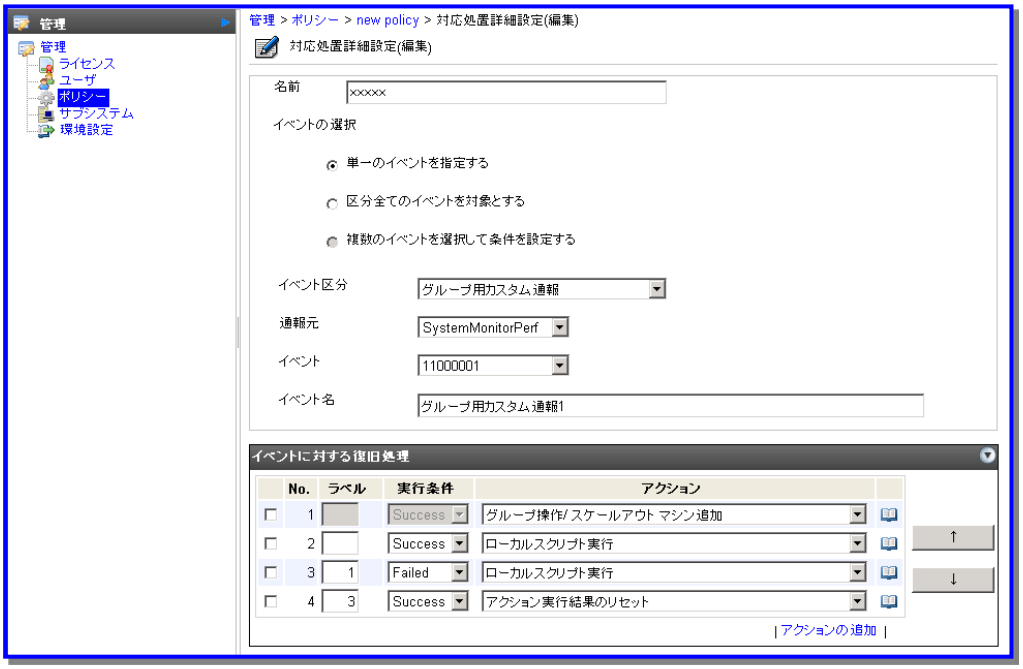
この場合、SigmaSystemCenter は、以下の図のように処理を行います。



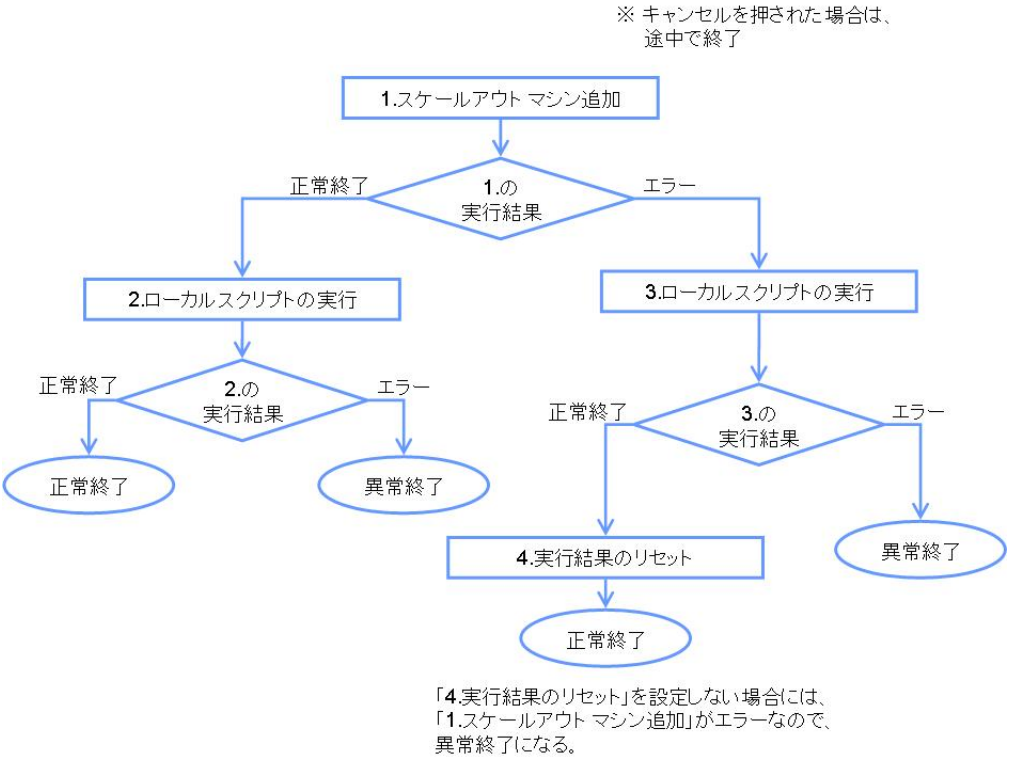
[例 2]

グループで負荷状況を SystemMonitor 性能監視にて監視し、閾値を超えた場合にスケールアウト制御を実行する際に、スケールアウト制御の実行結果に応じて、ユーザへの通知を行うスクリプトを切り替える場合について説明します。

- 管理対象の種類 ： グループ
- 発生イベント ：SystemMonitor 性能監視によるグループカスタム通報 1
- 対応処置詳細 (括弧内は実行条件)
  1. スケールアウト マシン追加
  2. ローカルスクリプトの実行 ※成功時の通知 (1.が成功した場合に実行)
  3. ローカルスクリプトの実行 ※失敗時の通知 (1.が失敗した場合に実行)
  4. 実行結果のリセット (3.が成功した場合に実行)



この場合、SigmaSystemCenter は、以下の図のように処理を行います。



1.4.2. アクション実行の抑制 (障害イベントの抑制)

マシンアクセス不可障害など一部の障害イベントについては、障害の発生とその回復が短時間に連続して発生した場合を想定して、障害イベントを検出しても、それから一定時間、発生した障害の回復イベントが発生しないか待ち合わせ、回復イベントが発生しなかった場合のみ、設定されたアクションを実行します。

以下は、抑制設定が可能なイベントとその抑制イベントです。

イベント	抑制イベント	抑制イベントの監視時間 (既定値)
CPU負荷障害	CPU負荷障害回復	180秒
マシンアクセス不可能障害	マシン起動報告	180秒
メモリ不足	メモリ不足回復	60秒

関連情報: 抑制の設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.10.5 ポリシープロパティを設定するには」を参照してください。

1.4.3. 複数イベントのグループ化

実行するアクションに対応するイベントは、単数のイベント、もしくは同じイベント区分に属する全イベントを選択することができます。

全イベントを指定した場合は、同じイベント区分内のどのイベントが発生した場合でも設定したアクションが実行されます。

なお、同じイベントに対して複数の対応処置設定を設定することはできません。

1.5. 診断機能について

1.5.1. マシン診断

SigmaSystemCenter の診断機能により、マシンアクセス不可能障害のイベント発生後に障害環境の詳細な診断を行うことができます。診断機能のポリシーアクションを復旧処理のアクションの前に実行されるように設定することで、復旧処理実行が必要な状況のみ復旧処理が実行されるようにすることができます。

診断機能のポリシーアクションである "マシン診断・強制 OFF" アクションは、障害発生マシンが正常状態であると判断した場合やグループ全体に障害の影響が波及しているため復旧処理を実施できないと判断した場合、異常終了します。復旧処理が成功する可能性があると判断した場合は、管理対象マシンに対して強制停止を行い、正常終了します。診断結果が異常終了のときは復旧処理が実行されないように、"マシン診断・強制 OFF" アクション後の復旧アクションの実行条件は、必ず、"Success" を設定してください。

注: ESX の場合、[管理] ビューから [環境設定] アイコン－ [仮想リソース] タブの root パスワード、または [管理] ビューから [サブシステム] アイコン－ [サブシステム編集] で ESX の root パスワードを設定することが必要です。設定していない場合、OS への接続確認が失敗します。

設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.4.5 仮想リソースの情報を設定するには」を参照してください。

診断機能は管理対象マシンが仮想マシンサーバ (VMware、XenServer) の場合のみ利用できます。仮想マシンサーバ (VMware、XenServer) 以外の管理対象マシンに対して、"マシン診断・強制 OFF" アクションを実行した場合、診断は実行されず、"シャットダウン" か "強制 OFF" が実行されます。ポリシーアクションの詳細については、「1.7.17 マシン操作 / マシン診断・強制 OFF」を参照してください。

診断機能は、以下の確認を行います。

- 障害が発生したマシンを管理する VMware の vCenter Server や XenServer の Pool Master への接続可否
- 障害が発生したマシンが所属するグループにおいて、ハードウェアステータスが "故障" になっている管理対象マシンの台数が 2 台以上ないか
- 管理対象マシンの (ホスト) OS に接続できるかどうか。
  (障害が発生したマシン以外に、同一グループ下の別マシンについても 5 台まで確認します。)
- 管理対象マシンから使用中の共有ディスクへアクセスできるかどうか。
  (障害が発生したマシン以外に、同一グループ下の別マシンについても 5 台まで確認します。)

なお、OS への接続確認、共有ディスクへのアクセス確認において、障害が発生したマシンの診断で問題があったとき、他マシンの診断を行いますが、下記の条件を満たす管理対象マシンのみを診断の対象とします。診断対象でない場合は、グループ台数のカウント対象にもなりません。

- ◆ 障害が発生したマシンと同一運用グループ下で管理されている
- ◆ 稼動ステータスが"On" である
- ◆ メンテナンスステータスが "On" ではない
- ◆ ポリシー状態が "全て有効" である
- ◆ 電源状態が "On"、または、"-" である

マシン診断・強制 OFF アクションの詳細な異常終了の条件は下記表の通りです。

障害が発生したマシンの種類	診断が異常終了する条件 (記載: 確認順)	備考
vCenter Server環境のESX / ESXi	・ SigmaSystemCenter管理サーバからVMware vCenter Serverへ接続できない ・ 障害が発生したマシンへの接続が認証エラーで失敗する。または既にvCenter Server上で切断状態になっている ・ 同一グループ内に故障状態のマシンが2台以上ある (障害発生マシンを含まない) ・ 同一グループ内のマシンのOSへの接続不可台数が以下のとき (障害発生マシンを含む) - グループの台数が2～4台のとき、2台以上 - グループの台数が5台以上のとき、3台以上 ・ 同一グループ内のマシンで共有ディスクへアクセスができないマシン台数が以下のとき (障害発生マシンを含む) - グループの台数が2～4台のとき、2台以上 - グループの台数が5台以上のとき、3台以上 ・ 障害が発生したマシンが正常な場合	・ vCenter Serverへの接続不可のときは、復旧処理の制御ができないので異常終了します。 ・ OSへの接続やディスクアクセスが不可の台数が多いとき、復旧処理を実行する状況ではないと判断し、異常終了します。

障害が発生したマシンの種類	診断が異常終了する条件 (記載: 確認順)	備考
スタンドアロンESXi環境のESXi	・障害が発生したマシンへの接続が認証エラーで失敗する。または既に SigmaSystemCenter上で切断状態になっている ・同一グループ内に故障状態のマシンが 2台以上ある (障害発生マシンを含まない) ・同一グループ内のマシンのOSへの接続不可台数が以下のとき (障害発生マシンを含む) - グループの台数が2～4台のとき、2台以上 - グループの台数が5台以上のとき、3台以上 ・同一グループ内のマシンで共有ディスクへアクセスができないマシン台数が以下のとき (障害発生マシンを含む) - グループの台数が2～4台のとき、2台以上 - グループの台数が5台以上のとき、3台以上 ・障害が発生したマシンが正常な場合	・OSへの接続やディスクアクセスが不可の台数が多いとき、復旧処理を実行する状況ではないと判断し、異常終了します。
XenServer Pool Master マシン	・障害が発生したマシンが正常な場合	・Pool Master配下のSlaveマシンの確認はPool Master経由で行うため、Pool Masterへの接続やディスクのアクセス確認が失敗した場合は、配下のSlaveマシンの状態も確認できない状況となります。この場合、確実に復旧できるかどうか判断できませんが、復旧できる可能性があるので正常終了します。
XenServer Slaveマシン	・XenServer Pool Masterへ接続できない ・XenServer Pool Master経由での共有ディスクへのアクセスができない	・Pool Masterへの接続ができない、または共有ディスクへのアクセス不可の場合は、復旧処理の制御が不可のため異常終了します。 ・Slaveマシンへの共有ディスクの確認はPool Master経由で行うため、共有ディスクにアクセスできた場合、Slaveからはアクセスできる可能性もできない可能性も考えられます。障害である想定の方を優先し、復旧処理が実行されるように正常終了します。

1.5.2. センサー診断

センサー診断は、稼動中の管理対象マシンからのイベントを受けて、管理対象マシンが電源オン状態においてセンサーの状態に問題がないか解析します。

この解析には、Out-of-Band Management 管理機能によって、管理対象マシンの BMC と通信できていることが必要です。

診断機能のポリシーアクションである "センサー診断、故障ステータス設定" アクションは、障害発生マシンが正常状態であると判断した場合に異常終了します。マシン状態の解析は、このポリシーアクションが起動した契機となったイベントの種類や、そのときのマシンの状態によって変化します。

アクションが起動した契機となったイベントの種類によって、以下のように解析方法が変化します。

◆ OOB Management イベント

イベントを送信したセンサーの状態のみを解析し、危険状態であるかどうか解析します。通信障害や該当センサーが障害により応答しない場合には、契機となったイベントの重要度で正常終了するか異常終了するか判断します。

◆ ESMPRO イベント

ESMPRO イベントの一部のイベントは、診断対象のイベントとして処理します。

センサーの状態に関連する ESMPRO イベントの場合、イベントを送信したセンサーと同じ種類のセンサーの状態のみを解析し、危険状態であるかどうか解析します。通信障害や該当センサーが障害により応答しない場合には、契機となったイベントの重要度で正常終了するか、異常終了するか判断します。

以下に診断対象となる ESMPRO イベントを示します。

通信元	Source
SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE
	ESMLOCALPOLLING

上記以外の ESMPRO イベントは、「その他のイベント」と同様に処理をスキップします。

◆ その他のイベント

OOB Management イベント、ESMPRO イベント以外のイベントの場合、診断を行わずに故障マークを設定し、正常終了します。通信障害やイベントを送信したセンサーが障害により応答しない場合には、故障マークを設定します。

管理対象の電源状態によっては、正確にセンサーの状態を取得できない場合があります。そのため、マシンの電源状態によってセンサー診断結果に関わらず、以下のように解析結果を返します。

◆ センサー診断を行っている間に電源状態が変化した場合

マシンの異常を契機に自動でマシンがシャットダウン、もしくはリブートが発生した可能性があります。この場合マシンに異常がある状態と判断し、故障マークを設定し、正常終了します。

◆ センサー診断を行う前に既に電源がオフであった場合

マシンが危険状態に陥り、センサー診断前に電源がオフになった可能性があります。この場合、マシンに異常がある状態と判断し、故障マークを設定し、正常終了します。

注:

・ センサー診断は、稼動中の電源オン状態のマシンにて障害が起きていることを前提に解析を行います。従って、電源オフ状態のマシンに対し、このアクションを実行しても正しく判断できません。

・ Out-of-Band Management 管理機能を有効にしていない管理対象マシンに対して、上記ポリシーアクションを実行した場合にも、マシンのハードウェアステータスを故障に設定し、正常終了します。

・ センサー状態の重要度の判断は、内部実装の基準に従います。そのため、イベント区分の障害などに分類されているイベントに対してこのアクションを設定しても、正常と判断される場合があります。

上記内容をまとめて、センサー診断で行うアクションの契機となるイベント、そのときの通信、マシンの状態、および解析結果の関係の詳細を表で示します。

管理対象マシンの電源状態が診断の前後でオンであった場合

アクションの契機となったイベントの種類	通信、およびマシンの状態	解析結果
OOB Management イベント、センサーに関連する診断対象 ESMPRO イベント	予兆イベントを送信したセンサーの状態が、危険と判断される状態	故障マークを設定して、正常終了します。
	予兆イベントを送信したセンサーの状態が、正常または、警告と判断される状態	マシンに異常がみつかりませんでした。故障マークを設定せずに異常終了 (後続のアクションは実行されません) します。
	イベントの通報元のセンサーの情報に取得失敗した	アクション契機となったイベントの重要度で判断します。イベントの重要度が危険レベルである場合、故障マークを設定して、正常終了します。
	・ BMCへの通信が失敗した ・ BMCへのIPMIコマンドが失敗した ・ 予期せぬエラーが発生した	アクション契機となったイベントの重要度で判断します。イベントの重要度が危険レベルである場合、故障マークを設定して、正常終了します。
その他のイベント	通信、マシン状態に依存しない	故障マークを設定して、正常終了します。

管理対象マシンの電源状態と解析結果の関係を表に示します。

(上記のセンサー診断結果よりも優先されます)

電源状態	解析結果
センサー診断の前後で電源状態が変化	故障マークを設定して、正常終了します。
センサー診断の前に電源がオフ	故障マークを設定して、正常終了します。

「1.5.4 総合回復診断」から呼ばれるセンサー診断は、契機となったイベントに関わらず管理対象マシンの持つすべてのセンサーの状態を解析し、すべてのセンサーが正常の場合にのみ "正常" と診断し正常終了します。すべてのセンサーが正常でないマシンは正常を判断できないため、"異常" と診断し異常終了します。

また、管理対象マシンの電源状態により正確にセンサーの状態を取得できない場合も、正常に判断できないため、"異常" と診断し異常終了します。

回復診断機能のポリシーアクションである "総合回復診断、ステータス設定 正常" アクションは、対象マシンが正常状態であると判断した場合にハードウェアステータスに正常を設定し正常終了します。

1.5.3. 個別ステータス診断

個別ステータス診断は、発生したイベントに応じて設定された個別ステータスを元に対象マシンの状態を診断します。

関連製品 / 関連機能から通知されたイベントを元に作成・更新された個別ステータスを参照し、すべての個別ステータスが "正常" の場合は、対象マシンを正常と判断します。

診断機能のポリシーアクションである "個別ステータス診断、ステータス設定・正常" アクションは、対象マシンが正常な状態であると判断した場合にハードウェアステータスに "正常" を設定し正常終了します。"正常でない" と判断した場合は、異常終了します。

個別ステータスと関連するイベントを提供する関連製品 / 関連機能は以下です。

関連製品 / 関連機能	個別ステータス名
ESMPRO	電池 / ブートエラー / ボタン / スイッチ / ケーブル/内部接続 / 筐体 / チップセット / ClusterLan / ClusterNode / 冷却装置 / CpuDegeneracy / CpuLoad / 異常系割り込み / DeadOrAlive / Disk / DiskRecovery / DiskReplace / デバイスベイ / 装置構成単位の実装情報 / ログ / ファン (回転数) / Management Subsystem Health / メモリ / MemoryDegeneration / モジュール/ボード (未実装) / OSブート / OS停止 / 筐体イントリュージョン / POST Error / メモリ縮退 / 電源モジュール / 電源 / プロセッサ / スロット / コネクタ / ACPI (省電力管理) / システムイベント / 温度 / 電圧 / ウォッチドックタイマ
Out-of-Band Management 管理機能 (センサー)	電池 / ボタン / スイッチ / ケーブル/内部接続 / 筐体 / チップセット / 冷却装置 / 異常系割り込み / 電流 / デバイスベイ / 装置構成単位の実装情報 / ログ / ファン (回転数) / LAN / Management Subsystem Health / メモリ / モジュール/ボード (未実装) / 監視用ASIC / IC / OS停止 / 筐体イントリュージョン / セキュリティ違反 / POST Error / メモリ縮退 / 電源モジュール / 電源 / プロセッサ / スロット / コネクタ / ACPI (省電力管理) / システムイベント / 温度 / 電圧 / ウォッチドックタイマ / その他センサ / その他の保守交換部品 / ウォッチドックタイマ_1 / マイクロコントローラ / コプロセッサ / 増設カード / 終端 / システムブート / アラート通報 / セッション / バージョン変更 / FRU状態 / OEMセンサー
Hyper-V	NetworkInterface / Node / Resources (VM) / OS状態 / Disk接続状態 / 仮想マシンサーバ

関連製品 / 関連機能	個別ステータス名
VMware (ESX、ESXi)	Connection State / Cpu Usage / Heartbeat State / Memory Usage / Network Connectivity / Power State / Storage Path Connectivity / OS状態 / Disk接続状態 / 仮想マシンサーバ
Citrix XenServer	OS状態 / Disk接続状態 / 仮想マシンサーバ
KVM	仮想マシンサーバ
死活監視機能	AliveMonitoringState / PingState / PortConnectivity

ESMPRO、および Out-of-Band Management 管理機能関連の個別ステータスは、センサー診断を行わない限り、正常な状態を確認できないため、自動では回復しません。

Out-of-Band Management 管理機能を有効にし、総合回復診断を利用するか、Web コンソールから総合診断を行うか、または手動で "リセット (正常)" を行ってください。

また、以下の個別ステータスに関しては、自動では "正常" に回復しません。該当マシンに異常がないことを確認し、手動で "リセット (正常)" を行ってください。

個別ステータス名	状態	対応するイベント
ClusterLan	故障	[Source]CLUSTERPRO [ID]0xC0005217(21015) [Summary]パブリックLAN異常 [Source]CLUSTERPRO [ID]0xC000521B(21019) [Summary]パブリックLAN異常 [Source]CLUSTERPRO [ID]0xC000521C(21020) [Summary]パブリックLAN異常 [Source]CLUSTERPRO [ID]0xC000521D(21021) [Summary]パブリックLAN異常
ClusterNode	故障	[Source]CLUSTERPRO [ID]0xC00008A4(2212) [Summary]サーバダウン [Source]CLUSTERPRO X [ID]0x40000002(2) [Summary]サーバ停止 [Source]EXPRESSCLUSTER X [ID]0x40000002(2) [Summary]サーバ停止
CpuDegeneracy	故障	[Source]ESMCommonService [ID]0xC0000838(2104) [Summary]CPU縮退
	一部故障	[Source]ESMCommonService [ID]0x800002BD(701) [Summary]CPU縮退状態 [Source]ESMCommonService [ID]0x800002BF(703) [Summary]CPU縮退状態
DiskRecovery	一部故障	[Source]ASMBENotify [ID]0x0000200C(8204) [Summary]アレイを構成する物理デバイスがダウン [Source]ASMBENotify [ID]0x0000200D(8205) [Summary]アレイを構成する物理デバイスが消滅 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000200E(8206) [Summary]物理デバイス障害でアレイがオフライン [Source]ASMBENotify [ID]0x00002023(8227) [Summary]アレイはDegraded状態 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000205C(8284) [Summary]リビルド完了。アレイはdegraded状態 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B00E(45070) [Summary]デバイスが故障 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B033(45107)

個別ステータス名	状態	対応するイベント
		[Summary]アレイはデグレード [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B034(45108) [Summary]セカンドレベルアレイはデグレード [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B036(45110) [Summary]アレイはデグレード [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B037(45111) [Summary]セカンドレベルアレイはデグレード [Source]ESMMylexService [ID]0x800403E9(1001) [Summary]システムドライブ CRITICAL [Source]ESMAMIService [ID]0x800403E9(1001) [Summary]AMI論理デバイス Degraded [Source]ESMDiskArray [ID]0x800403E9(1001) [Summary]Disk Array 論理デバイス Critical [Source]ESM Mylex Service [ID]0x80040205(517) [Summary]システムドライブ CRITICAL
DiskReplace	故障	[Source]ASMBENotify [ID]0x00002014(8212) [Summary]I/Oエラーによりリビルド中止 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002017(8215) [Summary]I/OエラーによりVerify中止 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002019(8217) [Summary]I/OエラーによりInitialize中止 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000202D(8237) [Summary]I/Oエラーによりリビルドの開始不可 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002035(8245) [Summary]Initializeが完了直前に失敗 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002038(8248) [Summary]スケジュール起動のリビルドの開始に失敗 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002039(8249) [Summary]スケジュール起動のVerifyの開始に失敗 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000204E(8270) [Summary]Verifyの開始に失敗。アレイのメンバはFailed [Source]ASMBENotify [ID]0x00002059(8281) [Summary]ホットスペアが障害 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002085(8325) [Summary]Verify with fixがI/Oエラーで異常終了 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002090(8336) [Summary]アレイメンバの物理デバイスにSMARTエラーを検出 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002091(8337) [Summary]アレイに未構成の物理デバイスにSMARTエラーを検出 [Source]ASMBENotify [ID]0x00002094(8340) [Summary]I/OエラーによってVerify中止 [Source]ASMBENotify [ID]0x000020AD(8365) [Summary]デバイスが故障 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B069(45161) [Summary]アレイはフォーマット待ちのため使用不能 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B090(45200) [Summary]訂正されないECCエラー発生 [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B11E(45342) [Summary]診断チェック失敗によりチャネルはオフライン [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B11F(45343)

個別ステータス名	状態	対応するイベント
		[Summary]過度の再初期化によりチャネルはオフライン [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B121(45345) [Summary]バスリセット失敗によりチャネルはオフライン [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B122(45346) [Summary]PCIバスエラーによりチャネルはオフライン [Source]ASMBENotify [ID]0x0000B123(45347) [Summary]初期化失敗によりチャネルはオフライン [Source]ESMMylexService [ID]0xC00403EB(1003) [Summary]物理デバイス DEAD [Source]ESMMylexService [ID]0x800403F0(1008) [Summary]物理デバイス予防保守:しきい値オーバー [Source]ESMAMIService [ID]0xC00403ED(1005) [Summary]AMI物理デバイス Failed [Source]ESMAMIService [ID]0x800403F3(1011) [Summary]AMI物理デバイス予防保守エラー [Source]ESMDiskArray [ID]0xC00403F3(1011) [Summary]Disk Array 物理デバイス Dead [Source]ESMDiskArray [ID]0x800403FC(1020) [Summary]Disk Array 物理デバイス S.M.A.R.T.警告 [Source]ESMStorageService [ID]0x800403E8(1000) [Summary]ハードディスク予防保守:しきい値オーバー [Source]ESMStorageService [ID]0x800403E9(1001) [Summary]ハードディスク予防保守:S.M.A.R.T.エラー [Source]ESM Mylex Service [ID]0xC0040200(512) [Summary]物理デバイス DEAD [Source]ESM Storage Service [ID]0xC00423F6(9206) [Summary]ハードディスク Recovered Error数:異常 [Source]ESM Storage Service [ID]0x800423F5(9205) [Summary]ハードディスク Recovered Error数:警告 [Source]ESM Storage Service [ID]0xC00423F8(9208) [Summary]ハードディスク Not Ready数:異常 [Source]ESM Storage Service [ID]0x800423F7(9207) [Summary]ハードディスク Not Ready数:警告 [Source]ESM Storage Service [ID]0xC00423FA(9210) [Summary]ハードディスク Medium Error数:異常 [Source]ESM Storage Service [ID]0x800423F9(9209) [Summary]ハードディスク Medium Error数:警告 [Source]ESM Storage Service [ID]0xC00423FC(9212) [Summary]ハードディスク Hardware Error数:異常 [Source]ESM Storage Service [ID]0x800423FB(9211) [Summary]ハードディスク Hardware Error数:警告
MemoryDegeneration	故障	[Source]ESMCommonService [ID]0x800002BE(702) [Summary]メモリ縮退状態 [Source]ESMCommonService [ID]0x800002C6(710) [Summary]メモリ縮退状態 [Source]ESMCommonService [ID]0x8000051A(1306) [Summary]キャッシュ縮退 [Source]ESMCommonService [ID]0xC000051C(1308) [Summary]キャッシュECC複数Bitエラー
network connectivity	故障	Network connectivity on VMS is lost

個別ステータス名	状態	対応するイベント
	一部故障	Network redundancy on VMS is lost Network redundancy on VMS is degraded
storage path connectivity	故障	Storage path connectivity on VMS is lost
	一部故障	Storage path redundancy on VMS is lost Storage path redundancy on VMS is degraded

1.5.4. 総合回復診断

総合回復診断では、「マシン診断結果」、「センサー診断結果」、「個別ステータス診断結果」を元に対象のマシンを診断します。

総合回復診断は、対象マシンのタイプ・設定により、実施する診断の組み合わせが変わります。

以下に対象マシンと実施する診断を表で示します。

対象マシン	実施する診断
仮想マシンサーバの場合	「1.5.1 マシン診断」を実施します。 以下の3点を確認します。 ・ 対象マシンを管理するVMwareのvCenter ServerやXenServerのPoolMasterへの接続可否 ・ 対象マシンの (ホスト) OSに接続できるかどうか ・ 対象マシンから使用中の共有ディスクへアクセスできるかどうか ※対象マシンが所属するグループにおいて、ハードウェアステータスが "故障" になっている管理対象マシンの台数が2台以上ないかは確認しません。
Out-of-Band Management管理機能を利用している場合	「1.5.2 センサー診断」を実施します。
すべてのマシン	「1.5.3 個別ステータス診断」を実施します。

診断機能のポリシーアクションである "総合回復診断、ステータス設定・正常" アクションは、対象マシンが正常な状態であると判断した場合にハードウェアステータスに "正常" を設定し正常終了します。"正常でない" と判断した場合は、異常終了します。

また、Web コンソールからの総合診断では、総合回復診断を利用し、ハードウェアステータスの "正常" 設定を行っています。

注:

・ 該当マシンが仮想マシンサーバの場合、XenServer のスレーブでは、該当マシンからの共有ディスクに対するアクセスが確認できません。また、その他の仮想マシンサーバ (ESX、スタンドアロン ESXi、Xen、Hyper-V) に関しても、診断対象のディスクが 0 件の場合、ディスクに対するアクセス可否が確認できないため、総合診断では "正常" を判断することができません。上記のケースでは、該当マシンに問題がないことを確認し、手動で "故障状態の解除" を行ってください。

・ 以下の個別ステータスは、総合診断の実行では更新されません。また、"正常" に回復される場合は、該当マシンに異常がないことを確認し、手動で "リセット (正常)" を行ってください。

ClusterLan / ClusterNode / Connection State / Cpu Usage / CpuDegeneracy / CpuLoad / DeadOrAlive / Disk / DiskRecovery / DiskReplace / Heartbeat State / Memory Usage / MemoryDegeneration / Network Connectivity / NetworkInterface / Node / Power State / Resources(VM) / Storage Path Connectivity / AliveMonitoringState / PingState / PortConnectivity

・ VMware に関する以下の個別ステータスは、対応する状態が回復していた場合に総合診断により回復することができます。

Cpu Usage / Memory Usage / Hertbeat State / Connection State

・ OOB 管理を行っていない場合、以下の個別ステータスは、総合診断の実行処理では更新されません。"正常" に回復させる場合は、該当マシンに異常がないことを確認し、手動で "リセット (正常)" を行ってください。

電池 / ブートエラー / ケーブル/ 内部接続 / 筐体 / チップセット / 冷却装置 / 異常系割り込み / デバイスベイ / ファン (回転数) / LAN / Management Subsystem Health / メモリ / モジュール/ボード (未実装) / OS 停止 / 筐体イントリュージョン / POST Error / メモリ縮退 / 電源モジュール / 電源 / プロセッサ / スロット/コネクタ / システムイベント / 温度 / 電圧

・ 該当マシンの電源状態がオフの場合、OOB 管理を行っていても、センサー状態を正しく判断できない場合があります。そのため、総合診断からハードウェアステータスを回復することはできません。上記のケースでは、該当マシンに問題がないことを確認し、手動で "故障状態の解除" を行ってください。

1.6. 標準ポリシーについて

管理対象マシンの種類別や用途別に、障害の標準的な対応処置方法を標準ポリシーとして使用することができます。

物理マシンや仮想マシン、仮想マシンサーバなどの管理対象マシンの種類別や用途別に設定すべきポリシーの内容が異なります。

標準ポリシーには、以下の 11 種類があります。

ポリシー名	管理対象	初期登録
標準ポリシー	仮想マシンサーバ以外の物理マシン	○
標準ポリシー (N+1)	仮想マシンサーバ以外の物理マシン ※N+1置換にも対応した運用時	―
標準ポリシー (仮想マシン)	仮想マシン	○
標準ポリシー (仮想マシンサーバ)	仮想マシンサーバ	○
標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆)	仮想マシンサーバ ※予兆イベント監視を有効にした運用	―
標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力)	仮想マシンサーバ ※省電力にも対応した運用時	―
標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi)	仮想マシンサーバ (ESXi)	―
標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V)	仮想マシンサーバ (Hyper-V)	―
標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆)	仮想マシンサーバ (Hyper-V) ※予兆イベント監視を有効にした運用	―
標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 省電力)	仮想マシンサーバ (Hyper-V) ※省電力にも対応した運用時	―
システムポリシー (マネージャ)	SigmaSystemCenterが利用するリソースを管理するマネージャ (vCenter Serverなど)	○

初期登録が "○" の標準ポリシーは、エディションライセンスを適用することであらかじめ登録されます。

システムポリシー (マネージャ) は、マネージャに対して自動的に適用されるポリシーです。システムに 1 つ存在し、共有リソースの監視などマネージャ単位での監視を行います。管理対象マシンに対して適用されるポリシーではありませんので、グループへの設定は必要ありません。

システムポリシー (マネージャ) は、削除、または名前を変更しないでください。システムポリシー (マネージャ) の名前を変更すると、システムポリシー (マネージャ) として認識されないため、自動適用されません。システムポリシー (マネージャ) を誤って削除、または名前を変更した場合、PVM サービスを再起動することで再び自動登録されます。[ポリシー追加] メニューから追加することはできません。

システムポリシー (マネージャ) を無効にしたい場合は、監視イベントの設定を無効にしてください。

各設定内容は、以降の項の表を参照してください。

注:

・「ポリシープロパティ設定」ウィンドウで、複数のイベントが対象になっているイベントを選択し、「対応処置詳細設定」ウィンドウを開いた場合、[複数のイベントを選択して条件を設定する] チェックボックスがオンになり、[イベント区分] プルダウンボックスには "その他" が表示されます。更に、[イベント名] テキストボックスの下部に対象のイベントの一覧が表示されます。

・ 以前のバージョンからアップグレードインストールを行った場合、標準ポリシーは、以前の設定内容のままなので、以降の項と設定内容が一致しない場合があります。[ポリシー追加] からテンプレートを選択し、新たにポリシーを作成した場合に、以降の項の通りに設定された標準ポリシーが作成されます。

1.6.1. 標準ポリシーの設定内容

標準ポリシーの設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
CPU縮退障害	SystemMonitorEvent	"CPU縮退障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 一部故障	
CPU障害	SystemMonitorEvent	"CPU障害"、および "CPU温度異常障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
CPU負荷障害	SystemMonitorEvent	"CPU負荷障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
	VMwareProvider	および、 ESMCpuPerf[0x80000065] システムCPU異常高負荷回復 ESMCpuPerf[0x80000069] システムCPU異常高負荷回復 (※ SigmaSystemCenter 1.3からの互換のため)		マシン設定 / ステータス設定 故障	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
CPU負荷障害回復	SystemMonitorEvent	ESMCpuPerf[0x40000067] システムCPU高負荷回復 ESMCpuPerf[0x4000006B] システムCPU高負荷回復	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
	VMwareProvider	"CPU負荷障害回復" イベント区分に含まれるすべてのイベント		マシン設定 / ステータス設定 正常	
ディスク交換障害	SystemMonitorEvent	"ディスク交換障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 一部故障	
ディスク障害	SystemMonitorEvent	"ディスク障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
ディスク復旧可能障害	SystemMonitorEvent	"ディスク復旧可能障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 一部故障	
ディスク復旧可能障害回復	SystemMonitorEvent	"ディスク復旧可能障害回復" イベント区分に含まれるすべてのイベント	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 正常	
マシンアクセス不可能障害	SystemMonitorEvent	"マシンアクセス不可能障害" に含まれるすべてのイベント	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
	VMwareProvider			マシン設定 / ステータス設定 故障	
	AliveMonitor				
マシン起動報告	SystemMonitorEvent	"マシンアクセス復旧" イベント区分に含まれるすべてのイベント	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
	VMwareProvider			マシン設定 / ステータス設定 正常	
	AliveMonitor				
メモリ縮退障害	SystemMonitorEvent	"メモリ縮退障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
				マシン設定 / ステータス設定 一部故障	
	VMwareProvider	仮想マシンのメモリ使用率が不明から赤色になりました。			
		仮想マシンのメモリ使用率が緑色から赤色になりました。			
		仮想マシンのメモリ使用率が黄色から赤色になりました。			
メモリ障害	SystemMonitorEvent	"メモリ障害" イベント区分に含まれるすべてのイベント	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
クラスタ: ノード障害	SystemMonitorEvent	CLUSTERPRO[0xC00008A4]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
クラスタ: パブリック LAN障害	SystemMonitorEvent	CLUSTERPRO[0xC0005217]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
Universal RAID Utility: S.M.A.R.T. エラー	SystemMonitorEvent	RAIDSRV[0X80000131]	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 一部故障	
Universal RAID Utility: 物理デバイス故障	SystemMonitorEvent	RAIDSRV[0XC0000130]	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 一部故障	
Universal RAID Utility: 論理ドライブオフライン	SystemMonitorEvent	RAIDSRV[0XC0000193]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
Universal RAID Utility：論理ドライブオンライン	SystemMonitorEvent	RAIDSRV[0X40000191]	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 正常	○
Universal RAID Utility：論理ドライブ縮退	SystemMonitorEvent	RAIDSRV[0X80000192]	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 一部故障	○
グループ用カスタム通報1	SystemMonitorPerf	11000001	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報2	SystemMonitorPerf	11000002	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報3	SystemMonitorPerf	11000003	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報4	SystemMonitorPerf	11000004	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報5	SystemMonitorPerf	11000005	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報1	SystemMonitorPerf	10000001	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報10	SystemMonitorPerf	1000000A	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報2	SystemMonitorPerf	10000002	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報3	SystemMonitorPerf	10000003	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報4	SystemMonitorPerf	10000004	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報5	SystemMonitorPerf	10000005	何もしない	何もしない	×

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
マシン用カスタム通報6	SystemMonitorPerf	10000006	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報7	SystemMonitorPerf	10000007	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報8	SystemMonitorPerf	10000008	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報9	SystemMonitorPerf	10000009	何もしない	何もしない	×

※ 「マシンアクセス不可能障害」と「CPU負荷障害」のイベントに対して、それぞれ抑制イベントを設定することができます。

抑制の設定方法については、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「4.10.5 ポリシープロパティを設定するには」を参照してください。

1.6.2. 標準ポリシー (N+1) の設定内容

標準ポリシー (N+1) の設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
CPU縮退障害	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X800002BD] ESMCOMMONSERVICE[0X800002BF] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000838]	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定一部故障	
CPU障害	OobManagement	[PET] 0x00076F00 [PET] 0x00076F08	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC0000451] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000523] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000947] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000B04] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000B07]		マシン設定 / ステータス設定故障	
CPU負荷障害	SystemMonitorEvent	ESMCPUPERF[0XC0000064] ESMCPUPERF[0X800000	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
		65] ESMCPUPERF[0X80000066] ESMCPUPERF[0XC0000068] ESMCPUPERF[0X80000069] ESMCPUPERF[0X8000006A]		マシン設定 / ステータス設定故障	
CPU負荷障害回復	SystemMonitorEvent	ESMCPUPERF[0X40000067] ESMCPUPERF[0X4000006B]	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定正常	
CPU温度異常	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	マシン置換	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	SystemMonitorEvent			マシン操作 / マシン置換	
CPU温度回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
HW予兆:ファン/冷却装置異常	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	マシン置換	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	SystemMonitorEvent			マシン操作 / マシン置換	
HW予兆:ファン/冷却装置異常回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
HW予兆:ファン/冷却装置正常回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
HW予兆:電圧異常	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	マシン置換	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
	SystemMonitorEvent			マシン操作 / マシン置換	
HW予兆:電圧異常回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
HW予兆:電圧正常回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
HW予兆:電源装置異常	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	マシン置換	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	SystemMonitorEvent			マシン操作 / マシン置換	
HW予兆:冷却水漏れ	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	マシン置換	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	SystemMonitorEvent			マシン操作 / マシン置換	
HW予兆:筐体温度異常	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	マシン置換	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	SystemMonitorEvent			マシン操作 / マシン置換	
HW予兆:筐体温度異常回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
HW予兆:筐体温度正常回復	OobManagement	※「1.6.8 HW予兆監視系イベントの設定内容」参照	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent				
マシンアクセス不可能障害	SystemMonitorEvent	ESMDSVNT[0xC0000002]	マシン置換	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	AliveMonitor	[PeriodicalAliveMonitor] TargetDown		マシン操作 / マシン置換	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
マシン起動報告	SystemMonitorEvent	ESMDSVNT[0x40000001]	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
	AliveMonitor	[PeriodicalAliveMonitor] TargetUp		マシン設定 / ステータス設定 正常	
メモリ縮退障害	OobManagement	[PET] 0x000E0301	センサ診断・故障設定	マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定	○
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X800002BE] ESMCOMMONSERVICE[0X800002C6] ESMCOMMONSERVICE[0X80000515] ESMCOMMONSERVICE[0X8000051A] ESMCOMMONSERVICE[0XC000051C]		通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	
メモリ障害	OobManagement	[PET] 0x000C6F01	センサ診断・故障設定	マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定	○
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC000044C] ESMCOMMONSERVICE[0XC00008FC] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000903] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000959] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000B18] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000B24]		通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	
メモリ障害回復	OobManagement	[PET] 0x800E0301 [PET] 0x800C6F01	何もしない	何もしない	×
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X40000B17]			
VMSアクセス回復	VMwareProvider	Alerm Host connection state on VMS changed from gray to green Alerm Host connection state on VMS changed from red to green	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定 正常	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
VMSアクセス不可	VMwareProvider	Alerm Host connection state on VMS changed from green to red Alerm Host connection state on VMS changed from gray to red	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	×
クラスタノード停止	HyperVProvider	Node[Down]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	×
クラスタノード回復	HyperVProvider	Node[Up]	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 正常	×
クラスタ: ノード障害	SystemMonitorEvent	CLUSTERPRO[0xC00008A4]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	○
クラスタ: パブリックLAN障害	SystemMonitorEvent	CLUSTERPRO[0xC0005217]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	○
グループ用カスタム通報1	SystemMonitorPerf	11000001	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報2	SystemMonitorPerf	11000002	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報3	SystemMonitorPerf	11000003	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報4	SystemMonitorPerf	11000004	何もしない	何もしない	×
グループ用カスタム通報5	SystemMonitorPerf	11000005	何もしない	何もしない	×

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
マシン用カスタム通報1	SystemMonitorPerf	10000001	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報10	SystemMonitorPerf	1000000A	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報2	SystemMonitorPerf	10000002	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報3	SystemMonitorPerf	10000003	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報4	SystemMonitorPerf	10000004	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報5	SystemMonitorPerf	10000005	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報6	SystemMonitorPerf	10000006	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報7	SystemMonitorPerf	10000007	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報8	SystemMonitorPerf	10000008	何もしない	何もしない	×
マシン用カスタム通報9	SystemMonitorPerf	10000009	何もしない	何もしない	×

※ 「マシンアクセス不可能障害」と「CPU負荷障害」のイベントに対して、それぞれ抑制イベントを設定することができます。

抑制の設定方法については、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「4.10.5 ポリシープロパティを設定するには」を参照してください。

1.6.3. 標準ポリシー (仮想マシン) の設定内容

標準ポリシー (仮想マシン) の設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
CPU高負荷	VMwareProvider	仮想マシンのCPU使用率が不明から赤色になりました。 仮想マシンのCPU使用率が	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
		緑色から赤色になりました。 仮想マシンのCPU使用率が黄色から赤色になりました。		マシン設定 / ステータス設定 故障	
CPU高負荷回復	VMwareProvider	仮想マシンのCPU使用率が不明から緑色になりました。 仮想マシンのCPU使用率が黄色から緑色になりました。 仮想マシンのCPU使用率が赤色から緑色になりました。	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 正常	○
マシンアクセス不可	VMwareProvider	仮想マシンのハートビートが不明から赤色になりました。 仮想マシンのハートビートが緑色から赤色になりました。	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	○
マシン停止	VMwareProvider	仮想マシンが電源OFFになりました。	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	○
マシンアクセス回復	VMwareProvider	仮想マシンが電源ONになりました。 仮想マシンのハートビートが不明から緑色になりました。 仮想マシンのハートビートが赤色から緑色になりました。	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 正常	○
メモリ不足	VMwareProvider	仮想マシンのメモリ使用率が不明から赤色になりました。 仮想マシンのメモリ使用率が緑色から赤色になりました。 仮想マシンのメモリ使用率が黄色から赤色になりました。	一部故障ステータス設定	マシン設定 / ステータス設定 一部故障	×
メモリ不足回復	VMwareProvider	仮想マシンのメモリ使用率が不明から緑色になりました。 仮想マシンのメモリ使用率が黄色から緑色になりました。 仮想マシンのメモリ使用率が赤色から緑色になりました。	正常ステータス設定	マシン設定 / ステータス設定 正常	×
ターゲットアクセス不可	AliveMonitor	マシンへのアクセスに失敗しました。	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定 故障	×

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
ターゲットアクセス復旧	AliveMonitor	マシンへのアクセスが回復しました。	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定 正常	
マシンアクセス回復通知	HyperVProvider	Resources(VM)[Online]	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 正常	
マシンアクセス不可通知	HyperVProvider	Resources(VM)[Failed]	故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	

※1 イベント監視の設定には、抑制機能が設定されています (抑制機能については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「1.1.6 ポリシーによる障害の復旧」を参照してください) 。

対応するイベントと、抑制イベントの組み合わせは以下。

・ イベント「CPU高負荷」の抑制イベントは、「CPU高負荷回復」と「マシン停止」

・ イベント「CPU高負荷回復」の抑制イベントは、「CPU高負荷」と「マシン停止」

・ イベント「マシンアクセス不可」の抑制イベントは、「マシンアクセス回復」

・ イベント「マシンアクセス回復」の抑制イベントは、「マシンアクセス不可」

・ イベント「メモリ不足」の抑制イベントは、「メモリ不足回復」と「マシン停止」

・ イベント「メモリ不足回復」の抑制イベントは、「メモリ不足」と「マシン停止」

また、抑制イベントの監視時間は、すべて180秒です。

※2 上記のイベントは、「ポリシープロパティ設定」ウィンドウでの抑制イベントの設定はされません。

※3 Xen環境の場合は、仮想基盤からのイベントは発生しないため、監視設定を行う場合は、イベント名の "ターゲットアクセス不可" / "ターゲットアクセス復旧"、通報元 "AliveMonitor" を有効に変更して監視を行う必要があります。詳細については、「SigmaSystemCenterリファレンスガイド 概要編」の「2.13.11 仮想マシンの死活監視」を参照してください。

1.6.4. 標準ポリシー (仮想マシンサーバ)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力) の設定内容

標準ポリシー (仮想マシンサーバ)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力) の設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
VMSアクセス回復※1	VMwareProvider	ホストの接続状態が不明から緑色になりました。 ホストの接続状態が赤色から緑色になりました。	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定正常	
VMSアクセス不可※1	VMwareProvider	ホストの接続状態が不明から赤色になりました。 ホストの接続状態が緑色から赤色になりました。	稼動中のVMを移動	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定故障	
				マシン操作 / マシン診断・強制OFF	
				VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration, Failover)	
ターゲットアクセス回復	SystemMonitorEvent	ESMDSVNT[0x40000001] SNMPサービスアクセス回復	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
	AliveMonitor	マシンへのアクセスが回復しました。		マシン設定 / ステータス設定正常	
ターゲットアクセス不可	SystemMonitorEvent	ESMDSVNT[0xC0000002] SNMPサービスアクセス不能	稼働中のVMを移動	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
	AliveMonitor	マシンへのアクセスに失敗しました。		マシン操作 / マシン診断・強制OFF	
				VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration, Failover)	
クラスタノード停止	HyperVProvider	Node[Down]	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定故障	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
クラスタノー回復	HyperVProvider	Node[Up]	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定正常	
スケールアウト提案	OptimizedPlacement	Scaleout Recommendation	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
リソースプール消費量警告(致命的)通知	OptimizedPlacement	Resource-Pool Critical Asserted	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
リソースプール消費量警告通知	OptimizedPlacement	Resource-Pool Warning Asserted	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
高負荷検出(SysmonPerf)	SystemMonitorPerf	11000006	負荷分散	VMS操作 / VMSロードバランス	○
低負荷検出(SysmonPerf)	SystemMonitorPerf	11000007	省電力	VMS操作 / VMSパワーセーブ (省電力)	※2
上記に加えて、HW予兆系イベント (1.6.8章参照) が設定されています。 ・ 標準ポリシー (仮想マシンサーバ)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力) では、HW予兆系イベントは無効状態 ・ 標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆) では、HW予兆系イベントは有効状態 (回復イベントは無効状態)					

※1 vCenter Server連携による仮想マシンサーバとのアクセス不可 / 回復のイベントに対する監視設定です。ESMPRO/ServerManager連携による "ターゲットアクセス不可"、"ターゲットアクセス回復" と復旧処置を入れ替えて設定する運用形態も選択可能です。

ESX 5.0を使用する場合は、vCenter Serverで監視するため、"ターゲットアクセス不可"、"ターゲットアクセス回復" と復旧処置を入れ替えて運用してください。

※2 標準ポリシー (仮想マシンサーバ)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆) では無効、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力) では有効です。

※3 「VMSアクセス不可」、「ターゲットアクセス不可」のイベントに対して、「サーバアクセス不可能障害の抑制」の設定を行うことができます。

「CPU負荷障害の抑制」は設定されません。

抑制の設定方法については、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「4.10.5 ポリシープロパティを設定するには」を参照してください。

1.6.5. 標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi) の設定内容

標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi) の設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
VMSアクセス回復	StandaloneEsxProvider	Alarm Host connection state on VMS changed from red to green	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 正常	
VMSアクセス不可	StandaloneEsxProvider	Alarm Host connection state on VMS changed from green to red	VMS上の全VM移動	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
				マシン操作/ マシン診断・強制OFF	
				VMS操作/ 全VMを移動 (Failover)	
ターゲットアクセス不可	AliveMonitor	マシンへのアクセスに失敗しました。	VMS上の全VM移動	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定 故障	
				マシン操作/ マシン診断・強制OFF	
				VMS操作/ 全VMを移動 (Failover)	
ターゲットアクセス復旧	AliveMonitor	マシンへのアクセスが回復しました。	正常ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
				マシン設定 / ステータス設定 正常	
データストア 異常検出	StandaloneEsxProvider	Alarm Datastore on VMS can not be available	VMS上の全VM移動	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
				マシン設定 / ステータス設定故障	
				マシン操作 / マシン診断・強制OFF	
				VMS操作 / 全VMを移動(Failover)	
リソースプール消費量警告(致命的)通知	OptimizedPlacement	Resource-Pool Critical Asserted	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
リソースプール消費量警告通知	OptimizedPlacement	Resource-Pool Warning Asserted	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○

※ 上記に加えて、HW予兆系イベント (1.6.8章参照) が、"有効" で設定されています。(ただし、復旧処置が「何もしない」のイベントは、"無効" で設定されています。)

※ 上記のイベントは、「ポリシープロパティ設定」ウィンドウでの抑制イベントの設定はされません。

1.6.6. 標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 省電力) の設定内容

標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 省電力) の設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
クラスタノード停止※1	HyperVProvider	Node[Down]	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定故障	
クラスタノード回復※1	HyperVProvider	Node[Up]	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
				マシン設定 / ステータス設定正常	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
スケールアウト提案	OptimizedPlacement	Scaleout Recommendation	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
リソースプール消費量警告(致命的)通知	OptimizedPlacement	Resource-Pool Critical Asserted	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
リソースプール消費量警告通知	OptimizedPlacement	Resource-Pool Warning Asserted	通報する	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	○
高負荷検出(SysmonPerf)	SystemMonitorPerf	11000006	負荷分散	VMS操作 / VMSロードバランス	○
低負荷検出(SysmonPerf)	SystemMonitorPerf	11000007	省電力	VMS操作 / VMSパワーセーブ (省電力)	※2
VMSアクセス回復	VMwareProvider	Alarm Host connection state on VMS changed from gray to green Alarm Host connection state on VMS changed from red to green	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定正常	×
VMSアクセス不可	VMwareProvider	Alarm Host connection state on VMS changed from gray to red Alarm Host connection state on VMS changed from green to red	稼働中のVMを移動	通報 / E-mail通報、イベントログ出力 マシン設定 / ステータス設定故障 マシン操作 / マシン診断 強制OFF VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration, Failover)	×
ターゲットアクセス回復	SystemMonitorEvent	ESMDSVNT[0x40000001] SNMPサービスアクセス回復	正常ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	×
	AliveMonitor	マシンへのアクセスが回復しました。		マシン設定 / ステータス設定正常	
ターゲットアクセス不可	SystemMonitorEvent	ESMDSVNT[0xC0000002] SNMPサービスアクセス不能	故障ステータス設定	通報 / E-mail通報、イベントログ出力	×

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
	AliveMonitor	マシンへのアクセスに失敗しました。		マシン設定 / ステータス設定故障	
ネットワークインタフェース障害	HyperVProvider	NetworkInterface[Failed] NetworkInterface[Unavailable] NetworkInterface[Unreachable]	一部故障ステータス設定	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	※3
				マシン設定 / ステータス設定一部故障	
ネットワークインタフェース回復	HyperVProvider	NetworkInterface[Up]	何もしない	何もしない	×
上記に加えて、HW予兆系イベント (1.6.8章参照) が設定されています。 ・ 標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V) では、HW予兆系イベントは無効状態 ・ 標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆) では、HW予兆系イベントは有効状態 (回復イベントは無効状態)					

※1 Hyper-V連携による仮想マシンサーバとのアクセス不可 / 回復のイベントに対する監視設定です。ESMPRO/ServerManager連携による "マシンアクセス不可"、"マシンアクセス回復" と復旧処置を入れ替えて設定する運用形態も選択可能です。

※2 標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆) では無効、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 省電力) では有効です。

※3 標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V) では無効、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆) では有効です。

1.6.7. システムポリシー (マネージャ) の設定内容

システムポリシー (マネージャ) の設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
CSVの空き容量不足	HyperVProvider	CSV[Scarce]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
CSVの空き容量不足解消	HyperVProvider	CSV[Abundant]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
CSV Paused-Critical	HyperVProvider	CSV[Critical]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
CSV Paused-Critical解消	HyperVProvider	CSV[NonCritical]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
データストア ディスク割り当て量不足	VMwareProvider	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from green to red Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from yellow to red Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from gray to red	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
データストア ディスク割り当て量不足解消	VMwareProvider	Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from red to green Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from yellow to green Alarm Datastore Overallocation on disk on DATASTORE changed from gray to green	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
データストア ディスク使用量不足	VMwareProvider	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from green to red Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from yellow to red Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from gray to red	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
データストア ディスク使用量不足解消	VMwareProvider	Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from red to green Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from yellow to green Alarm Datastore usage on disk on DATASTORE changed from gray to green	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	×
CSV回復	HyperVProvider	CSV[NoFaults]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
CSV縮退	HyperVProvider	CSV[NoDirectIO]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
CSV障害	HyperVProvider	CSV[NoAccess] CSV[Maintenance]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)	復旧処置	有効 / 無効
クラスタディスク回復	HyperVProvider	Resources(PhysicalDisk)[Online]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
クラスタディスク障害	HyperVProvider	Resources(PhysicalDisk)[Offline] Resources(PhysicalDisk)[Failed]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
ネットワーク障害	HyperVProvider	Network[Down] Network[Partitioned] Network[Unavailable]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
ネットワーク回復	HyperVProvider	Network[Up]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
クラスタ停止	HyperVProvider	Cluster[NotRunning]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○
クラスタ回復	HyperVProvider	Cluster[Running]	通報	通報 / E-mail 通報、イベントログ出力	○

※ 上記のイベントは、「ポリシープロパティ設定」ウィンドウでの抑制イベントの設定はされません。

メール、イベントログで送付される内容 (本文) は、他のポリシーによって通報される内容とは異なります。(「1.7.1 通報 / E-mail 通報、イベントログ出力」を参照してください。)

1.6.8. HW予兆監視系イベントの設定内容

標準ポリシー (仮想マシンサーバ)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ 予兆)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi)、標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V)、および標準ポリシー (仮想マシンサーバ Hyper-V 予兆) には、HW 予兆系イベント監視も設定されています。

HW 予兆系イベントの設定内容は以下です。

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)
メモリ縮退障害	OobManagement	[PET] 0x000E0301	センサー診断・故障設定
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X80000515]	
メモリ障害	OobManagement	[PET] 0x000C6F01	センサー診断・故障設定
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC000044C] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000903]	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)
メモリ障害回復	OobManagement	[PET] 0x800E0301 [PET] 0x800C6F01	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X40000B17]	
CPU障害	OobManagement	[PET] 0x00076F00 [PET] 0x00076F08	センサー診断・故障設定
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC0000451] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000523]	
CPU温度異常	OobManagement	[PET] 0x00076F01	稼働中の仮想マシンを移動
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC0000454]	
CPU温度回復	OobManagement	[PET] 0x80076F01	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X40000949]	
HW予兆：筐体温度異常	OobManagement	[PET] 0x00010102 [PET] 0x00010104 [PET] 0x00010109 [PET] 0x0001010B	稼働中のVMを移動・サーバシャットダウン ※標準ポリシー（仮想マシンサーバESXi）の場合は、VMS上の全VM移動・サーバシャットダウン
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC0000066] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000070] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000064] ESMCOMMONSERVICE[0XC000093E] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000072]	
HW予兆：電源装置異常	OobManagement	[PET] 0x00090B05	
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC0000915]	
HW予兆：電圧異常	OobManagement	[PET] 0x00020102 [PET] 0x00020104 [PET] 0x00020109 [PET] 0x0002010B [PET] 0x00020703	
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC00001FD] ESMCOMMONSERVICE[0XC00001FF] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000203] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000205] ESMCOMMONSERVICE[0XC0000932]	
HW予兆：ファン/冷却装置異常	OobManagement	[PET] 0x000A0102 [PET] 0x000A0104 [PET] 0x000A0109 [PET] 0x000A010B [PET] 0x00040102 [PET] 0x00040104 [PET] 0x00040109 [PET] 0x0004010B [PET] 0x00040301	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC00000D0] ESMCOMMONSERVICE[0XC00000D2] ESMCOMMONSERVICE[0XC00000D6] ESMCOMMONSERVICE[0XC00000D8] ESMCOMMONSERVICE[0XC00000C8]	
HW予兆:冷却水漏れ	OobManagement	[PET] 0x000A0702	
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0XC0000A8C]	
HW予兆:筐体温度異常回復	OobManagement	[PET] 0x80010102 [PET] 0x80010109 [PET] 0x00010701	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X8000006B] ESMCOMMONSERVICE[0X8000006A] ESMLOCALPOLLING[0X8000006A] ESMCOMMONSERVICE[0X8000093F]	
HW予兆:電圧異常回復	OobManagement	[PET] 0x80020102 [PET] 0x80020109 [PET] 0x00020701	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X800001FE] ESMCOMMONSERVICE[0X80000204] ESMCOMMONSERVICE[0X8000090F]	
HW予兆:ファン/冷却装置異常回復	OobManagement	[PET] 0x800A0102 [PET] 0x800A0109 [PET] 0x80040102 [PET] 0x80040109 [PET] 0x00040701 [PET] 0x000A0701	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X800000D1] ESMCOMMONSERVICE[0X800000D7] ESMCOMMONSERVICE[0X400002C3] ESMCOMMONSERVICE[0X400000CD]	
HW予兆:筐体温度正常回復	OobManagement	[PET] 0x80010100 [PET] 0x80010107 [PET] 0x80010301 [PET] 0x00010700	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X40000068] ESMCOMMONSERVICE[0X40000069] ESMCOMMONSERVICE[0X40000908] ESMCOMMONSERVICE[0X4000092F] ESMCOMMONSERVICE[0X40000941] ESMCOMMONSERVICE[0X40000943]	

イベント名 (既定)	通報元	イベント	対応処置設定名 (既定)
HW予兆:電圧正常回復	OobManagement	[PET] 0x80020100 [PET] 0x80020107 [PET] 0x80020301 [PET] 0x00020700	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X400001FC] ESMCOMMONSERVICE[0X40000202] ESMCOMMONSERVICE[0X40000902] ESMCOMMONSERVICE[0X40000931] ESMCOMMONSERVICE[0X40000BAD] ESMCOMMONSERVICE[0X400001FA] SystemMonitorEvent	
HW予兆:ファン/冷却装置正常回復	OobManagement	[PET] 0x80040100 [PET] 0x80040107 [PET] 0x80040301 [PET] 0x00040700 [PET] 0x800A0100 [PET] 0x800A0107 [PET] 0x000A0700	何もしない
	SystemMonitorEvent	ESMCOMMONSERVICE[0X400000CF] ESMCOMMONSERVICE[0X400000D5] ESMCOMMONSERVICE[0X4000090D] ESMCOMMONSERVICE[0X40000911] ESMCOMMONSERVICE[0X40000B01] ESMCOMMONSERVICE[0X400002C3] ESMCOMMONSERVICE[0X400000CA] ESMCOMMONSERVICE[0X400000CD] ESMCOMMONSERVICE[0X40000945]	

※ 上記のイベントは、「ポリシープロパティ設定」ウィンドウでの抑制イベントの設定はされません。

対応処置設定名が「センサー診断・故障設定」のアクション設定は、以下です。

- ◆ マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定
- ◆ 通報 / E-mail 通報、イベントログ出力

対応処置設定名が「稼働中の VM を移動」のアクション設定は、以下です。

- ◆ 通報 / E-mail 通報、イベントログ出力
- ◆ マシン設定 / ステータス設定 故障
- ◆ VMS 操作 / 稼働中の VM を移動 (Failover)

対応処置設定名が「稼動中の VM を移動・サーバシャットダウン」(標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi) の場合は、「VMS 上の全 VM 移動・サーバシャットダウン」) のアクション設定は、以下です。

◆ 標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi) 以外の場合

- マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定
- 通報 / E-Mail 通報、イベントログ出力
- VMS 操作 / 稼働中の VM を移動 (Migration, Failover)
- マシン操作 / VM サーバ停止 (予兆)
  ※仮想マシンを移動終了後、必ず実行

◆ 標準ポリシー (仮想マシンサーバ ESXi) の場合

- マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定
- 通報 / E-mail 通報、イベントログ出力
- VMS 操作 / 全 VM を移動 (Quick Migration, Failover)
- VMS 操作 / VM サーバ停止 (予兆)

注:

・OOB Management のイベントを検出するためには「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.10. Out-of-Band (OOB) Management を利用するための事前設定を行う」を参照し、「3.10.1 BMC の IP アドレスを設定するには」から「3.10.3 BMC に PET の通報先と通報レベルを設定するには」までの設定を行ってください。ただし、ESMPRO/ServerAgent が動作している管理対象マシンからは OOB Management のイベントは検出されません。

・ESX (Linux) の場合、SystemMonitorEvent のイベントを利用するためには、「ESMPRO/ServerAgent ユーザーズガイド(Linux 編)」の「3.2.2. その他の設定」を参照して、監視するマシン上でエラー発生時のシャットダウン機能を無効にしてください。

・Hyper-V (Windows) の場合、以下の手順で監視するマシン上でエラー発生時のシャットダウン機能を無効にしてください。

1. ESMPRO/ServerAgent のコントロールパネルより、[全般] タブから [通報設定] をクリックし、「アラートマネージャ」画面を起動します。
2. 「アラートマネージャ」画面から、[設定] メニューの [通報基本設定] を選択します。
3. [その他の設定] タブのシャットダウン開始までの時間設定の設定有効 / 無効ビットマップをクリックして、緑色から赤色に変更します。

1.7. ポリシーのアクション一覧

SigmaSystemCenter では、指定した監視イベントに対するアクションをカスタマイズし、独自のポリシーを作成することができます。アクションには以下の種類があります。

- 通報 / E-mail 通報、イベントログ出力
- 通報 / E-mail 送信
- 次のアクション実行を待機
- マシン設定 / ステータス設定 正常
- マシン設定 / ステータス設定 一部故障
- マシン設定 / ステータス設定 故障
- マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定
- マシン設定 / 個別ステータス診断、ステータス設定 正常
- マシン設定 / 総合回復診断、ステータス設定 正常
- マシン操作 / マシン起動
- マシン操作 / マシン再起動
- マシン操作 / マシン停止 (シャットダウン)
- マシン操作 / LED 点灯
- マシン操作 / LED 消灯
- マシン操作 / マシン置換
- マシン操作 / マシン置換 (直ちに強制 OFF)
- マシン操作 / マシン診断・強制 OFF
- グループ操作 / スケールアウト マシン追加
- グループ操作 / スケールアウト マシン起動
- グループ操作 / グループマシン作成・追加
- グループ操作 / スケールイン マシン削除
- グループ操作 / グループマシン削除 (VM 削除)
- グループ操作 / スケールイン マシン休止 (サスペンド)
- グループ操作 / スケールイン マシン停止 (シャットダウン)
- グループ操作 / VM 配置制約を適用する
- グループ操作 / 予備 VM サーバを起動する
- VMS 操作 / 稼働中の VM を移動 (Failover)
- VMS 操作 / 稼働中の VM を移動 (Migration)
- VMS 操作 / 稼働中の VM を移動 (Migration, Failover)
- VMS 操作 / 全 VM を移動(Failover)
- VMS 操作 / 全 VM を移動(Migration)
- VMS 操作 / 全 VM を移動(Migration, Failover)
- VMS 操作 / 全 VM を移動 (Quick Migration, Failover)
- VMS 操作 / VMS パワーセーブ (省電力)
- VMS 操作 / VMS ロードバランス
- VMS 操作 / VM サーバ停止 (予兆)

- ◆ VMS 操作 / VM 配置制約を適用する
- ◆ ローカルスクリプト実行
- ◆ アクション実行結果のリセット

注:

- 仮想マシン単体の移動系ポリシーアクションは、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。代用機能として、仮想マシンサーバの監視によるパワーセーブ (省電力化) とロードバランスのポリシーアクションを追加しています。

アップグレードインストールなどを行った場合、廃止されたポリシーアクションを登録していたポリシー設定は "なにもしない" に変換されます。

- 以下のアクションについては、下記の注意事項があります。

- ◆ グループ操作 / スケールイン マシン削除
- ◆ グループ操作 / グループマシン削除 (VM 削除)
- ◆ グループ操作 / スケールイン マシン休止 (サスペンド)
- ◆ グループ操作 / スケールイン マシン停止 (シャットダウン)
- ◆ マシン操作 / マシン停止 (シャットダウン)
- ◆ マシン操作 / マシン診断・強制 OFF

該当グループで正常に稼動しているマシンが該当グループの最低稼働台数の設定値以下の場合、ジョブは警告つきの正常終了となり、操作は行われません。また、最低稼働台数が "0" の場合は、正常に稼動するマシンがなくなってしまう場合があります。

各アクションの詳細に関しては、以降の項を参照してください。

関連情報: 各アクションのうち、マシン構成変更時の処理に該当するアクションについては、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「1.6. マシンの構成変更時の処理」に処理の詳細な記述があります。

1.7.1. 通報 / E-mail通報、イベントログ出力

検出した内容や、ポリシーによるアクションの起動・結果などを、E-mail 送信と、イベントログへの登録により、通報します。

イベント検出・アクションを起動・アクション終了のタイミングで、イベントログへの登録や E-mail 通報が行われます。

E-mail の送信先などの設定は、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.4.2 障害時のメール通報の設定を行うには」を参照してください。

ポリシーやイベントごとに、E-mail 通報とイベントログ登録を分けて設定することはできません。

このアクションは、同一マシンに関するマシン操作・設定アクションとの多重・並列実行が可能です。

通報のタイミングとイベントログ、メールの文面は以下の通りです。メールの Subject は処理に失敗したとき "Error Message"、それ以外は "Information Message" になります。

イベントログ ID 別の登録情報については、「2.2.1 SystemProvisioning のイベントログ」を参照してください。

◆ 障害の通報受信時

イベントログ ID : 502 と 530、531、532 のいずれか

メール文面 :

通報を受信しました。("通報情報")

◆ 障害の処理を開始したとき

イベントログ ID : 502 と 540

メール文面 :

通報によるアクション("処理名")を起動しました。管理 ID:"管理番号"

◆ 障害の処理に成功したとき

イベントログ ID : 502 と 541

メール文面 :

通報によるアクション("処理名")を完了しました。管理 ID:"管理番号"

◆ 障害の処理に失敗したとき

イベントログ ID : 502 と 542

メール文面 :

通報によるアクション("処理名")に失敗しました。管理 ID:"管理番号"

◆ 障害の処理がキャンセルされたとき

イベントログ ID : 502 と 543

メール文面 :

通報によるアクション("処理名")がキャンセルされました。管理 ID:"管理番号"

ただし、「システムポリシー(マネージャ)」による通報の場合、以下の通りです。

◆ 障害の通報受信時

イベントログ ID : 502 と 536

メール文面 :

マネージャでのイベントを検出しました。

イベント番号 : XXXXXXXX

マネージャ名 : YYYYYYYY

イベントメッセージ : ZZZZZZZZ

注:

- 「システムポリシー(マネージャ)」による通報の場合は、イベントの受信時のみ通報されます。
- 「システムポリシー(マネージャ)」による通報の内容は、SystemProvisioning のインストールフォルダ配下にある以下のファイルで定義されています。

SystemProvisioning インストールフォルダ¥conf¥PvmCustom.xml

1.7.2. 通報 / E-mail送信

アクションの順番が来たタイミングで、E-mail 送信より通報します。

このアクションで送信する E-mail の内容は、「アクションパラメータ詳細」ウィンドウで指定します。メールの Subject は "Subject"に、メール本文は "content" に入力します。

また、メール本文の最後には情報が付加されます。付加される情報については、「2.2.1 SystemProvisioning のイベントログ」の「◆ イベント ID が 51X、52X、53X、54X の出力メッセージについて」を参照してください。

このアクションは、同一マシンに関するマシン操作・設定アクションとの多重・並列実行が可能です。

関連情報: E-mail の送信先などの設定は、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.4.2 障害時のメール通報の設定を行うには」を参照してください。

1.7.3. 次のアクション実行を待機

次のアクションの実行を一定時間待ち合わせます。

このアクションで待ち合わせる時間は、「アクションパラメータ詳細」ウィンドウで指定します。待ち合わせる時間を "WaitTime(Second)" に入力します。

単位は秒です。既定値は 60 秒で、最大設定値は 3600 秒です。

このアクションは、同一マシンに関するマシン操作・設定アクションとの多重・並列実行が可能です。

1.7.4. マシン設定 / ステータス設定 正常

該当マシンとの接続確認を行い、ハードウェアステータスを、"正常" に設定します。

対象が仮想マシンサーバの場合には、既定値で最大で 5 分間接続確認を行います。

このアクションは、同一マシンに関する操作・設定アクションとの多重・並列実行が可能です。

1.7.5. マシン設定 / ステータス設定 一部故障

該当マシンのハードウェアステータスを、"一部故障" に設定します。

1.7.6. マシン設定 / ステータス設定 故障

該当マシンのハードウェアステータスを、"故障" に設定します。

1.7.7. マシン設定 / センサー診断、故障ステータス設定

該当マシンが実装しているハードウェアセンサー情報を取得し、問題が発生していないか確認します。取得したセンサーで重大な問題が発生している場合、ハードウェアステータスを "故障" に設定し、正常終了します。

また、問題が無い場合にはハードウェアステータスを変更せず、異常終了します。後続のアクションが実行条件 "Success" で登録されている場合、そのアクションは実行されません。

診断対象となるハードウェアのセンサーは [リソース] ー [マシン詳細情報] ー [IPMI 情報] ー [センサー] タブで表示されているセンサーのなかで、[センサー診断から除外する] チェックボックスがオンになっていないセンサーとなります。詳細については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「9.9.2 [センサー] タブ」を参照してください。

注:

・この機能を正しく利用するためには、「1.5.2 センサー診断」を参照してください。

・この機能で検出したセンサー異常状態は、[リソース] – [マシン詳細情報] ー [IPMI 情報] ー [センサー] タブで確認することができます。 ただし、以下の場合には異常を確認できない可能性があります。

- センサー診断を行った後、センサー収集を行ったとき
- センサー診断を行った後、[リソース] ー [マシン詳細情報] ー [IPMI 情報] ー [センサー] タブで情報再取得を行ったとき
- センサー診断において、センサー情報読み取り不能、および BMC への通信異常などが原因で解析結果として故障マークを設定した場合

上記の場合、[センサー] タブで異常を確認することはできませんが、センサー診断の実行内容を [監視] ー [ジョブ]、および [イベント履歴] で確認することができます。

[監視] ー [ジョブ] からセンサー診断のジョブを見つけて、[イベント] 列のリンクをクリックすることで、詳細を見ることができます。また、同じように [イベント履歴] にて、契機となったイベントの番号のリンクをクリックすることで、詳細を見ることができます。

1.7.8. マシン設定 / 個別ステータス診断、ステータス設定・正常

該当マシンに関連する状態詳細を確認し、すべてのステータスが正常な場合、ハードウェアステータスを "正常" に設定し、正常終了します。

また、正常ではないステータスが存在した場合には、ハードウェアステータスを変更せず、異常終了します。後続のアクションが実行条件 "Success" で登録されている場合、そのアクションは実行されません。

診断対象となる状態詳細は、[リソース] ー [マシンステータス情報] ー [ハードウェアステータス (状態詳細)] ー [状態一覧] で表示されているステータスが該当します。

関連情報: 個別ステータス診断の詳細については、「1.5.3 個別ステータス診断」を参照してください。

1.7.9. マシン設定 / 総合回復診断、ステータス設定・正常

該当マシンに関連するすべての状態 (仮想マシンサーバとしての状態、センサーの状態、マシンの状態詳細) を元に、総合的にマシンを診断し "正常" と判断した場合、ハードウェアステータスを "正常" に設定し、正常終了します。

また、正常ではないと判断した場合には、ハードウェアステータスを変更せずに、異常終了します。後続のアクションが実行条件 "Success" で登録されている場合、そのアクションは実行されません。

該当マシンが仮想マシンサーバでない場合、仮想マシンサーバとしての診断は行いません。また、該当マシンが Out-of-Band Management 管理されていない場合は、センサーの診断は行いません。その場合、実行可能な診断の結果を元に状態を判断します。

関連情報: 総合回復診断の詳細については、「1.5.4 総合回復診断」を参照してください。

1.7.10. マシン操作 / マシン起動

該当マシンを起動します。

1.7.11. マシン操作 / マシン再起動

該当マシンを再起動します。

1.7.12. マシン操作 / マシン停止 (シャットダウン)

該当マシンを停止します。

ただし、該当グループで "故障" でなく、電源がON状態で稼動しているマシンが1台のみの場合には、実行されません。

1.7.13. マシン操作 / LED点灯

該当マシンに LED の点灯要求を送信します。

このアクションは、同一マシンに関する操作・設定アクションとの多重・並列実行が可能です。

1.7.14. マシン操作 / LED消灯

該当マシンに LED の消灯要求を送信します。

このアクションは、同一マシンに関する操作・設定アクションとの多重・並列実行が可能です。

1.7.15. マシン操作 / マシン置換

該当マシンを、プールあるいは共通プールで待機しているマシンと置換します。

該当マシンのシャットダウンに失敗した場合は、強制 OFF を行います。

置換後の該当マシンは、グループプールで待機状態になります。

1.7.16. マシン操作 / マシン置換 (直ちに強制OFF)

該当マシンを、プールあるいは共通プールで待機しているマシンと置換します。

該当マシンのシャットダウンを行わず、直ちに強制 OFF を行います。

置換後の該当マシンは、グループプールで待機状態になります。

1.7.17. マシン操作 / マシン診断・強制OFF

該当マシンの状態を診断し、強制 OFF 可能な場合、該当マシンの強制 OFF を行います。

このアクションは、まず、診断機能により障害が発生したマシンの復旧が可能どうかについて、詳細な診断を行います。障害が発生したマシンが仮想マシンサーバ (VMware, XenServer) の場合、診断処理を実行します。

診断により復旧処理する必要がないと判断した場合や復旧処理を実行できる状況ではないと判断した場合は、異常終了します。診断により障害が発生したマシンの復旧の可能性があると判断した場合、復旧のために障害が発生したマシンの強制 OFF 処理を開始します。

強制 OFF 処理では、最初に、障害が発生した仮想マシンサーバへ接続できるかどうかを確認し、仮想マシンサーバへ接続できない場合は、その仮想マシンサーバ上で起動中の仮想マシンを DPM 経由の電源制御でシャットダウンを行います。このシャットダウンは、SigmaSystemCenter 管理サーバからは仮想マシンサーバに接続できないが、実際は仮想マシンサーバがダウンしていない状態を想定して、その上で起動中の仮想マシンをできるだけ安全な状態にしておくための処置です。

次に、障害が発生したマシンの ACPI シャットダウンを行います。失敗した場合、強制 OFF を行い、復旧処理が実行されるように正常終了します。強制 OFF に失敗した場合も、後続の復旧処理が成功する可能性があるため、警告を運用ログに出力して正常終了します。

障害が発生したマシンが仮想マシンサーバ (VMware, XenServer) 以外の場合、診断の処理は実行せずに、ACPI シャットダウンを行い、正常終了します。障害が発生したマシンの ACPI シャットダウン実行に失敗した場合は、強制 OFF を行います。強制 OFF 後、強制 OFF の実行結果に関わらず正常終了します。

関連情報: 診断機能の詳細については、「1.5 診断機能について」を参照してください。

1.7.18. グループ操作 / スケールアウト マシン追加

該当グループで稼動するマシンを追加します。

1.7.19. グループ操作 / スケールアウト マシン起動

リソースにホストを割り当てて該当グループに追加したマシンのうち、該当グループの設定に従い、停止しているマシンを起動します。

1.7.20. グループ操作 / グループマシン作成・追加

該当グループで稼動するマシン (仮想マシン) を作成し、追加します。

1.7.21. グループ操作 / スケールイン マシン削除

該当グループで稼動しているマシンを該当グループの設定に従い、削除、または停止します。

削除されたマシンは、グループプールに移動します。

1.7.22. グループ操作 / グループマシン削除 (VM削除)

該当グループで稼動しているマシン (仮想マシン) を 1 台削除します。

マシンは、完全に削除されます。

仮想マシンサーバが停止状態の場合、仮想マシンサーバを起動して削除を行います。仮想マシンサーバに対して省電力イベントを設定したポリシーを適用している場合、省電力イベント発生後に仮想マシンサーバがシャットダウンされますが、その他の場合は、仮想マシンサーバが起動した場合、仮想マシン削除後に仮想マシンサーバのシャットダウンを行ってください。

1.7.23. グループ操作 / スケールイン マシン休止 (サスペンド)

該当グループで稼動しているマシンを該当グループの設定に従い、休止 (サスペンド) 状態にします。

1.7.24. グループ操作 / スケールイン マシン停止 (シャットダウン)

該当グループで稼動しているマシンを該当グループの設定に従い、停止します。

1.7.25. グループ操作 / VM配置制約を適用する

該当グループ上で稼動中の仮想マシンサーバに対し、稼動中の仮想マシンを配置制約に従って再配置します。

配置制約により、仮想マシンが停止中の仮想マシンサーバに制約されている場合、対象となる仮想マシンサーバの起動を行い、移動します。

配置制約が設定されていない仮想マシンに対しては操作を行いません。

1.7.26. グループ操作 / 予備VMサーバを起動する

該当仮想マシンモデル上で稼動中の仮想マシンサーバに対し、最適配置設定で設定されている予備マシン条件を満たすよう、仮想マシンサーバの起動を行います。

予備マシンと判断される仮想マシンサーバとは、仮想マシンが起動しておらず、かつ故障状態やメンテナンス状態にない仮想マシンサーバが対象となります。

予備マシン数は、最適配置設定の「負荷の変動に対応するため、停止せずに待機する予備マシンの台数 (省電力)」の値に従います。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

なお、「VMS 操作 / パワーセーブ (省電力)」は本機能と同等の機能を有するため、両アクションを同一のイベントに対して設定することは推奨されません。

1.7.27. VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Failover)

該当仮想マシンサーバ上の稼動中の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Failover を使用します。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.28. VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration)

該当仮想マシンサーバ上の稼動中の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Migration を使用します。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.29. VMS操作 / 稼働中のVMを移動 (Migration, Failover)

該当仮想マシンサーバ上の稼動中の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Migration を使用します。Migration に失敗した場合、更に Failover を試みます。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.30. VMS操作 / 全VMを移動 (Failover)

該当仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Failover を試みます。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.31. VMS操作 / 全VMを移動 (Migration)

該当仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Migration を使用します。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.32. VMS操作 / 全VMを移動 (Migration, Failover)

該当仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Migration を使用します。Migration に失敗した場合、更に Failover を試みます。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.33. VMS操作 / 全VMを移動 (Quick Migration, Failover)

該当仮想マシンサーバ上の仮想マシンを他の仮想マシンサーバに移動します。

移動方法としては、Quick Migration を使用します。Quick Migration に失敗した場合、更に Failover を試みます。

このアクションは、仮想マシンサーバで検出されるイベントに対してのみ有効です。

また、該当仮想マシンサーバが、XenServer において Pool Master、かつ停止中である場合、他の仮想マシンサーバに Pool Master の切り替え処理を実施します。

1.7.34. VMS操作 / VMSパワーセーブ (省電力)

該当仮想マシンサーバの負荷状況 (低負荷) に合わせて、仮想マシンサーバ上の仮想マシンの再配置 (VM 移動) を行います。

再配置後、稼動中の仮想マシンが存在しなくなった場合、該当仮想マシンサーバを停止させ、省電力化します。

このアクションは、仮想マシンサーバの低負荷検出 (通報元: [SystemMonitorPerf] イベント: [11000007]) イベントに対する最適配置アクションとして実装されています。

1.7.35. VMS操作 / VMSロードバランス

該当仮想マシンサーバの負荷状況 (高負荷) に合わせて、仮想マシンサーバ上の仮想マシンの再配置 (VM 移動) を行い、負荷の解消を行います。

稼動中の仮想マシンサーバだけでは負荷の解消ができないと判断した場合には、停止中の仮想マシンサーバを起動し、仮想マシンの再配置を行います。

このアクションは、仮想マシンサーバの高負荷検出 (通報元: [SystemMonitorPerf] イベント: [11000006]) イベントに対する最適配置アクションとして実装されています。

1.7.36. VMS操作 / VM配置制約を適用する

該当仮想マシンサーバに対し、起動中の仮想マシンを配置制約に従って再配置します。

他の仮想マシンサーバ上に存在し、該当仮想マシンサーバに制約されている仮想マシン、および該当仮想マシンサーバ上に存在し、配置制約を満足していない仮想マシンが再配置の対象となります。

配置制約が設定されていない仮想マシンに対しては、操作を行いません。

1.7.37. VMS操作 / VMサーバ停止 (予兆)

該当仮想マシンサーバを停止します。

ただし、該当仮想マシンサーバを停止した場合、SystemProvisioning の管理 / 制御に問題が生じると判断される場合には実行されません (例えば、XenServer の Pool Master が対象の場合)。

1.7.38. ローカルスクリプト実行

該当マシンまたはグループに対して、ローカルスクリプトを実行します。

このアクションで実行するローカルスクリプトは、「アクションパラメータ詳細」ウィンドウにて指定します。設定の方法は、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.10.6 ポリシー監視イベントの対応処置詳細を設定するには」を参照してください。

スクリプトファイル名自体を変更した場合は、再度、「アクションパラメータ編集」ウィンドウから、パラメータ (スクリプトファイル名) を指定しなおしてください。

1.7.39. アクション実行結果のリセット

このアクションまでに実行していたアクションの実行結果が異常終了であっても、ジョブの実行結果には反映しない (失敗しない) ようにします。

運用としては、アクションの実行結果 "Failed" と組み合わせて使用します。

2. ログ

本章では、SigmaSystemCenter が出力するログについて説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 2.1 ログの種類 128
- 2.2 イベントログ 129
- 2.3 ログファイル一覧 177

2.1. ログの種類

SystemProvisioning が出力するログには、以下があります。

◆ 運用ログ

SystemProvisioning の運用状況を記録します。

運用ログは、[監視] ビューの「運用ログ」ウィンドウから参照することができます。

この「運用ログ」ウィンドウに表示される運用ログは、データベースに保存されます。最大出力件数を超えた場合には、古いログデータから削除されます。

また、ssc コマンドを使用して csv 形式で出力することができます。

◆ イベントログ

「イベント ビューア」の [アプリケーション] から確認できます。

◆ デバッグログ

障害解析用のデバッグログをファイルに出力します。ログファイルの一覧については、「2.3 ログファイル一覧」を参照してください。

2.2. イベントログ

SigmaSystemCenter の運用に関連する SystemProvisioning のイベントログの出力の一覧を記載します。

関連情報: SystemMonitor 性能監視のイベントログについては、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「9.1. イベントログ」を参照してください。

本節のイベントは、[スタート] メニューから [コントロールパネル] － [管理ツール] － [イベント ビューア] から起動した「イベント ビューア」の [アプリケーション] で確認できます。

2.2.1. SystemProvisioningのイベントログ

SystemProvisioning が登録するイベントログの一覧です。イベントソース名は PVM になります。

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
101	PVMサービスが起動し運用を開始しました。	情報	PVMサービスが開始されました。	なし
102	PVMサービスの起動に失敗しました。(内容:起動失敗["情報"]) PVMサービスの起動に失敗しました。(内容:起動失敗)	エラー	PVMサービスの起動時にエラーが発生しました。 "情報" ：起動に失敗したモジュール名	ログを採取し、サービスを再起動してください。
105	PVM運用を停止します。	エラー	サービスの停止処理中に、異常が発生しました。	ログを採取してください。
106	停止操作によりPVMサービスを停止します。	情報	停止操作により、PVMサービスが停止します。	なし
107	製品ライセンスはあと"残日数"日で有効期限が切れます。	情報	評価版ライセンスを使用していて、ライセンス使用期限まで残り1週間以内になっています。	ライセンスを製品版などに更新してください。
107	製品ライセンスが期限切れです。	情報	評価版ライセンスの使用期限が切れました。	ライセンスを製品版などに更新してください。
110	PVMサービスの起動に失敗しました。PVM運用を停止します。(エラーメッセージ)	エラー	SystemProvisioning起動時にデータベースへの接続が失敗等の理由でPVMサービスが開始できませんでした。	エラーメッセージを確認し、失敗要因を取り除き、PVMサービスを起動してください。
150	構成情報データベースのトランザクションログがファイルサイズ("ファイルサイズ")を超えました。 (ファイル名:"ファイル名")	情報	トランザクションログが肥大化しています。	システムの性能劣化やディスク容量の圧迫を招く可能性があります。SystemProvisioningを停止させて、トランザクションログを圧縮してください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
502 ※1	通報を受信しました。("情報")	情報	ポリシーで「通報する」のアクションが設定されている通報を受信しました。 "情報":通報の内容	なし
502 ※1	マネージャでのイベントを検出しました。 イベント番号:"イベントID" マネージャ名:"マネージャ名" イベントメッセージ:"イベントメッセージ"	情報	(マネージャで検出されるディスク容量などの監視の通報です。)	なし
502 ※1	通報によるアクション("情報")を起動しました。管理ID:"管理ID"	情報	ポリシーで「通報する」のアクションが設定されている通報での、通報以外のアクションを起動しました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
502 ※1	通報によるアクション("情報")を完了しました。管理ID: "管理ID"	情報	ポリシーで「通報する」のアクションが設定されている通報での、通報以外で起動したアクションが完了しました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
502 ※1	通報によるアクション("情報")に失敗しました。管理ID: "管理ID"	情報	ポリシーで「通報する」のアクションが設定されている通報での、通報以外で起動したアクションに失敗しました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
502 ※1	通報によるアクション("情報")がキャンセルされました。管理ID: "管理ID"	情報	ポリシーで「通報する」のアクションが設定されている通報での、通報以外で起動したアクションがキャンセルされました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
510	イベントを検出しました。 対象:"対象情報" イベント:"イベント情報" ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	対象マシンで、情報レベルの検出がありました。 ※2	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
511	イベントを検出しました。 対象:"対象情報" イベント:"イベント情報" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	対象マシンで、警告レベルの検出がありました。 ※2	なし
512	イベントを検出しました。 対象:"対象情報" イベント:"イベント情報" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	対象マシンで、エラーレベルの検出がありました。 ※2 SystemProvisioningのエラーではないので、種類を警告にしています。	なし
520	イベントを検出しました。 対象:"対象情報" イベント:"イベント情報" ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	対象VMで、情報レベルの検出がありました。 (デフォルトでは登録しません)	なし
521	イベントを検出しました。 対象:"対象情報" イベント:"イベント情報" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	対象VMで、警告レベルの検出がありました。 (デフォルトでは登録しません)	なし
522	イベントを検出しました。 対象:"対象情報" イベント:"イベント情報" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	対象VMで、エラーレベルの検出がありました。 (デフォルトでは登録しません) SystemProvisioningのエラーではないので、種類を警告にしています。	なし
530	通報を受信しました。("イベントメッセージ" ; "対象") ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	対象マシンで、ポリシーで監視設定されている正常化などの情報検出がありました。	なし
531	通報を受信しました。("イベントメッセージ" ; "対象") ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	対象マシンで、ポリシーで監視設定されている警告レベルの異常検出がありました。	なし
532	通報を受信しました。("イベントメッセージ" ; "対象") ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	対象マシンで、ポリシーで監視設定されているエラーレベルの異常検出がありました。 SystemProvisioningのエラーではないので、種類を警告にしています。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
536	マネージャでのイベントを検出しました。 イベント番号:"イベントID" マネージャ名:"マネージャ名" イベントメッセージ:"イベントメッセージ" ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	マネージャで、ポリシーで監視設定されている正常化などの情報検出がありました。	なし
537	マネージャでのイベントを検出しました。 イベント番号:"イベントID" マネージャ名:"マネージャ名" イベントメッセージ:"イベントメッセージ" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	マネージャで、ポリシーで監視設定されている警告レベルの異常検出がありました。 (デフォルトでは登録しません。)	なし
538	マネージャでのイベントを検出しました。 イベント番号:"イベントID" マネージャ名:"マネージャ名" イベントメッセージ:"イベントメッセージ" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	マネージャで、ポリシーで監視設定されているエラーレベルの異常検出がありました。 (デフォルトでは登録しません。)	なし
540	通報によるアクション("情報")を起動しました。管理ID: "管理ID" ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	自律制御としてのアクションを起動しました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
541	通報によるアクション("情報")が完了しました。管理ID: "管理ID" ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	自律制御としてのアクションが正常終了しました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
542	通報によるアクション("情報")に失敗しました。管理ID: "管理ID" ---------- ※付加情報(下記参照)	警告	自律制御としてのアクションが異常終了しました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし
543	通報によるアクション("情報")がキャンセルされました。管理ID: "管理ID" ---------- ※付加情報(下記参照)	情報	自律制御としてのアクションがキャンセルされました。 "情報":アクションの情報 "管理ID":アクションの管理番号	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2000	アクションシーケンス実行管理内部で例外が発生しました。 説明="説明"	エラー	アクションシーケンス実行管理プロセスにて内部処理エラーが発生しました。	レジストリの読み込みに失敗している可能性があります。インストールが正しく行われているか確認してください。
2010	アクションシーケンス実行管理はパーツの登録に失敗したため、プロセスを開始できません。登録に失敗したパーツ名="パーツ名" 原因="原因"	エラー	アクションシーケンス実行管理プロセスにて内部処理エラーが発生しました。	サービス起動時の処理に失敗した可能性があります。インストールが正しく行われているか確認してください。
2012	アクションシーケンスの読み込みに失敗したため、実行できません。アクションシーケンス名="アクションシーケンス名" 原因="原因"	エラー	アクションシーケンスが見つからないため、実行できません。	アクションシーケンスファイルが存在しません。該当アクションシーケンスファイルがSystemProvisioningインストールパス¥ActionSequenceフォルダ配下にあるか確認してください。
2021	マシンを起動する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 起動するマシン("マシン名")	情報	マシンを起動します。	なし
2022	マシンを起動する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 起動するマシン("マシン名")	情報	マシンの起動が完了しました。	なし
2023	マシンを起動する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 起動するマシン("マシン名")	警告	マシンの起動が失敗しました。	マシンの起動処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2024	マシンを起動する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 起動するマシン("マシン名")	情報	マシンの起動はキャンセルされました。	なし
2025	マシンを停止する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 停止するマシン("マシン名")	情報	マシンをシャットダウンします。	なし
2026	マシンを停止する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 停止するマシン("マシン名")	情報	マシンのシャットダウンが完了しました。	なし
2027	マシンを停止する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 停止するマシン("マシン名")	警告	マシンのシャットダウンが失敗しました。	マシンのシャットダウン処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2028	マシンを停止する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 停止するマシン("マシン名")	情報	マシンのシャットダウンはキャンセルされました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2029	マシンを再起動する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 再起動するマシン("マシン名")	情報	マシンを再起動します。	なし
2030	マシンを再起動する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 再起動するマシン("マシン名")	情報	マシンの再起動が完了しました。	なし
2031	マシンを再起動する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 再起動するマシン("マシン名")	警告	マシンの再起動が失敗しました。	マシンの再起動処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2032	マシンを再起動する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 再起動するマシン("マシン名")	情報	マシンの再起動はキャンセルされました。	なし
2033	マシンをグループに追加する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 稼動するマシン("マシン名") マシンを稼動させるグループ("グループ名")	情報	グループにマシンを追加し、マシンを稼動させます。	なし
2034	マシンをグループに追加する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 稼動するマシン("マシン名")	情報	グループにマシンを追加する処理が完了しました。	なし
2035	マシンをグループに追加する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 稼動するマシン("マシン名") マシンを稼動させるグループ ("グループ名")	警告	グループにマシンを追加する処理が失敗しました。	グループにてマシンを稼動させることができませんでした。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。状態が異常と表示されるマシンがグループに残っている場合は、マシンをいったんグループから削除し、失敗要因を取り除いた上で再度グループに登録してください。
2036	マシンをグループに追加する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 稼動するマシン("マシン名")	情報	グループにマシンを追加する処理がキャンセルされました。	なし
2037	グループで稼動しているマシンを待機させる処理を開始しました。管理ID:"管理ID" グループで稼動しているマシン("マシン名") マシンが稼動しているグループ("グループ名")	情報	グループで稼動しているマシンを待機させます。	なし
	グループで稼動しているマシンをグループから削除し、VMの実体を削除する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" グループで稼動している削除するマシン("マシン名") マシンが稼動しているグループ("グループ名")	情報	グループで稼動していたマシン (VM) をグループから削除してから実体を削除します。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2038	グループで稼動しているマシンを待機させる処理を完了しました。管理ID:"管理ID" グループで稼動しているマシン("マシン名")	情報	グループで稼動しているマシンを待機させる処理が完了しました。	なし
	グループで稼動しているマシンをグループから削除し、VMの実体を削除する処理を完了しました。管理ID:"管理ID"	情報	グループで稼動していたマシン (VM) をグループから削除してから実体を削除する処理が完了しました。	なし
2040	グループで稼動しているマシンを待機させる処理が失敗しました。管理ID:"管理ID"	警告	グループで稼動しているマシンを待機させる処理が失敗しました。	グループで稼動していたマシンの待機処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
	グループで稼動しているマシンをグループから削除し、VMの実体を削除する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID"	警告	グループで稼動していたマシン (VM) をグループから削除してから実体を削除する処理が失敗しました。	グループで稼動していたマシンの待機処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2041	グループで稼動しているマシンを待機させる処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"	情報	グループで稼動しているマシンを待機させる処理はキャンセルされました。	なし
	グループで稼動しているマシンをグループから削除し、VMの実体を削除する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"	情報	グループで稼動していたマシン (VM) をグループから削除してから実体を削除する処理はキャンセルされました。	なし
2042	指定されたマシンを待機マシンと交換する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 交換元のマシン("マシン名")	情報	グループで稼動していたマシンを待機中のマシンと交換します。	なし
2043	指定されたマシンを待機マシンと交換する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 交換元のマシン("マシン名") 交換先のマシン ("マシン名")	情報	グループで稼動していたマシンと待機中のマシンとの交換が完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2044	指定されたマシンを待機マシンと交換する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 交換するマシン("マシン名")	警告	グループで稼動していたマシンと待機中のマシンとの交換が失敗しました。	グループで稼動していたマシンと待機中のマシンとの交換が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。状態が異常と表示されるマシンがグループに残っている場合は、マシンをいったんグループから削除し、失敗要因を取り除いた上で再度グループに登録してください。
2045	指定されたマシンを待機マシンと交換する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 交換するマシン ("マシン名")	情報	グループで稼動していたマシンと待機中のマシンとの交換がキャンセルされました。	なし
2050	マシンの用途変更を実施する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 用途変更元マシン("マシン名") 用途変更元グループ("グループ名") 用途変更先グループ("グループ名")	情報	マシンの用途変更を行います。	なし
2051	マシンの用途変更を実施する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 用途変更元マシン("マシン名")	情報	マシンの用途変更が完了しました。	なし
2052	マシンの用途変更を実施する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID"	警告	マシンの用途変更が失敗しました。	グループで稼動していたマシンの他のグループへの用途変更で失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。状態が異常と表示されるマシンがグループに残っている場合は、マシンをいったんグループから削除し、失敗要因を取り除いた上で再度グループに登録してください。
2053	マシンの用途変更を実施する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"	情報	マシンの用途変更がキャンセルされました。	なし
2054	VMを作成し、グループで稼動する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 作成するVM名("VM名") マシンを稼動させるグループ("グループ名") 作成するVMのマシン定義("ホスト名")	情報	グループにマシンを作成します。	なし
2055	VMを作成し、グループで稼動する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 作成したVM("マシン名")	情報	グループへのマシン作成処理が完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2056	VMを作成し、グループで稼動する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 作成したVM("マシン名")	警告	グループへのマシン作成処理が失敗しました。	グループへのマシン作成処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。状態が異常と表示されるマシンがグループに残っている場合は、マシンをいったんグループから削除し、失敗要因を取り除いた上で再度グループに登録してください。
2057	VMを作成し、グループで稼動する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 作成したVM("マシン名")	情報	グループへのマシン作成処理がキャンセルされました。	なし
2062	VMを移動する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 対象VM("マシン名") Migration("True / False") Storage Migration("True / False") Failover("True / False") サスペンド後に移動(Quick Migration)("True / False") 停止後に移動(Move)("True / False") 拡張ディスク除外指定("True / False")	情報	グループの仮想マシンを移動させます。この処理は仮想マシンのみ動作可能な処理です。	なし
2063	VMを移動をする処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 対象VM("マシン名")	情報	グループの仮想マシン移動が完了しました。この処理は仮想マシンのみ動作可能な処理です。	なし
2064	VMを移動をする処理が失敗しました。管理ID:"管理ID"	警告	グループの仮想マシン移動が失敗しました。この処理は仮想マシンのみ動作可能な処理です。	グループの仮想マシン移動が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2065	VMを移動をする処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"	情報	グループの仮想マシン移動がキャンセルされました。この処理は仮想マシンのみ動作可能な処理です。	なし
2066	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバをする処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 移動元VMサーバ("マシン名") Migration("True / False") Storage Migration("True / False") Failover("True / False") サスペンド後に移動(Quick Migration)("True / False") 停止後に移動(Move)("True / False") 拡張ディスク除外指定("True / False")	情報	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバを行います。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2067	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバをする処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 移動元VMサーバ("マシン名")	情報	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバが完了しました。	なし
2068	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバをする処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 移動元VMサーバ("マシン名")	警告	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバが失敗しました。	グループの仮想マシン移動が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2069	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバをする処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 移動元VMサーバ("マシン名")	情報	VMサーバ上に存在するVMの退避/フェイルオーバがキャンセルされました。	なし
2070	マシンに対してソフトウェアを配布する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" ソフトウェアを配布するマシン("マシン名")	情報	マシンにソフトウェアを配布します。	なし
2071	マシンに対してソフトウェアを配布する処理を完了しました。管理ID:"管理ID"	情報	マシンへのソフトウェア配布処理が完了しました。	なし
2072	マシンに対してソフトウェアを配布する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID"	警告	マシンへのソフトウェア配布処理が失敗しました。	マシンへのソフトウェア配布処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2073	マシンに対してソフトウェアを配布する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"	情報	マシンへのソフトウェア配布処理がキャンセルされました。	なし
2074	グループの全マシンに対してソフトウェアを配布する処理を開始しました。管理ID:"管理ID" ソフトウェア配布するグループ("グループ名")	情報	グループに所属するすべての稼動マシンにソフトウェアを配布します。	なし
2075	グループの全マシンに対してソフトウェアを配布する処理を完了しました。管理ID:"管理ID" ソフトウェア配布するグループ("グループ名")	情報	グループに所属するすべての稼動マシンへのソフトウェア配布処理が完了しました。	なし
2076	グループの全マシンに対してソフトウェアを配布する処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" ソフトウェア配布するグループ("グループ名")	警告	グループに所属するすべての稼動マシンへのソフトウェア配布処理が失敗しました。	グループに所属するすべての稼動マシンへのソフトウェア配布処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2077	グループの全マシンに対してソフトウェアを配布する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" ソフトウェア配布するグループ ("グループ名")	情報	グループに所属する稼動マシンへのソフトウェア配布処理がキャンセルされました。	なし
2079	マシン("マシン名")に実装されているNIC枚数("NIC枚数")とホスト設定("ホスト名")のNIC枚数("NIC枚数")に差異があります。ホスト設定の確認をしてください。	警告	マシンのNIC枚数とホスト設定のNIC枚数に差異があります。	マシンのNIC枚数とホスト設定のNIC枚数に差異が存在しますので確認して下さい。
2080	マシンをサスペンド状態にする処理を開始しました。管理ID:"管理ID" サスペンドするマシン("マシン名")	情報	マシンをサスペンドします。	なし
2081	マシンをサスペンド状態にする処理を完了しました。管理ID:"管理ID" サスペンドするマシン("マシン名")	情報	マシンのサスペンドが完了しました。	なし
2082	マシンをサスペンド状態にする処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" サスペンドするマシン("マシン名")	警告	マシンのサスペンドが失敗しました。	マシンのサスペンド処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2083	マシンをサスペンド状態にする処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" サスペンドするマシン("マシン名")	情報	マシンのサスペンドはキャンセルされました。	なし
2085	マシン("マシン名")の状態を異常終了に更新できませんでした。	情報	サービス起動時の情報確認中にステータスが使用中のマシンがありました。	(概要時刻に該当マシンに関するアクションを実行していた場合には、このメッセージが出ても異常ではありません)
2086	マシンの電源をONにする処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 電源をONにするマシン("マシン名")	情報	マシンを電源ONします。	なし
2087	マシンの電源をONにする処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 電源をONにするマシン("マシン名")	情報	マシンの電源ONが完了しました。	なし
2088	マシンの電源をONにする処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 電源をONにするマシン("マシン名")	警告	マシンの電源ONが失敗しました。	マシンの電源ON処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2089	マシンの電源をONにする処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"電源をONにするマシン("マシン名")	情報	マシンの電源ONはキャンセルされました。	なし
2090	マシンの電源をOFFにする処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 電源をOFFにするマシン("マシン名")	情報	マシンを電源OFFします。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2091	マシンの電源をOFFにする処理を完了しました。管理ID:"管理ID" 電源をOFFにするマシン("マシン名")	情報	マシンの電源OFFが完了しました。	なし
2092	マシンの電源をONにする処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" 電源をOFFにするマシン("マシン名")	警告	マシンの電源OFFが失敗しました。	マシンの電源OFF処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2093	マシンの電源をOFFにする処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 電源をOFFにするマシン("マシン名")	情報	マシンの電源OFFはキャンセルされました。	なし
2094	マシンをリセットする処理を開始しました。管理ID:"管理ID" リセットするマシン("マシン名")	情報	マシンをリセットします。	なし
2095	マシンをリセットする処理を完了しました。管理ID:"管理ID" リセットするマシン("マシン名")	情報	マシンのリセットが完了しました。	なし
2096	マシンをリセットする処理が失敗しました。管理ID:"管理ID" リセットするマシン("マシン名")	警告	マシンのリセットが失敗しました。	マシンのリセット処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2097	マシンをリセットする処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" リセットするマシン("マシン名")	情報	マシンのリセットはキャンセルされました。	なし
2098	マシンの診断処理を開始しました。管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名")	情報	マシンを診断します。	なし
2099	マシンの診断処理を完了しました。管理ID:"管理ID"	情報	マシンの診断が完了しました。	なし
2100	マシンの診断処理が失敗しました。管理ID:"管理ID"	警告	マシンの診断が失敗しました。	マシンの診断処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2101	マシンの診断処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID"	情報	マシンの診断はキャンセルされました。	なし
2102	指定タイプでのマシン診断処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名") 診断するタイプ(Sensor)	情報	センサー診断を開始しました。	なし
2103	指定タイプでのマシン診断処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名") (true)	情報	センサー診断を行い、状態異常を発見しました。 (故障と診断)	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2104	指定タイプでのマシン診断処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名")	警告	センサー診断を行いましたが、すべてのセンサー、または発生したイベントに該当するセンサーにて問題が発見されませんでした。 処理を中断します。	なし
2105	指定タイプでのマシン診断処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名")	情報	センサー診断をキャンセルしました。	なし
2106	マシンをパワーサイクルする処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" パワーサイクルするマシン("マシン名")	情報	マシンをパワーサイクルします。	なし
2107	マシンをパワーサイクルする処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" パワーサイクルするマシン("マシン名")	情報	マシンのパワーサイクルが完了しました。	なし
2108	マシンをパワーサイクルする処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" パワーサイクルするマシン("マシン名")	警告	マシンのパワーサイクルが失敗しました。	マシンのパワーサイクル処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2109	マシンをパワーサイクルする処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" パワーサイクルするマシン("マシン名")	情報	マシンのパワーサイクルはキャンセルされました。	なし
2110	マシンのダンプを採取する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" ダンプを採取するマシン("マシン名")	情報	マシンにダンプ採取要求をします。	なし
2111	マシンのダンプを採取する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" ダンプを採取するマシン("マシン名")	情報	マシンのダンプ採取要求が完了しました。	なし
2112	マシンのダンプを採取する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" ダンプを採取するマシン("マシン名")	警告	マシンのダンプ採取要求が失敗しました。	マシンのダンプ採取要求処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2113	マシンのダンプを採取する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" ダンプを採取するマシン("マシン名")	情報	マシンのダンプ採取要求はキャンセルされました。	なし
2114	マシンをACPIシャットダウンする処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" ACPIシャットダウンするマシン("マシン名")	情報	マシンをACPIシャットダウンします。	なし
2115	マシンをACPIシャットダウンする処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" ACPIシャットダウンするマシン("マシン名")	情報	マシンのACPIシャットダウンが完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2116	マシンをACPIシャットダウンする処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" ACPIシャットダウンするマシン("マシン名")	警告	マシンのACPIシャットダウンが失敗しました。	マシンのACPIシャットダウン処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2117	マシンをACPIシャットダウンする処理をキャンセルしました。 管理ID: "管理ID" ACPIシャットダウンするマシン("マシン名")	情報	マシンのACPIシャットダウンはキャンセルされました。	なし
2118	マシンのLEDを点灯する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" LEDを点灯するマシン("マシン名")	情報	マシンにLED点灯要求をします。	なし
2119	マシンのLEDを点灯する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" LEDを点灯するマシン("マシン名")	情報	マシンのLED点灯要求が完了しました。	なし
2120	マシンのLEDを点灯する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" LEDを点灯するマシン("マシン名")	警告	マシンのLED点灯要求が失敗しました。	マシンのLED点灯要求処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2121	マシンのLEDを点灯する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" LEDを点灯するマシン("マシン名")	情報	マシンのLED点灯要求はキャンセルされました。	なし
2122	マシンのLEDを消灯する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" LEDを消灯するマシン("マシン名")	情報	マシンにLED消灯要求をします。	なし
2123	マシンのLEDを消灯する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" LEDを消灯するマシン("マシン名")	情報	マシンのLED消灯要求が完了しました。	なし
2124	マシンのLEDを消灯する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" LEDを消灯するマシン("マシン名")	警告	マシンのLED消灯要求が失敗しました。	マシンのLED消灯要求処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2125	マシンのLEDを消灯する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" LEDを消灯するマシン("マシン名")	情報	マシンのLED消灯要求はキャンセルされました。	なし
2126	VMサーバのロードバランスを実行する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	情報	仮想マシンサーバに対する負荷分散処理を行います。	なし
2127	VMサーバのロードバランスを実行する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	情報	仮想マシンサーバに対する負荷分散が完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2128	VMサーバのロードバランスを実行する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	警告	仮想マシンサーバに対する負荷分散が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2129	VMサーバのロードバランスを実行する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	情報	仮想マシンサーバに対する負荷分散処理がキャンセルされました。	なし
2130	VMサーバのパワーセーブを実行する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	情報	仮想マシンサーバに対する省電力処理を行います。	なし
2131	VMサーバのパワーセーブを実行する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	情報	仮想マシンサーバに対する省電力処理が完了しました。	なし
2132	VMサーバのパワーセーブを実行する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	警告	仮想マシンサーバに対する省電力処理が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2133	VMサーバのパワーセーブを実行する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 対象VMサーバ("マシン名")	情報	仮想マシンサーバに対する省電力処理がキャンセルされました。	なし
2134	VM配置制約を適用する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ("グループ名") 対象VMサーバ("ホスト名")	情報	グループ/ホストに対して、VM配置制約を適用する処理を行います。	なし
2135	VM配置制約を適用する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ("グループ名") 対象VMサーバ("ホスト名")	情報	グループ/ホストに対して、VM配置制約を適用する処理が完了しました。	なし
2136	VM配置制約を適用する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ("グループ名") 対象VMサーバ("ホスト名")	警告	グループ/ホストに対して、VM配置制約を適用する処理が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2137	VM配置制約を適用する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ("グループ名") 対象VMサーバ("ホスト名")	情報	グループ/ホストに対して、VM配置制約を適用する処理がキャンセルされました。	なし
2138	総合的な回復診断 回復設定処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名") 診断の動作タイプ(RecoverCheck)	情報	対象マシンに対する回復診断処理を行います。	なし
2139	総合的な回復診断 回復設定処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名") 診断結果(True)	情報	対象マシンに対する回復診断処理が完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2140	総合的な回復診断 回復設定処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名") 診断結果(False)	警告	対象マシンに対する回復診断処理が失敗しました。	マシンの診断処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
2141	総合的な回復診断 回復設定処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 診断するマシン("マシン名")	情報	対象マシンに対する回復診断処理がキャンセルされました。	なし
2142	VMサーバを停止する(予兆)処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 停止対象VMサーバ:"マシン名"	情報	VMサーバを停止する(予兆) 処理を行います。	なし
2143	VMサーバを停止する(予兆)処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 停止対象VMサーバ:"マシン名"	情報	VMサーバを停止する(予兆) 処理が完了しました。	なし
2144	VMサーバを停止する(予兆)処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 停止対象VMサーバ:"マシン名"	警告	VMサーバを停止する(予兆) 処理が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2145	VMサーバを停止する(予兆)処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 停止対象VMサーバ:"マシン名"	情報	VMサーバを停止する(予兆) 処理がキャンセルされました。	なし
2146	予備VMサーバを起動する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ:"グループ名"	情報	予備VMサーバを起動する処理を行います。	なし
2147	予備VMサーバを起動する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ:"グループ名"	情報	予備VMサーバを起動する処理が完了しました。	なし
2148	予備VMサーバを起動する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ:"グループ名"	警告	予備VMサーバを起動する処理が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2149	予備VMサーバを起動する処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ:"グループ名"	情報	予備VMサーバを起動する処理がキャンセルされました。	なし
2150	仮想マシンの再構成処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 再構成する仮想マシン("マシン名") 再構成種別("種別") 強制フラグ("フラグ")	情報	仮想マシンの再構成処理を行います。	なし
2151	仮想マシンの再構成処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 再構成する仮想マシン("マシン名")	情報	仮想マシンの再構成処理が完了しました。	なし
2152	仮想マシンの再構成処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 再構成する仮想マシン("マシン名")	警告	仮想マシンの再構成処理が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2153	仮想マシンの再構成処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 再構成する仮想マシン("マシン名")	情報	仮想マシンの再構成処理がキャンセルされました。	なし
2154	マシンの構成変更処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 構成変更を行うマシン("マシン名") 制御種別("種別")	情報	マシンの構成変更処理を行います。	なし
2155	マシンの構成変更処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 構成変更を行うマシン("マシン名")	情報	マシンの構成変更処理が完了しました。	なし
2156	マシンの構成変更処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 構成変更を行うマシン("マシン名")	警告	マシンの構成変更処理が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2157	マシンの構成変更処理をキャンセルしました。 管理ID:"管理ID" 構成変更を行うマシン("マシン名")	情報	マシンの構成変更処理がキャンセルされました。	なし
2500	マシン("マシン名")にソフトウェア("ソフトウェア名")の配布を実行します。	情報	マシンにソフトウェアを配布します。	なし
2501	マシン("マシン名")へのソフトウェア("ソフトウェア名")の配布に失敗しました。	エラー	マシンへのソフトウェア配布が失敗しました。	マシンへのソフトウェア配布が失敗しました。処理がサポートされていないか、中断された可能性があります。ログを確認し、失敗要因を取り除き再度処理を実行して下さい。
2502	マシン("マシン名")にソフトウェア("ソフトウェア名")の配布が完了しました。	情報	マシンへのソフトウェア配布が成功しました。	なし
2652	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名","ポート名")の作成が失敗しました。	エラー	スイッチのVLAN作成に失敗しました。	スイッチのVLAN作成に失敗しました。ログを確認し、失敗要因を取り除き再度処理を実施して下さい。
2655	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名")の削除が失敗しました。	エラー	スイッチのVLAN削除が失敗しました。	スイッチのVLAN削除に失敗しました。ログを確認し、失敗要因を取り除き再度処理を実施して下さい。
2658	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名")へのポート("ポート名")の登録が失敗しました。	エラー	スイッチのVLANにポートの登録が失敗しました。	スイッチのVLANへのポート登録に失敗しました。ログを確認し、失敗要因を取り除き再度処理を実施して下さい。
2659	Switch("スイッチ名")に接続できないため、VLAN("VLAN名")からポート("ポート名")の取り外しが失敗しました。	エラー	スイッチのVLANからポートの解除に失敗しました。	スイッチのVLANからポート解除に失敗しました。ログを確認し、失敗要因を取り除き再度処理を実施して下さい。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2666	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名","ポート名")が作成されました。	情報	スイッチのVLAN作成が成功しました。	なし
2667	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名")はありません。	情報	スイッチのVLANが存在しません。	なし
2668	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名")が削除されました。	情報	スイッチのVLAN削除に成功しました。	なし
2670	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名")に("ポート名")が登録されました。	情報	スイッチのVLANにポート登録が成功しました。	なし
2671	Switch("スイッチ名")のVLAN("VLAN名")から("ポート名")が取り外されました。	情報	スイッチのVLANからポートの解除が成功しました。	なし
2700	VMサーバ("マシン名")の起動を開始しました。 管理ID:"管理ID"	情報	最適配置機能、もしくは予備マシンの起動アクションによる仮想マシンサーバの起動を行います。	なし
2701	VMサーバ("マシン名")の起動が完了しました。 管理ID:"管理ID"	情報	最適配置機能、もしくは予備マシンの起動アクションによる仮想マシンサーバの起動が完了しました。	なし
2702	VMサーバ("マシン名")の起動が失敗しました。 管理ID:"管理ID"	警告	最適配置機能、もしくは予備マシンの起動アクションによる仮想マシンサーバの起動が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2703	VMサーバ("マシン名")のシャットダウンを開始しました。 管理ID:"管理ID"	情報	最適配置機能、もしくはVMサーバ停止（予兆）アクションによる仮想マシンサーバのシャットダウンを行います。	なし
2704	VMサーバ("マシン名")のシャットダウンが完了しました。 管理ID:"管理ID"	情報	最適配置機能、もしくはVMサーバ停止（予兆）アクションによる仮想マシンサーバのシャットダウンが完了しました。	なし
2705	VMサーバ("マシン名")のシャットダウンが失敗しました。 管理ID:"管理ID"	警告	最適配置機能、もしくはVMサーバ停止（予兆）アクションによる仮想マシンサーバのシャットダウンが失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2707	以下のいずれかのメッセージが出力されます。 ・ VMサーバ("マシン名")のフェールオーバ準備を開始しました。 管理ID:"管理ID ・ VMサーバ("マシン名")のマスター置換(置換先("マシン名"))を開始しました。 管理ID:"管理ID"	情報	仮想マシンサーバに対するフェールオーバの準備(もしくはマスター置換)を開始しました。	なし
2708	以下のいずれかのメッセージが出力されます。 ・ VMサーバ("マシン名")のフェールオーバ準備が完了しました。 管理ID:"管理ID ・ VMサーバ("マシン名")のマスター置換(置換先("マシン名"))が完了しました。 管理ID:"管理ID"	情報	仮想マシンサーバに対するフェールオーバの準備(もしくはマスター置換)が完了しました。	なし
2709	以下のいずれかのメッセージが出力されます。 ・ VMサーバ("マシン名")のフェールオーバ準備が失敗しました。 管理ID:"管理ID ・ VMサーバ("マシン名")のマスター置換(置換先("マシン名"))が失敗しました。 管理ID:"管理ID"	警告	仮想マシンサーバに対するフェールオーバの準備(もしくはマスター置換)が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2720	※3	情報	VMSロードバランス処理に関する情報	なし
2721	※3 以下のいずれかのメッセージが出力されます。 ・ 移動先として適切なVMサーバが存在しません。 ・ マスター("マシン名")が停止しているため、処理をスキップします。	警告	VMSロードバランス処理に関する警告情報	警告原因をSystemProvisioningログにて確認し、警告原因を取り除いてください。
2722	※3	情報	VMSパワーセーブ（省電力）処理に関する情報	なし
2724	※3	情報	Failover (VMサーバ）処理に関する情報	なし
2726	※3	情報	予備VMサーバを起動する処理に関する情報	なし
2727	対象グループ("グループ名")はVMサーバグループではありません。	警告	仮想マシンサーバ以外のグループに対して、予備仮想マシンサーバを起動する処理が実施されました。	仮想マシンサーバ以外のグループに対して、予備仮想マシンサーバを起動するアクションが設定されています。ポリシー設定を確認してください。
2728	※3	情報	VMサーバ停止（予兆）処理に関する情報	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2729	VMサーバ("マシン名")はシャットダウンすることができません。	警告	対象マシンを停止した場合、SigmaSystemCenterからの管理に問題が発生するため、停止することができません。	対象マシンの障害を確認し、必要に応じて対応してください。
2740	制約に矛盾があります。 管理ID:"管理ID"	警告	VM配置制約の設定に矛盾が存在します。	「SigmaSystemCenterリファレンスガイド 概要編」の「2.12.8 VM配置制約について」に記載の内容を確認し、VM配置制約の矛盾を解消してください。
2741	次のVMは、VMサーバ("マシン名")上に残っている可能性があります : ("VM名, VM名, ...") 管理ID:"管理ID"	警告	Failover(VMサーバ)処理で、移動することができなかったVMが存在します。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2751	VM配置情報を適用する処理を開始しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ("対象グループ") 対象サーバ("対象サーバ") キーワード( )	情報	VM配置情報を適用する処理を行います (※4)。	なし
2752	VM配置情報を適用する処理を完了しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ("対象グループ") 対象サーバ("対象サーバ") キーワード( )	情報	予備VMサーバを起動する処理が完了しました(※4)。	なし
2753	VM配置情報を適用する処理が失敗しました。 管理ID:"管理ID" 対象グループ:("対象グループ") 対象サーバ("対象サーバ") キーワード( )	警告	予備VMサーバを起動する処理が失敗しました(※4)。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2754	VM配置情報を適用する処理をキャンセルしました。管理ID:"管理ID" 対象グループ:("対象グループ") 対象サーバ("対象サーバ") キーワード( )	情報	予備VMサーバを起動する処理がキャンセルされました (※4)。	なし
2800	仮想マシン("マシン名")の移動を開始しました。移動方法("指定した移動方法") 管理ID: "管理ID"	情報	仮想マシンを移動させます。	なし
2801	仮想マシン("マシン名")の("移動先VMサーバのホスト名")への移動が完了しました。 ("移動方法") 管理ID: "管理ID"	情報	仮想マシンの移動が成功しました。	なし
2802	仮想マシン("マシン名")の("移動方法")が失敗しました。 管理ID: "管理ID"	情報	仮想マシンの移動が失敗しました。	失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗原因を取り除いてください。
2901	仮想マシンの作成に失敗しました。仮想マシンの作成要求が失敗しました。原因:{0}	エラー	仮想マシン作成時にエラーが発生しました。	仮想マシン作成時にエラーが発生しました。異常原因を取り除き、再度実行してください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
2903	仮想マシンの削除に失敗しました。仮想マシンの削除要求が失敗しました。原因:{0}	エラー	仮想マシン削除時にエラーが発生しました。	仮想マシン削除時にエラーが発生しました。異常原因を取り除き、再度実行してください。
3000	Datacenter追加処理を開始しました。	情報	DataCenter追加を開始しました。	なし
3001	Datacenter追加処理を完了しました。	情報	DataCenter追加が完了しました。	なし
3002	Datacenter追加処理をキャンセルしました。	情報	DataCenter追加をキャンセルしました。	なし
3003	Datacenter追加処理が失敗しました。	警告	DataCenter追加が失敗しました。	DataCenter追加が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3004	ディスクアレイの追加処理を開始しました。	情報	ディスクアレイの追加を開始しました。	なし
3005	ディスクアレイの追加処理を完了しました。	情報	ディスクアレイの追加が完了しました。	なし
3006	ディスクアレイの追加処理をキャンセルしました。	情報	ディスクアレイの追加をキャンセルしました。	なし
3007	ディスクアレイの追加処理が失敗しました。	警告	ディスクアレイの追加が失敗しました。	ディスクアレイの追加が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3008	マネージャの登録処理を開始しました。	情報	マネージャの登録を開始しました。	なし
3009	マネージャの登録処理を完了しました。	情報	マネージャの登録が完了しました。	なし
3010	マネージャの登録処理をキャンセルしました。	情報	マネージャの登録をキャンセルしました。	なし
3011	マネージャの登録処理が失敗しました。	警告	マネージャの登録が失敗しました。	マネージャの登録が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3012	仮想マシンサーバの追加処理を開始しました。	情報	仮想マシンサーバの追加を開始しました。	なし
3013	仮想マシンサーバの追加処理を完了しました。	情報	仮想マシンサーバの追加が完了しました。	なし
3014	仮想マシンサーバの追加処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンサーバの追加をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3015	仮想マシンサーバの追加処理が失敗しました。	警告	仮想マシンサーバの追加が失敗しました。	仮想マシンサーバの追加が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3016	SEL消去処理を開始しました。	情報	SEL消去を開始しました。	なし
3017	SEL消去処理を完了しました。	情報	SEL消去が完了しました。	なし
3018	SEL消去処理をキャンセルしました。	情報	SEL消去をキャンセルしました。	なし
3019	SEL消去処理が失敗しました。	警告	SEL消去が失敗しました。	SEL消去が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3020	仮想マシンの複製処理を開始しました。	情報	仮想マシンの複製を開始しました。	なし
3021	仮想マシンの複製処理を完了しました。	情報	仮想マシンの複製が完了しました。	なし
3022	仮想マシンの複製処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンの複製をキャンセルしました。	なし
3023	仮想マシンの複製処理が失敗しました。	警告	仮想マシンの複製が失敗しました。	仮想マシンの複製が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3024	全収集の実行処理を開始しました。	情報	全収集の実行を開始しました。	なし
3025	全収集の実行処理を完了しました。	情報	全収集の実行が完了しました。	なし
3026	全収集の実行処理をキャンセルしました。	情報	全収集の実行をキャンセルしました。	なし
3027	全収集の実行処理が失敗しました。	警告	全収集の実行が失敗しました。	全収集の実行が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3028	指定されたグループ配下の収集処理を開始しました。	情報	指定されたグループ配下の収集を開始しました。	なし
3029	指定されたグループ配下の収集処理を完了しました。	情報	指定されたグループ配下の収集が完了しました。	なし

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
3030	指定されたグループ配下の収集処理をキャンセルしました。	情報	指定されたグループ配下の収集をキャンセルしました。	なし
3031	指定されたグループ配下の収集処理が失敗しました。	警告	指定されたグループ配下の収集が失敗しました。	指定されたグループ配下の収集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3032	ロードバランサ情報の収集処理を開始しました。	情報	ロードバランサ情報の収集を開始しました。	なし
3033	ロードバランサ情報の収集処理を完了しました。	情報	ロードバランサ情報の収集が完了しました。	なし
3034	ロードバランサ情報の収集処理をキャンセルしました。	情報	ロードバランサ情報の収集をキャンセルしました。	なし
3035	ロードバランサ情報の収集処理が失敗しました。	警告	ロードバランサ情報の収集が失敗しました。	ロードバランサ情報の収集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3036	指定されたマネージャ配下の収集を実行処理を開始しました。	情報	指定されたマネージャ配下の収集を実行を開始しました。	なし
3037	指定されたマネージャ配下の収集を実行処理を完了しました。	情報	指定されたマネージャ配下の収集を実行が完了しました。	なし
3038	指定されたマネージャ配下の収集を実行処理をキャンセルしました。	情報	指定されたマネージャ配下の収集を実行をキャンセルしました。	なし
3039	指定されたマネージャ配下の収集を実行処理が失敗しました。	警告	指定されたマネージャ配下の収集を実行が失敗しました。	指定されたマネージャ配下の収集を実行が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3040	シナリオの収集処理を開始しました。	情報	シナリオの収集を開始しました。	なし
3041	シナリオの収集処理を完了しました。	情報	シナリオの収集が完了しました。	なし
3042	シナリオの収集処理をキャンセルしました。	情報	シナリオの収集をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3043	シナリオの収集処理が失敗しました。	警告	シナリオの収集が失敗しました。	シナリオの収集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3044	ストレージ情報の収集処理を開始しました。	情報	ストレージ情報の収集を開始しました。	なし
3045	ストレージ情報の収集処理を完了しました。	情報	ストレージ情報の収集が完了しました。	なし
3046	ストレージ情報の収集処理をキャンセルしました。	情報	ストレージ情報の収集をキャンセルしました。	なし
3047	ストレージ情報の収集処理が失敗しました。	警告	ストレージ情報の収集が失敗しました。	ストレージ情報の収集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3048	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集処理を開始しました。	情報	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集を開始しました。	なし
3049	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集処理を完了しました。	情報	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集が完了しました。	なし
3050	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集処理をキャンセルしました。	情報	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集をキャンセルしました。	なし
3051	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集処理が失敗しました。	警告	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集が失敗しました。	ネットワークデバイス(スイッチ)情報の収集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3052	DiskVolume接続処理を開始しました。	情報	DiskVolume接続を開始しました。	なし
3053	DiskVolume接続処理を完了しました。	情報	DiskVolume接続が完了しました。	なし
3054	DiskVolume接続処理をキャンセルしました。	情報	DiskVolume接続をキャンセルしました。	なし
3055	DiskVolume接続処理が失敗しました。	警告	DiskVolume接続が失敗しました。	DiskVolume接続が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3056	仮想マシンサーバのConnection接続処理を開始しました。	情報	仮想マシンサーバのConnection接続を開始しました。	なし
3057	仮想マシンサーバのConnection接続処理を完了しました。	情報	仮想マシンサーバのConnection接続が完了しました。	なし
3058	仮想マシンサーバのConnection接続処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンサーバのConnection接続をキャンセルしました。	なし
3059	仮想マシンサーバのConnection接続処理が失敗しました。	警告	仮想マシンサーバのConnection接続が失敗しました。	仮想マシンサーバのConnection接続が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3060	仮想マシンのコピー処理を開始しました。	情報	仮想マシンのコピーを開始しました。	なし
3061	仮想マシンのコピー処理を完了しました。	情報	仮想マシンのコピーが完了しました。	なし
3062	仮想マシンのコピー処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンのコピーをキャンセルしました。	なし
3063	仮想マシンのコピー処理が失敗しました。	警告	仮想マシンのコピーが失敗しました。	仮想マシンのコピーが失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3064	データストアの作成処理を開始しました。	情報	データストアの作成を開始しました。	なし
3065	データストアの作成処理を完了しました。	情報	データストアの作成が完了しました。	なし
3066	データストアの作成処理をキャンセルしました。	情報	データストアの作成をキャンセルしました。	なし
3067	データストアの作成処理が失敗しました。	警告	データストアの作成が失敗しました。	データストアの作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3068	VLAN作成処理を開始しました。	情報	VLAN作成を開始しました。	なし
3069	VLAN作成処理を完了しました。	情報	VLAN作成が完了しました。	なし
3070	VLAN作成処理をキャンセルしました。	情報	VLAN作成をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3071	VLAN作成処理が失敗しました。	警告	VLAN作成が失敗しました。	VLAN作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3072	OSなしの仮想マシン作成処理を開始しました。	情報	OSなしの仮想マシン作成を開始しました。	なし
3073	OSなしの仮想マシン作成処理を完了しました。	情報	OSなしの仮想マシン作成が完了しました。	なし
3074	OSなしの仮想マシン作成処理をキャンセルしました。	情報	OSなしの仮想マシン作成をキャンセルしました。	なし
3075	OSなしの仮想マシン作成処理が失敗しました。	警告	OSなしの仮想マシン作成が失敗しました。	OSなしの仮想マシン作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3076	ロードバランサグループの作成処理を開始しました。	情報	ロードバランサグループの作成を開始しました。	なし
3077	ロードバランサグループの作成処理を完了しました。	情報	ロードバランサグループの作成が完了しました。	なし
3078	ロードバランサグループの作成処理をキャンセルしました。	情報	ロードバランサグループの作成をキャンセルしました。	なし
3079	ロードバランサグループの作成処理が失敗しました。	警告	ロードバランサグループの作成が失敗しました。	ロードバランサグループの作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3080	アカウントの登録処理を開始しました。	情報	アカウントの登録を開始しました。	なし
3081	アカウントの登録処理を完了しました。	情報	アカウントの登録が完了しました。	なし
3082	アカウントの登録処理をキャンセルしました。	情報	アカウントの登録をキャンセルしました。	なし
3083	アカウントの登録処理が失敗しました。	警告	アカウントの登録が失敗しました。	アカウントの登録が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3084	スナップショット作成処理を開始しました。	情報	スナップショット作成を開始しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3085	スナップショット作成処理を完了しました。	情報	スナップショット作成が完了しました。	なし
3086	スナップショット作成処理をキャンセルしました。	情報	スナップショット作成をキャンセルしました。	なし
3087	スナップショット作成処理が失敗しました。	警告	スナップショット作成が失敗しました。	スナップショット作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3088	指定されたスイッチへVLANを作成処理を開始しました。	情報	指定されたスイッチへVLANを作成を開始しました。	なし
3089	指定されたスイッチへVLANを作成処理を完了しました。	情報	指定されたスイッチへVLANを作成が完了しました。	なし
3090	指定されたスイッチへVLANを作成処理をキャンセルしました。	情報	指定されたスイッチへVLANを作成をキャンセルしました。	なし
3091	指定されたスイッチへVLANを作成処理が失敗しました。	警告	指定されたスイッチへVLANを作成が失敗しました。	指定されたスイッチへVLANを作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3092	Datacenterの削除処理を開始しました。	情報	DataCenterの削除を開始しました。	なし
3093	Datacenterの削除処理を完了しました。	情報	DataCenterの削除が完了しました。	なし
3094	Datacenterの削除処理をキャンセルしました。	情報	DataCenterの削除をキャンセルしました。	なし
3095	Datacenterの削除処理が失敗しました。	警告	DataCenterの削除が失敗しました。	DataCenterの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3096	データストアの削除処理を開始しました。	情報	データストアの削除を開始しました。	なし
3097	データストアの削除処理を完了しました。	情報	データストアの削除が完了しました。	なし
3098	データストアの削除処理をキャンセルしました。	情報	データストアの削除をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3099	データストアの削除処理が失敗しました。	警告	データストアの削除が失敗しました。	データストアの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3100	ディスクアレイの削除処理を開始しました。	情報	ディスクアレイの削除を開始しました。	なし
3101	ディスクアレイの削除処理を完了しました。	情報	ディスクアレイの削除が完了しました。	なし
3102	ディスクアレイの削除処理をキャンセルしました。	情報	ディスクアレイの削除をキャンセルしました。	なし
3103	ディスクアレイの削除処理が失敗しました。	警告	ディスクアレイの削除が失敗しました。	ディスクアレイの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3104	VLAN削除処理を開始しました。	情報	VLAN削除を開始しました。	なし
3105	VLAN削除処理を完了しました。	情報	VLAN削除が完了しました。	なし
3106	VLAN削除処理をキャンセルしました。	情報	VLAN削除をキャンセルしました。	なし
3107	VLAN削除処理が失敗しました。	警告	VLAN削除が失敗しました。	VLAN削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3108	イメージ削除処理を開始しました。	情報	イメージ削除を開始しました。	なし
3109	イメージ削除処理を完了しました。	情報	イメージ削除が完了しました。	なし
3110	イメージ削除処理をキャンセルしました。	情報	イメージ削除をキャンセルしました。	なし
3111	イメージ削除処理が失敗しました。	警告	イメージ削除が失敗しました。	イメージ削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3112	ロードバランサグループの削除処理を開始しました。	情報	ロードバランサグループの削除を開始しました。	なし
3113	ロードバランサグループの削除処理を完了しました。	情報	ロードバランサグループの削除が完了しました。	なし

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
3114	ロードバランサグループの削除処理をキャンセルしました。	情報	ロードバランサグループの削除をキャンセルしました。	なし
3115	ロードバランサグループの削除処理が失敗しました。	警告	ロードバランサグループの削除が失敗しました。	ロードバランサグループの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3116	マシンの論理化解除処理を開始しました。	情報	マシンの論理化解除を開始しました。	なし
3117	マシンの論理化解除処理を完了しました。	情報	マシンの論理化解除が完了しました。	なし
3118	マシンの論理化解除処理をキャンセルしました。	情報	マシンの論理化解除をキャンセルしました。	なし
3119	マシンの論理化解除処理が失敗しました。	警告	マシンの論理化解除が失敗しました。	マシンの論理化解除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3120	アカウントの削除処理を開始しました。	情報	アカウントの削除を開始しました。	なし
3121	アカウントの削除処理を完了しました。	情報	アカウントの削除が完了しました。	なし
3122	アカウントの削除処理をキャンセルしました。	情報	アカウントの削除をキャンセルしました。	なし
3123	アカウントの削除処理が失敗しました。	警告	アカウントの削除が失敗しました。	アカウントの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3124	マネージャの削除処理を開始しました。	情報	マネージャの削除を開始しました。	なし
3125	マネージャの削除処理を完了しました。	情報	マネージャの削除が完了しました。	なし
3126	マネージャの削除処理をキャンセルしました。	情報	マネージャの削除をキャンセルしました。	なし
3127	マネージャの削除処理が失敗しました。	警告	マネージャの削除が失敗しました。	マネージャの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3128	スナップショット削除処理を開始しました。	情報	スナップショット削除を開始しました。	なし
3129	スナップショット削除処理を完了しました。	情報	スナップショット削除が完了しました。	なし
3130	スナップショット削除処理をキャンセルしました。	情報	スナップショット削除をキャンセルしました。	なし
3131	スナップショット削除処理が失敗しました。	警告	スナップショット削除が失敗しました。	スナップショット削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3132	テンプレートの削除処理を開始しました。	情報	テンプレートの削除を開始しました。	なし
3133	テンプレートの削除処理を完了しました。	情報	テンプレートの削除が完了しました。	なし
3134	テンプレートの削除処理をキャンセルしました。	情報	テンプレートの削除をキャンセルしました。	なし
3135	テンプレートの削除処理が失敗しました。	警告	テンプレートの削除が失敗しました。	テンプレートの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3136	仮想マシンサーバの削除処理を開始しました。	情報	仮想マシンサーバの削除を開始しました。	なし
3137	仮想マシンサーバの削除処理を完了しました。	情報	仮想マシンサーバの削除が完了しました。	なし
3138	仮想マシンサーバの削除処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンサーバの削除をキャンセルしました。	なし
3139	仮想マシンサーバの削除処理が失敗しました。	警告	仮想マシンサーバの削除が失敗しました。	仮想マシンサーバの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3140	指定されたVLANをスイッチから削除処理を開始しました。	情報	指定されたVLANをスイッチから削除を開始しました。	なし
3141	指定されたVLANをスイッチから削除処理を完了しました。	情報	指定されたVLANをスイッチから削除が完了しました。	なし
3142	指定されたVLANをスイッチから削除処理をキャンセルしました。	情報	指定されたVLANをスイッチから削除をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3143	指定されたVLANをスイッチから削除処理が失敗しました。	警告	指定されたVLANをスイッチから削除が失敗しました。	指定されたVLANをスイッチから削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3144	指定されたVLANの接続を解除します。処理を開始しました。	情報	指定されたVLANの接続を解除します。を開始しました。	なし
3145	指定されたVLANの接続を解除します。処理を完了しました。	情報	指定されたVLANの接続を解除します。が完了しました。	なし
3146	指定されたVLANの接続を解除します。処理をキャンセルしました。	情報	指定されたVLANの接続を解除します。をキャンセルしました。	なし
3147	指定されたVLANの接続を解除します。処理が失敗しました。	警告	指定されたVLANの接続を解除します。が失敗しました。	指定されたVLANの接続を解除します。が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3148	DiskVolume切断処理を開始しました。	情報	DiskVolume切断を開始しました。	なし
3149	DiskVolume切断処理を完了しました。	情報	DiskVolume切断が完了しました。	なし
3150	DiskVolume切断処理をキャンセルしました。	情報	DiskVolume切断をキャンセルしました。	なし
3151	DiskVolume切断処理が失敗しました。	警告	DiskVolume切断が失敗しました。	DiskVolume切断が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3152	仮想マシンサーバのConnection切断処理を開始しました。	情報	仮想マシンサーバのConnection切断を開始しました。	なし
3153	仮想マシンサーバのConnection切断処理を完了しました。	情報	仮想マシンサーバのConnection切断が完了しました。	なし
3154	仮想マシンサーバのConnection切断処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンサーバのConnection切断をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3155	仮想マシンサーバのConnection切断処理が失敗しました。	警告	仮想マシンサーバのConnection切断が失敗しました。	仮想マシンサーバのConnection切断が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3156	ローカルスクリプトの実行処理を開始しました。	情報	ローカルスクリプトの実行を開始しました。	なし
3157	ローカルスクリプトの実行処理を完了しました。	情報	ローカルスクリプトの実行が完了しました。	なし
3158	ローカルスクリプトの実行処理をキャンセルしました。	情報	ローカルスクリプトの実行をキャンセルしました。	なし
3159	ローカルスクリプトの実行処理が失敗しました。	警告	ローカルスクリプトの実行が失敗しました。	ローカルスクリプトの実行が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3160	センサー診断処理を開始しました。	情報	センサー診断を開始しました。	なし
3161	センサー診断処理を完了しました。	情報	センサー診断が完了しました。	なし
3162	センサー診断処理をキャンセルしました。	情報	センサー診断をキャンセルしました。	なし
3163	センサー診断処理が失敗しました。	警告	センサー診断が失敗しました。	センサー診断が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3164	指定マシンの診断処理を開始しました。	情報	指定マシンの診断を開始しました。	なし
3165	指定マシンの診断処理を完了しました。	情報	指定マシンの診断が完了しました。	なし
3166	指定マシンの診断処理をキャンセルしました。	情報	指定マシンの診断をキャンセルしました。	なし
3167	指定マシンの診断処理が失敗しました。	警告	指定マシンの診断が失敗しました。	指定マシンの診断が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3168	マシンへのLED消灯要求処理を開始しました。	情報	マシンへのLED消灯要求を開始しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3169	マシンへのLED消灯要求処理を完了しました。	情報	マシンへのLED消灯要求が完了しました。	なし
3170	マシンへのLED消灯要求処理をキャンセルしました。	情報	マシンへのLED消灯要求をキャンセルしました。	なし
3171	マシンへのLED消灯要求処理が失敗しました。	警告	マシンへのLED消灯要求が失敗しました。	マシンへのLED消灯要求が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3172	マシンへのLED点灯要求処理を開始しました。	情報	マシンへのLED点灯要求を開始しました。	なし
3173	マシンへのLED点灯要求処理を完了しました。	情報	マシンへのLED点灯要求が完了しました。	なし
3174	マシンへのLED点灯要求処理をキャンセルしました。	情報	マシンへのLED点灯要求をキャンセルしました。	なし
3175	マシンへのLED点灯要求処理が失敗しました。	警告	マシンへのLED点灯要求が失敗しました。	マシンへのLED点灯要求が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3176	ディスクアレイの編集処理を開始しました。	情報	ディスクアレイの編集を開始しました。	なし
3177	ディスクアレイの編集処理を完了しました。	情報	ディスクアレイの編集が完了しました。	なし
3178	ディスクアレイの編集処理をキャンセルしました。	情報	ディスクアレイの編集をキャンセルしました。	なし
3179	ディスクアレイの編集処理が失敗しました。	警告	ディスクアレイの編集が失敗しました。	ディスクアレイの編集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3180	DiskVolumeの変更処理を開始しました。	情報	DiskVolumeの変更を開始しました。	なし
3181	DiskVolumeの変更処理を完了しました。	情報	DiskVolumeの変更が完了しました。	なし
3182	DiskVolumeの変更処理をキャンセルしました。	情報	DiskVolumeの変更をキャンセルしました。	なし
3183	DiskVolumeの変更処理が失敗しました。	警告	DiskVolumeの変更が失敗しました。	DiskVolumeの変更が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3184	ロードバランサグループの編集処理を開始しました。	情報	ロードバランサグループの編集を開始しました。	なし
3185	ロードバランサグループの編集処理を完了しました。	情報	ロードバランサグループの編集が完了しました。	なし
3186	ロードバランサグループの編集処理をキャンセルしました。	情報	ロードバランサグループの編集をキャンセルしました。	なし
3187	ロードバランサグループの編集処理が失敗しました。	警告	ロードバランサグループの編集が失敗しました。	ロードバランサグループの編集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3188	マネージャ情報の更新処理を開始しました。	情報	マネージャ情報の更新を開始しました。	なし
3189	マネージャ情報の更新処理を完了しました。	情報	マネージャ情報の更新が完了しました。	なし
3190	マネージャ情報の更新処理をキャンセルしました。	情報	マネージャ情報の更新をキャンセルしました。	なし
3191	マネージャ情報の更新処理が失敗しました。	警告	マネージャ情報の更新が失敗しました。	マネージャ情報の更新が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3192	スナップショット編集処理を開始しました。	情報	スナップショット編集を開始しました。	なし
3193	スナップショット編集処理を完了しました。	情報	スナップショット編集が完了しました。	なし
3194	スナップショット編集処理をキャンセルしました。	情報	スナップショット編集をキャンセルしました。	なし
3195	スナップショット編集処理が失敗しました。	警告	スナップショット編集が失敗しました。	スナップショット編集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3196	VLAN編集処理を開始しました。	情報	VLAN編集を開始しました。	なし
3197	VLAN編集処理を完了しました。	情報	VLAN編集が完了しました。	なし
3198	VLAN編集処理をキャンセルしました。	情報	VLAN編集をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3199	VLAN編集処理が失敗しました。	警告	VLAN編集が失敗しました。	VLAN編集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3200	仮想マシンサーバの移動処理を開始しました。	情報	仮想マシンサーバの移動を開始しました。	なし
3201	仮想マシンサーバの移動処理を完了しました。	情報	仮想マシンサーバの移動が完了しました。	なし
3202	仮想マシンサーバの移動処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシンサーバの移動をキャンセルしました。	なし
3203	仮想マシンサーバの移動処理が失敗しました。	警告	仮想マシンサーバの移動が失敗しました。	仮想マシンサーバの移動が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3204	VMサーバの復旧処理を開始しました。	情報	VMサーバの復旧を開始しました。	なし
3205	VMサーバの復旧処理を完了しました。	情報	VMサーバの復旧が完了しました。	なし
3206	VMサーバの復旧処理をキャンセルしました。	情報	VMサーバの復旧をキャンセルしました。	なし
3207	VMサーバの復旧処理が失敗しました。	警告	VMサーバの復旧が失敗しました。	VMサーバの復旧が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3208	DiskVolumeの作成処理を開始しました。	情報	DiskVolumeの作成を開始しました。	なし
3209	DiskVolumeの作成処理を完了しました。	情報	DiskVolumeの作成が完了しました。	なし
3210	DiskVolumeの作成処理をキャンセルしました。	情報	DiskVolumeの作成をキャンセルしました。	なし
3211	DiskVolumeの作成処理が失敗しました。	警告	DiskVolumeの作成が失敗しました。	DiskVolumeの作成が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3212	指定DiskArrayの情報収集処理を開始しました。	情報	指定DiskArrayの情報収集を開始しました。	なし
3213	指定DiskArrayの情報収集処理を完了しました。	情報	指定DiskArrayの情報収集が完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3214	指定DiskArrayの情報収集処理をキャンセルしました。	情報	指定DiskArrayの情報収集をキャンセルしました。	なし
3215	指定DiskArrayの情報収集処理が失敗しました。	警告	指定DiskArrayの情報収集が失敗しました。	指定DiskArrayの情報収集が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3216	収集を利用して指定マシンの情報を更新処理を開始しました。	情報	収集を利用して指定マシンの情報を更新を開始しました。	なし
3217	収集を利用して指定マシンの情報を更新処理を完了しました。	情報	収集を利用して指定マシンの情報を更新が完了しました。	なし
3218	収集を利用して指定マシンの情報を更新処理をキャンセルしました。	情報	収集を利用して指定マシンの情報を更新をキャンセルしました。	なし
3219	収集を利用して指定マシンの情報を更新処理が失敗しました。	警告	収集を利用して指定マシンの情報を更新が失敗しました。	収集を利用して指定マシンの情報を更新が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3220	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新処理を開始しました。	情報	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新を開始しました。	なし
3221	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新処理を完了しました。	情報	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新が完了しました。	なし
3222	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新処理をキャンセルしました。	情報	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新をキャンセルしました。	なし
3223	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新処理が失敗しました。	警告	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新が失敗しました。	収集を利用して指定ネットワークデバイス(スイッチ)の情報を更新が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3224	DeploymentManagerにマシン登録処理を開始しました。	情報	DeploymentManagerにマシン登録を開始しました。	なし

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
3225	DeploymentManagerにマシン登録処理を完了しました。	情報	DeploymentManagerにマシン登録が完了しました。	なし
3226	DeploymentManagerにマシン登録処理をキャンセルしました。	情報	DeploymentManagerにマシン登録をキャンセルしました。	なし
3227	DeploymentManagerにマシン登録処理が失敗しました。	警告	DeploymentManagerにマシン登録が失敗しました。	DeploymentManagerにマシン登録が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3228	VLANにポートを追加処理を開始しました。	情報	VLANにポートを追加を開始しました。	なし
3229	VLANにポートを追加処理を完了しました。	情報	VLANにポートを追加が完了しました。	なし
3230	VLANにポートを追加処理をキャンセルしました。	情報	VLANにポートを追加をキャンセルしました。	なし
3231	VLANにポートを追加処理が失敗しました。	警告	VLANにポートを追加が失敗しました。	VLANにポートを追加が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3232	VLANからマシンを解除処理を開始しました。	情報	VLANからマシンを解除を開始しました。	なし
3233	VLANからマシンを解除処理を完了しました。	情報	VLANからマシンを解除が完了しました。	なし
3234	VLANからマシンを解除処理をキャンセルしました。	情報	VLANからマシンを解除をキャンセルしました。	なし
3235	VLANからマシンを解除処理が失敗しました。	警告	VLANからマシンを解除が失敗しました。	VLANからマシンを解除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3236	HBAとディスクアレイの関連付け解除処理を開始しました。	情報	HBAとディスクアレイの関連付け解除を開始しました。	なし
3237	HBAとディスクアレイの関連付け解除処理を完了しました。	情報	HBAとディスクアレイの関連付け解除が完了しました。	なし
3238	HBAとディスクアレイの関連付け解除処理をキャンセルしました。	情報	HBAとディスクアレイの関連付け解除をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3239	HBAとディスクアレイの関連付け解除処理が失敗しました。	警告	HBAとディスクアレイの関連付け解除が失敗しました。	HBAとディスクアレイの関連付け解除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3240	スナップショット復元処理を開始しました。	情報	スナップショット復元を開始しました。	なし
3241	スナップショット復元処理を完了しました。	情報	スナップショット復元が完了しました。	なし
3242	スナップショット復元処理をキャンセルしました。	情報	スナップショット復元をキャンセルしました。	なし
3243	スナップショット復元処理が失敗しました。	警告	スナップショット復元が失敗しました。	スナップショット復元が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3244	データストアのスキャン処理を開始しました。	情報	データストアのスキャンを開始しました。	なし
3245	データストアのスキャン処理を完了しました。	情報	データストアのスキャンが完了しました。	なし
3246	データストアのスキャン処理をキャンセルしました。	情報	データストアのスキャンをキャンセルしました。	なし
3247	データストアのスキャン処理が失敗しました。	警告	データストアのスキャンが失敗しました。	データストアのスキャンが失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3248	Datacenter名変更処理を開始しました。	情報	DataCenter名変更を開始しました。	なし
3249	Datacenter名変更処理を完了しました。	情報	DataCenter名変更が完了しました。	なし
3250	Datacenter名変更処理をキャンセルしました。	情報	DataCenter名変更をキャンセルしました。	なし
3251	Datacenter名変更処理が失敗しました。	警告	DataCenter名変更が失敗しました。	DataCenter名変更が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3252	マシンにDegraded Statusを設定処理を開始しました。	情報	マシンにDegraded Statusを設定を開始しました。	なし

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
3253	マシンにDegraded Statusを設定処理を完了しました。	情報	マシンにDegraded Statusを設定が完了しました。	なし
3254	マシンにDegraded Statusを設定処理をキャンセルしました。	情報	マシンにDegraded Statusを設定をキャンセルしました。	なし
3255	マシンにDegraded Statusを設定処理が失敗しました。	警告	マシンにDegraded Statusを設定が失敗しました。	マシンにDegraded Statusを設定が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3256	VLANをマシンへ登録処理を開始しました。	情報	VLANをマシンへ登録を開始しました。	なし
3257	VLANをマシンへ登録処理を完了しました。	情報	VLANをマシンへ登録が完了しました。	なし
3258	VLANをマシンへ登録処理をキャンセルしました。	情報	VLANをマシンへ登録をキャンセルしました。	なし
3259	VLANをマシンへ登録処理が失敗しました。	警告	VLANをマシンへ登録が失敗しました。	VLANをマシンへ登録が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3260	マシンにFaulted Statusを設定処理を開始しました。	情報	マシンにFaulted Statusを設定を開始しました。	なし
3261	マシンにFaulted Statusを設定処理を完了しました。	情報	マシンにFaulted Statusを設定が完了しました。	なし
3262	マシンにFaulted Statusを設定処理をキャンセルしました。	情報	マシンにFaulted Statusを設定をキャンセルしました。	なし
3263	マシンにFaulted Statusを設定処理が失敗しました。	警告	マシンにFaulted Statusを設定が失敗しました。	マシンにFaulted Statusを設定が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3264	HBAとディスクアレイの関連付け処理を開始しました。	情報	HBAとディスクアレイの関連付けを開始しました。	なし
3265	HBAとディスクアレイの関連付け処理を完了しました。	情報	HBAとディスクアレイの関連付けが完了しました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3266	HBAとディスクアレイの関連付け処理をキャンセルしました。	情報	HBAとディスクアレイの関連付けをキャンセルしました。	なし
3267	HBAとディスクアレイの関連付け処理が失敗しました。	警告	HBAとディスクアレイの関連付けが失敗しました。	HBAとディスクアレイの関連付けが失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3268	マシンにReadyステータスを設定処理を開始しました。	情報	マシンにReadyステータスを設定を開始しました。	なし
3269	マシンにReadyステータスを設定処理を完了しました。	情報	マシンにReadyステータスを設定が完了しました。	なし
3270	マシンにReadyステータスを設定処理をキャンセルしました。	情報	マシンにReadyステータスを設定をキャンセルしました。	なし
3271	マシンにReadyステータスを設定処理が失敗しました。	警告	マシンにReadyステータスを設定が失敗しました。	マシンにReadyステータスを設定が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3272	マシンのメンテナンスステータスを変更処理を開始しました。	情報	マシンのメンテナンスステータスを変更を開始しました。	なし
3273	マシンのメンテナンスステータスを変更処理を完了しました。	情報	マシンのメンテナンスステータスを変更が完了しました。	なし
3274	マシンのメンテナンスステータスを変更処理をキャンセルしました。	情報	マシンのメンテナンスステータスを変更をキャンセルしました。	なし
3275	マシンのメンテナンスステータスを変更処理が失敗しました。	警告	マシンのメンテナンスステータスを変更が失敗しました。	マシンのメンテナンスステータスを変更が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3276	仮想マシン構成変更処理を開始しました。	情報	仮想マシン構成変更を開始しました。	なし
3277	仮想マシン構成変更処理を完了しました。	情報	仮想マシン構成変更が完了しました。	なし
3278	仮想マシン構成変更処理をキャンセルしました。	情報	仮想マシン構成変更をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3279	仮想マシン構成変更処理が失敗しました。	警告	仮想マシン構成変更が失敗しました。	仮想マシン構成変更が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3280	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断処理を開始しました。	情報	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断を開始しました。	なし
3281	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断処理を完了しました。	情報	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断が完了しました。	なし
3282	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断処理をキャンセルしました。	情報	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断をキャンセルしました。	なし
3283	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断処理が失敗しました。	警告	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断が失敗しました。	VMS状態、センサー状態を基にした総合診断が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3284	DiskVolumeの削除処理を開始しました。	情報	DiskVolumeの削除を開始しました。	なし
3285	DiskVolumeの削除処理を完了しました。	情報	DiskVolumeの削除が完了しました。	なし
3286	DiskVolumeの削除処理をキャンセルしました。	情報	DiskVolumeの削除をキャンセルしました。	なし
3287	DiskVolumeの削除処理が失敗しました。	警告	DiskVolumeの削除が失敗しました。	DiskVolumeの削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3288	DeploymentManagerからマシンを削除処理を開始しました。	情報	DeploymentManagerからマシンを削除を開始しました。	なし
3289	DeploymentManagerからマシンを削除処理を完了しました。	情報	DeploymentManagerからマシンを削除が完了しました。	なし
3290	DeploymentManagerからマシンを削除処理をキャンセルしました。	情報	DeploymentManagerからマシンを削除をキャンセルしました。	なし

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3291	DeploymentManagerからマシンを削除処理が失敗しました。	警告	DeploymentManagerからマシンを削除が失敗しました。	DeploymentManagerからマシンを削除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3292	VLANからポートを解除処理を開始しました。	情報	VLANからポートを解除を開始しました。	なし
3293	VLANからポートを解除処理を完了しました。	情報	VLANからポートを解除が完了しました。	なし
3294	VLANからポートを解除処理をキャンセルしました。	情報	VLANからポートを解除をキャンセルしました。	なし
3295	VLANからポートを解除処理が失敗しました。	警告	VLANからポートを解除が失敗しました。	VLANからポートを解除が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3296	アカウントの更新処理を開始しました。	情報	アカウントの更新を開始しました。	なし
3297	アカウントの更新処理を完了しました。	情報	アカウントの更新が完了しました。	なし
3298	アカウントの更新処理をキャンセルしました。	情報	アカウントの更新をキャンセルしました。	なし
3299	アカウントの更新処理が失敗しました。	警告	アカウントの更新が失敗しました。	アカウントの更新が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3300	DPMにグループ編集を通知する処理を開始しました。	情報	DPMにグループ編集を通知する処理を開始しました。	なし
3301	DPMにグループ編集を通知する処理を完了しました。	情報	DPMにグループ編集を通知する処理を完了しました。	なし
3302	DPMにグループ編集を通知する処理をキャンセルしました。	情報	DPMにグループ編集を通知する処理をキャンセルしました。	なし
3303	DPMにグループ編集を通知する処理が失敗しました。	警告	DPMにグループ編集を通知する処理が失敗しました。	DPMにグループ編集を通知する処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
3304	DPMにグループ移動を通知する処理を開始しました。	情報	DPMにグループ移動を通知する処理を開始しました。	なし
3305	DPMにグループ移動を通知する処理を完了しました。	情報	DPMにグループ移動を通知する処理を完了しました。	なし
3306	DPMにグループ移動を通知する処理をキャンセルしました。	情報	DPMにグループ移動を通知する処理をキャンセルしました。	なし
3307	DPMにグループ移動を通知する処理が失敗しました。	警告	DPMにグループ移動を通知する処理が失敗しました。	DPMにグループ移動を通知する処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3308	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を開始しました。	情報	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を開始しました。	なし
3309	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を完了しました。	情報	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を完了しました。	なし
3310	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理をキャンセルしました。	情報	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理をキャンセルしました。	なし
3311	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理が失敗しました。	警告	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理が失敗しました。	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3312	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を開始しました。	情報	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を開始しました。	なし
3313	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を完了しました。	情報	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理を完了しました。	なし
3314	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理をキャンセルしました。	情報	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理をキャンセルしました。	なし
3315	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理が失敗しました。	警告	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理が失敗しました。	DPMにマシンのグループ登録情報を通知する処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3316	DPMにマシン移動を通知する処理を開始しました。	情報	DPMにマシン移動を通知する処理を開始しました。	なし
3317	DPMにマシン移動を通知する処理を完了しました。	情報	DPMにマシン移動を通知する処理を完了しました。	なし
3318	DPMにマシン移動を通知する処理をキャンセルしました。	情報	DPMにマシン移動を通知する処理をキャンセルしました。	なし
3319	DPMにマシン移動を通知する処理が失敗しました。	警告	DPMにマシン移動を通知する処理が失敗しました。	DPMにマシン移動を通知する処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3320	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理を開始しました。	情報	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理を開始しました。	なし
3321	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理を完了しました。	情報	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理を完了しました。	なし
3322	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理をキャンセルしました。	情報	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理をキャンセルしました。	なし
3323	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理が失敗しました。	警告	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理が失敗しました。	ロードバランサグループからリアルサーバを解除する処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
3328	ファイアウォール情報の収集処理を開始しました。	情報	ファイアウォール情報の収集処理を開始しました。	なし
3329	ファイアウォール情報の収集処理を完了しました。	情報	ファイアウォール情報の収集処理を完了しました。	なし
3330	ファイアウォール情報の収集処理をキャンセルしました。	情報	ファイアウォール情報の収集処理をキャンセルしました。	なし
3331	ファイアウォール情報の収集処理が失敗しました。	警告	ファイアウォール情報の収集処理が失敗しました。	ファイアウォール情報の収集処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。

イベントID	説明	種類	意味	対処方法
3332	ファイアウォール設定を構成します。処理を開始しました。	情報	ファイアウォール設定の構成処理を開始しました。	なし
3333	ファイアウォール設定を構成します。処理を完了しました。	情報	ファイアウォール設定の構成処理を完了しました。	なし
3334	ファイアウォール設定を構成します。処理をキャンセルしました。	情報	ファイアウォール設定の構成処理をキャンセルしました。	なし
3335	ファイアウォール設定を構成します。処理が失敗しました。	警告	ファイアウォール設定の構成処理が失敗しました。	ファイアウォール設定の構成処理が失敗しました。失敗原因をSystemProvisioningログにて確認し、失敗要因を取り除き、再度処理を行ってください。
7000	ユーザ("ユーザ名")が、マシン("マシン名")のメンテナンスステータスを[On]に設定しました。	情報	マシンへのメンテナンスオンが成功しました。	なし
7001	ユーザ("ユーザ名")が、マシン("マシン名")のメンテナンスステータスを[OFF]に設定しました。	情報	マシンへのメンテナンスオフが成功しました。	なし
7002	ユーザ("ユーザ名")が、マシン("マシン名")の故障状態を解除しました。	情報	マシンへの故障状態解除が成功しました。	なし
7003	ユーザ("ユーザ名")が、マシン("マシン名")の実行結果エラーをリセットしました。	情報	マシンへのジョブ実行結果のリセットが成功しました。	なし

※1　イベントID：502について、SigmaSystemCenter 3.0から既存でESMPRO側に登録していたID=502の通報登録では認識されなくなりました。イベントID：502をESMPROで認識させるためには、ESMPRO/ServerAgent側のコントロールパネルから [ESMPRO ServerAgent] を起動し、[全般] タブの [通報設定(R)] をクリックし、通報設定ツールを起動します。アプリケーションのPVMより、「緑色のアイコンの ID=502」を監視設定してください。

※2　ESMPRO/ServerManager経由以外で検出された場合、対象マシンが仮想マシンであれば、ID=52xで登録されます。

※3　種類が情報のメッセージについては、対象処理の結果に影響しないメッセージを通知します。(例: 全仮想マシンを移動アクションに対し、対象仮想マシンサーバ上に移動すべき仮想マシンが存在しない場合など)

種類が警告のメッセージについては、対象処理における結果に重大な影響があるメッセージを通知します。(例: ロードバランスアクションに対し、高負荷解消に至らなかった場合など)

※4　VM配置情報適用関連のイベントについて、キーワード欄の出力は、常に空欄となります。キーワードを確認する場合は、イベントメッセージに出力されるKeywordの情報を確認してください。

◆ イベント ID が 51X、52X、53X、54X の出力メッセージについて

イベント ID が 51X、52X、53X、54X の出力メッセージには、以下の例のように付加情報が追記されます。

例) イベント ID:541 のメッセージ出力例

```
通報によるアクション(SetFaultedStatus)が完了しました。管理
ID:00049-01
-------------------------------
[EventNumber] RE00144
[EventType] Information
[EventCategory] TargetDown
[EventSource] VC[https://192.168.10.220:50443/sdk]
DataCenter[dataCenterB] ESX[192.168.220.142] VM[host10]
[Provider] VMwareProvider
[Provider(ID)] VMwareProvider
[Event] VM on VMS in DC is powered off
[EventMessage] dataCenterB の 192.168.220.142 の host10
がパワーオフ状態です
[GroupName] ¥¥yyy¥vv
[PolicyName] XXX 用ポリシー
[JobId] 00049-01

[ActionSummary] マシンに Faulted Status を設定
[ActionDiscription] マシン設定/ ステータス設定 故障
[TargetMachineName(0):(Machine)] host10
[TargetMachineUnitName(0):(Machine)]
[TargetMachineUUID(0):(Machine)]
42176ffd-60d3-3133-8bf2-b1c048215206

(Machine) is ステータスを設定するマシンを指定します。
```

追記される付加情報は、以下の通りです。

付加情報名	説明	イベント ID: 51X、52X	イベント ID: 53X、54X
[EventNumber]	通報のあったイベントの管理番号	○	○
[EventType]	通報のあったイベントの障害種別 ("Information"、"Warning"、"Error" の何れか)	○	○
[EventCategory]	通報のあったイベントのイベント区分(英語表記)	○	○
[EventSource]	通報のあったイベントがあった対象の情報	○	○
[Provider]	通報のあったイベントを検出した通報元の情報	○	○
[Provider(ID)]	通報のあったイベントを検出した通報元のID情報。	○	○
[Event]	通報のあったイベントを示す識別情報	○	○
[EventMessage]	通報のあったイベントのメッセージ内容	○	○
[ManagerName]	通報のあったマネージャを示す情報		○
[GroupName]	通報のあったイベントの対象が属する運用グループ名		○
[PolicyName]	通報のあったイベントに適用されたポリシー名		○

付加情報名	説明	イベント ID: 51X、52X	イベント ID: 53X、54X
[JobId]	通報のあったイベントの処理のジョブ管理番号		○
[ActionSummary]	実行する/したアクションの概要		○
[ActionDiscription]	実行する/したアクションの説明		○
[WarningMessage]	アクション実行の結果、失敗ではないが発生した補足(注意)のメッセージ		○
[ExceptionMessage]	アクション実行が失敗した原因メッセージ		○
TargetGroupName(x):(yyy)	アクション実行のためのグループ情報 x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
TargetMachineName(x):(yyy)	アクション実行のためのマシン情報 [リソース] ビューで登録されているマシン名 (Machine.Name) x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
TargetMachineUnitName(x):(yyy)	アクション実行のためのマシン情報 x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
TargetMachineUUID(x):(yyy)	アクション実行のためのマシン情報 x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
TargetHostName(x):(yyy)	アクション実行のためのホスト情報 [運用] ビューで登録されているホスト名 (Serverdefinition.Name) x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
TargetDiskPartitionName(x):(yyy)	アクション実行のためのパーティション情報 x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
TargetManagerName(x):(yyy)	アクション実行のためのマネージャ情報 x は複数ある場合の順番 yyy はアクションシーケンスでのパラメータ名		○
other(x):(yyy)	アクション実行のためのその他の情報 xは複数ある場合の順番 yyyはアクションシーケンスでのパラメータ名		○
(yyy) is zzz	アクションの情報のkeyに含まれる(yyy)の説明		○

2.2.2. ESMPRO/ServerManager連携に関するイベントログ

SystemProvisioning の ESMPRO/ServerManager 連携に関して記録するイベントログの一覧です。これらのイベントソース名は、"SystemMonitorEvent" です。

イベント ID	説明	種類	意味	対処方法
101	ESM Base Serviceが起動していません。	エラー	ESMPRO/ServerManager のサービス(ESM Base Service)が開始されていません。	ESMPRO/ServerManagerの "ESM Base Service"サービスが開始されていることを確認し、開始されていない場合は、"ESM Base Service" を開始してください。
102	ESM Base Serviceが復旧しました。監視を再開します。	情報	ESMPRO/ServerManager のサービス(ESM Base Service)が開始されたため、イベント監視を再開しました。	なし
103	ESM Base Serviceがインストールされていません。	エラー	ESMPRO/ServerManager がインストールされていません。	ESMPRO/ServerManagerをインストールしてください。

2.3. ログファイル一覧

SigmaSystemCenter の各コンポーネントが出力するログファイルの一覧を記載します。各ログファイルには上限サイズが設定されており、世代管理を行います。

2.3.1. SystemProvisioningのログ

SystemProvisioning が出力するログには、以下があります。

◆ SystemProvisioning

フォルダ	*SystemProvisioningインストールフォルダ*¥log¥ (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥PVM¥log)
ファイル	ActionJob.log ActionSequence.log AliveMonitor.log CacheManager.log CmdbApi.log CmdbApiAccess.log CmdbConfig.log CmdbConverter.log CmdbSqlSession.log ComponentManager.log DataAccess.log DataAccessError.log DpmLibWrapper.log DpmProvider.log Engine.log EsmproMonitor.log EsmproProvider.log FirewallProvider.log HyperVProvider.log InformationCollect.log JobManager.log KvmProvider.log LibvirtWrapper.log logAfterShutdown.log loginit.log MaintenanceCmdb.log MaintenanceHardwarePartsStatus.log ManagementLogWriter.log ObjectCache.log PimProvider.log PlacementEvent.log ProviderCommon.log ProviderCommonCmdb.log PvmClarix.log PvmEventlog.log

	PvmiStorage.log PvmMachineEvent.log PvmNetApp.log PvmNetvisorpro.log PvmPimIpmi.log PvmPimIpmi_Rmcp.log PVMReport.log PvmStorage.log PvmSwitchBlade.log PvmSymmetrix.log pvmutl.log ResourceEventList.log ResourceEventListener.log ResourceEventSender.log rm_pfmAPI.log rm_pfmAPI_old.log SLBProvider.log ssc.log ssc-old.log SystemEvent.log Usual.log UniversalConnector.log UniversalConnectorDefect.log VMwareProvider.log VMwareProviderInfo.log VMwareProviderEsxEvent.log VMwareProviderEvent.log VncClient.log WebConnector.log XenProvider.log
出力内容	SystemProvisioningの運用ログ、およびデバッグログ
記録方法	ログファイルの最大サイズを超えると、～.log.1のようにバックアップが作成されます。(pvmutl.log、ssc.log、rm_pfmAPI.logは除く)。基本は～.log.1のみですが、一部のログファイルは、それ以上バックアップを保存するものもあります。
補足	・ログファイルは、テキストエディタで確認できます。 ・ログファイルの最大サイズは、Webコンソールの [管理] ツリー － [環境設定] アイコン－ [ログ] タブの [最大出力サイズ] から変更できます。一部のログファイルは、設定した[最大出力サイズ]の2倍のサイズになるものもあります。 (rm_pfmAPI.log は1MBで固定)

◆ SystemProvisioning Web コンソール

フォルダ	*SigmaSystemCenterインストールフォルダ*¥PVM¥Provisioning¥Logs¥ (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥PVM¥Provisioning¥Logs)
ファイル	Web-GUI.log Web-GUI.log.1
出力内容	SystemProvisioning (GUI) のエラー情報、トレース情報

記録方法	各ファイルの最大サイズは16MBで2世代まで管理します。 Web-GUI.logのサイズが上限 (16MB) に達した場合、Web-GUI.log.1 (既にファイルが存在している場合は削除後) に名前を変更し、新たにWeb-GUI.logが作成されます。
補足	ログファイルは、テキストエディタで確認できます。

◆ SystemProvisioning 仮想マシンコンソール・SOL コンソール

フォルダ	*現在の非ローミングユーザのアプリケーションデータフォルダ*¥SSC ・ Windows Server 2008以降: (既定値: C:¥Users¥*ユーザ名*¥AppData¥Local¥SSC) ・ Windows Server 2003以前: (既定値: C:¥Documents and Settings¥*ユーザ名*¥Local Settings¥Application Data¥SSC)
ファイル	HyperVConsole_Main.log HyperVConsole_Main.log.1 KvmConsole_Main.log KvmConsole_Main.log.1 KvmConsole_VncClient.log KvmConsole_VncClient.log.1 SOLConsole_Main.log SOLConsole_Main.log.1 SOLConsole_PimIpmiClient.log SOLConsole_PimIpmiClient.log.1 SOLConsole_RmcpClient.log SOLConsole_RmcpClient.log.1 VncConsole_Main.log VncConsole_Main.log.1 XenServerConsole_Main.log XenServerConsole_Main.log.1 XenServerConsole_VncClient.log XenServerConsole_VncClient.log.1
出力内容	SystemProvisioning 仮想マシンコンソール・SOLコンソールのエラー情報、トレース情報
記録方法	各ファイルの最大サイズは4MBで2世代まで管理します。 ログファイルの最大サイズを超えると、～.logと～.log.1が切り替わります。 ログ出力がある場合にのみ作成されるため、記載したファイルが存在しない場合もあります。
補足	ログファイルは、テキストエディタで確認できます。

2.3.2. DPMのログ

DPM が出力するログには、以下があります。

◆ DPM サーバ

DPM サーバをインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

関連情報: DPM サーバをインストールしたマシンには、イメージビルダと DPM コマンドラインも同時にインストールされます。後述の「◆イメージビルダ (リモートコンソール)」と「◆DPM コマンドライン」の記載も合わせて参照してください。

フォルダ	*DPMサーバのインストールフォルダ*¥Log¥ ・ x86 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Log) ・ x64 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥Log)
ファイル	apiserv.csv apitrace.log bkressvc.csv DepInit.csv depssvc.csv DIBPkgMake.csv ftsvc.csv pmdb.log pminfo.log pxemtftp.csv pxesvc.csv rupdssvc.csv schwatch.csv rupdssvc_*管理対象マシン名*_*管理対象マシンのMACアドレス*.log
出力内容	DPMトレースログ、エラー情報、データベースアクセスログ
記録方法	apitrace.logは、最大1MB。 pmdb.logと、pminfo.logのファイルサイズは、最大16KB。 それ以外のファイルは、最大10MBとなります。 apitrace.logは、ファイルの最大サイズを超えるとファイル内の先頭から、順番に上書きされます。 pmdb.log、pminfo.logとrupdssvc_*管理対象マシンのマシン名*_*管理対象マシンのMACアドレス*.logは、2世代管理 (ファイルの最大サイズを超えると、ファイル名が「*.log.bak」に変更され、元の「*.log.bak」が削除されます)。 *.csvファイルは、5世代管理 (「*.csv」がファイルの最大サイズを超えると、ファイル名を「*.csv.1」に変更し、元の「*.csv.n」は、それぞれファイル名が「*.csv.n+1」に変更され、「*.csv.4」が削除されます)。 また、各ファイルとも手動で削除できます (apitrace.logと「*.csv」は、DPMのサービス停止後に手動で削除してください)。

フォルダ	*DPMサーバのインストールフォルダ*¥Datafile¥LogFile¥SnrReport¥ ・ x86 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥LogFile¥SnrReport) ・ x64 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥LogFile¥SnrReport)

ファイル	Scenario.rpt
出力内容	シナリオ実行結果
記録方法	ファイルサイズに制限はありません。 DPMのWebコンソールから削除できます (削除する手順の詳細については、「DeploymentManagerリファレンスガイド」の「4.5.2 ログの削除」を参照してください)。

フォルダ	*DPMサーバのインストールフォルダ*¥Datafile¥LogFile¥AuReport¥ ・ x86 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥LogFile¥AuReport) ・ x64 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥LogFile¥AuReport)
ファイル	Index.rpt *管理対象マシンのMACアドレス*.rpt
出力内容	管理対象マシンの自動更新 (アプリケーションの自動配信) 実行ログ
記録方法	管理対象マシンごとにMACアドレスで個別に管理します。 各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 最大ログ数については、DPMのWebコンソールから設定できます。 最大ログ数に設定した値によって、最大ログ数を超えるとIndex.rptの古いログから順番に削除、または古いログから10%を削除します。 最大ログ数の設定については、「DeploymentManagerリファレンスガイド」の「4.7.2 最大ログ数設定」を参照してください。 なお、Index.rptから古いログが削除される際に削除するログに関連する情報のみを*管理対象マシンのMACアドレス*.rptからも削除します。 また、ログファイルは、DPMのWebコンソールから削除できます (ログファイルを削除する手順の詳細については、「DeploymentManagerリファレンスガイド」の「4.7.4 ログの削除」を参照してください)。

フォルダ	*DPMサーバのインストールフォルダ*¥Datafile¥JSLog¥ ・ x86 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥JSLog) ・ x64 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥JSLog)
ファイル	CmdUserJSLog_YYYYMMDD.csv CmdSelfJSLog_YYYYMMDD.csv MngSelfJSLog_*YYYYMMDD*.csv MngUserJSLog_*YYYYMMDD*.csv (*YYYYMMDD*: 日付)
出力内容	監査ログ (DPMサーバ内部動作 / ユーザ操作)

記録方法	各ファイルそれぞれ当日の日付のファイルに保存します。 各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 当日の日付分については、サービス起動中に削除することはできません。過去の日付分はサービス起動中でも削除できます。なお、作成日から30日を超えると自動的に削除されます。

フォルダ	*DPMサーバのインストールフォルダ*¥ WebServer¥Logs¥ ・ x86 OSの場合 ： (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥WebServer¥Logs¥) ・ x64 OSの場合 ： (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥WebServer¥Logs¥)
ファイル	Browser.log Error.log JSOX-Event.csv LibAPI.log Polling.log Trace.log WebConsole.log
出力内容	Webコンソールの障害情報 / トレース / 監査ログ
記録方法	Polling.logは、最大1MBです。その他のファイルは、最大10MBです。 Polling.logは、1ファイルに単調増加となり、JSOX-Event.csvファイルは、2世代管理 (ファイルの最大サイズを超えると、ファイル名がJSOX-Event.csv.1に変更され、元のJSOX-Event.csv.1が削除されます)。 その他のファイルは、6世代管理 (「*.log」がファイルの最大サイズを超えると、ファイル名を「*.log.1」に変更し、元の「*.log.n」は、それぞれファイル名が「*.log.n+1」に変更され、「*.log.5」が削除されます)。 各ファイルとも手動で削除できます。

フォルダ	*イメージ格納用フォルダ*¥upload¥dpmupload¥ (既定値: C:¥Deploy¥upload¥dpmupload)
ファイル	*管理対象マシンのMACアドレス*_B.zip *管理対象マシンのMACアドレス*_B_Error.zip *管理対象マシンのMACアドレス*_R.zip *管理対象マシンのMACアドレス*_R_Error.zip *管理対象マシンのMACアドレス*_P.zip *管理対象マシンのMACアドレス*_P_Error.zip *管理対象マシンのMACアドレス*.zip *管理対象マシンのMACアドレス*_Error.zip
出力内容	バックアップ / リストア / ディスク構成チェック実行時の管理対象マシン側の実行結果

記録方法	管理対象マシンごとにMACアドレスで個別に管理します。 各ファイルの最大サイズは、約50KBで、シナリオを実行するたびにファイルを上書きします。なお、手動で削除できます。 UEFIモードのマシンを管理対象とする場合、各ファイルの最大サイズは、約200KBになります。

フォルダ	%SystemRoot% (既定値: C:¥WINDOWS)
ファイル	Inst_Dpm_Db.log Inst_Dpm_Ports.log Inst_DPM_Mng.log Inst_Dpm_Jre.log
出力内容	DPMのインストールログ
記録方法	各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 Inst_Dpm_Db.log、Inst_Dpm_Jre.logは、DPMサーバをインストールする度にファイルを上書きし、インストール後にサイズは増加しません。その他のファイルは、単調増加となります。各ファイルとも手動で削除できます。

フォルダ	*SQL Serverのインストールフォルダ*¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Log (既定値: C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Log)
ファイル	ERRORLOG log_*n*.trc (*n*は数値)
出力内容	SQL Serverのログ
記録方法	各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 ERRORLOGは、7世代管理 (SQL Server (DPMDBI) が再起動すると、ファイル名をERRORLOG.1に変更し、元のERRORLOG.nは、それぞれファイル名がERRORLOG.*n*+1に変更され、ERRORLOG.6が削除されます)。 log_*n*.trcは、5世代管理 (log_1.trc～log_5.trcが存在する状態でSQL Server (DPMDBI) サービスが再起動すると、log_1.trcが削除されlog_6.trcが新規作成されます)。 ERRORLOGは、削除できません。 log_*n*.trcは、SQL Server (DPMDBI) サービス起動中に削除することはできません。過去ログはサービス起動中も削除できます。

◆ DPM クライアント (Windows)

DPM クライアント (Windows) をインストールした管理対象マシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	%SystemRoot% (既定値: C:¥WINDOWS)
ファイル	Inst_DPM_Win_Cli.log
出力内容	DPMのインストールログ

記録方法	ファイルサイズに制限はありません。DPMクライアントをインストールするたびに単調増加となります。手動で削除できます。

フォルダ	・ x86 OSの場合 C:¥WINDOWS¥system32 ・ x64 OSの場合 C:¥WINDOWS¥SysWOW64
ファイル	DepAgent.log rupdsvc.log DPMTray.log GetBootServerIP.log
出力内容	DPMクライアントのサービスログ 自動更新状態表示ツールのログ DPMクライアントの管理サーバ検索ログ
記録方法	DPMTray.logのファイルサイズは、最大1MB。その他のファイルは、最大2MBとなります。 DPMTray.logはファイルの最大サイズを超えると、すべてのログをクリアしてから、新しいログを記録します。 DepAgent.log、rupdsvc.log、GetBootServerIP.logは、2世代管理 (ファイルの最大サイズを超えると、ファイル名が「*.log.bak」に変更され、元の「*.log.bak」が削除されます)。 各ファイルとも手動で削除できます。

フォルダ	%SystemRoot%¥DeploymentManager¥JSLog (既定値: C:¥WINDOWS¥DeploymentManager¥JSLog)
ファイル	CliSelfJSLog_*YYYYMMDD*.csv (*YYYYMMDD*: 日付)
出力内容	監査ログ(DPMクライアントの内部動作)
記録方法	各ファイルともファイルサイズの制限はありません。 当日の日付分については、サービス起動中に削除することはできません。過去の日付分はサービス起動中も削除できます。作成日から30日を超えると自動的に削除されます。

◆ DPM クライアント (Linux)

DPM クライアント (Linux) をインストールした管理対象マシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	/opt/dpmclient/agent/log
ファイル	depinst.log depagtd.log GetBootServerIP.log

出力内容	DPMクライアント (Linux) のインストールログ DPMクライアントのサービスログ DPMクライアントの管理サーバ検索ログ
記録方法	depinst.logはファイルサイズに制限はなく、DPMクライアントをインストールするたびにファイルが上書きされます。 depagtd.logとGetBootServerIP.logは、2世代管理 (ファイルの最大サイズ (2MByte) を超えると、ファイル名が*.log.bakに変更され、元の*.log.bakが削除されます)。 手動で削除できます。

◆ イメージビルダ (リモートコンソール)

イメージビルダ (リモートコンソール) をインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	*イメージビルダ (リモートコンソール) のインストールフォルダ*¥Datafile¥JSLog ・ x86 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥JSLog) ・x64 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥JSLog)
ファイル	ImgUserJSLog_*YYYYMMDD*.csv ImgSelfJSLog_*YYYYMMDD*.csv (*YYYYMMDD*: 日付)
出力内容	監査ログ (ユーザによる操作 / イメージビルダの内部動作)
記録方法	各ファイルの最大サイズに制限はありません。 当日の日付分は、サービス起動中に削除することはできません。過去の日付分はサービス起動中も削除できます。作成日から30日を超えると自動的に削除されます。

◆ DPM コマンドライン

DPM コマンドラインをインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	*DPMコマンドラインのインストールフォルダ*¥Log ・ x86 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Log) ・ x64 OSの場合 : (既定値: C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥Log)
ファイル	DPM_Trace1.csv
出力内容	監査ログ (ユーザによる操作 / DPMコマンドラインの内部動作)

記録方法	DPM_Trace1.csvは、最大10MB。 5世代管理 (DPM_Trace1.csvがファイルの最大サイズを超えると、ファイル名をDPM_Trace2.csvに変更し、元のDPM_Trace[*n*].csvは、それぞれファイル名がDPM_Trace[*n*+1].csvに変更され、DPM_Trace5.csvが削除されます)。 手動で削除できます。DPMコマンドラインを実行中は削除できません。

2.3.3. SystemMonitor性能監視のログ

SystemMonitor 性能監視が出力するログには、以下があります。

◆ イベントログ

表示名	SystemMonitor性能監視
出力内容	SystemMonitor性能監視のエラー / 運用情報
記録方法	最大ログサイズは16,384KBで、上限に達した場合、必要に応じてイベントを上書きします。

◆ デバッグログ

フォルダ	*SystemMonitor性能監視インストールフォルダ*¥log¥ (既定値: C:¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥log)
ファイル	rm_service.log rm_client.log rm_tool.log rm_command.log
出力内容	SystemMonitor性能監視のエラー情報、トレース情報
記録方法	最大ログサイズはデフォルト10MB (rm_command.logは1MBで固定) で、上限に達した場合、出力ファイルを切り替えます。ログファイルは既定値10で、ファイル数の指定値の世代分が保存されます。 ファイル数については、SystemMonitor性能監視の「環境設定」ダイアログボックスの [ログ] タブで設定します。
補足	ログファイルは、テキストエディタで確認できます。

2.3.4. ESMPRO/ServerManagerのログ

ESMPRO/ServerManager が出力するログファイルには、以下があります。

注:

▪ 64 ビット OS をご使用の場合、"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC" を "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC" に読み替えてください。

▪ ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダ

X86 OS の場合:

既定値:%ProgramFiles%¥NEC¥SMM

X64 OS の場合:

既定値:%ProgramFiles(x86)%¥NEC¥SMM

以降は C:¥Program Files¥NEC¥SMM にインストールした場合を記載します。

◆ ServerManager 本体部が出力するログ

- 統計情報ファイル

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のesmproディレクトリ
ファイル	サーバ名に.dat、および.bakを付加したファイル名
出力内容	統計情報自動収集設定を行っている場合、1回の出力情報収集につき約40KBのログが出力されます。
記録方法	データ量は監視対象サーバの構成に依存します。 収集時にデータが追加され、統計情報自動収集の設定ダイアログで設定した期間 (既定値: 100日) 経過すると上書きされます。

- アラートログ

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のAlertディレクトリ
ファイル	*.alg (1件につき1ファイル) al.idx (アラート一覧管理用 / 1件につき1行)
出力内容	アラート1件につき、1ファイル約1KBのログが出力されます。
記録方法	アラートビューアのオプション画面 (*) の最大ログ件数で設定した件数を超えると古いものから削除されます。 (*) Web GUI: [ツール] メニューのオプション Windows GUI: [ツール] ー [オプション] メニューの [一般] タブ
補足	アラートログ自動保存機能を使用している場合は、その設定に従ってアラートログとは別に保存されます。

- 自動発見ログ

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥AutoDiscoveryディレクトリ

ファイル	AutodiscoveryXXXXXXXXXXXXXX_YY.DBG ("XXXXXXXXXXXXXX" は自動発見処理を行った日時、"YY" は連番)
出力内容	自動発見処理の内部ログ
用途	障害解析
最大容量	50 MB
最大容量に達した場合の動作	1回の自動発見では、1つのファイルに最大5MBのログを書き込む。 5MBを超えた場合、ファイル名の "YY" を増加させて新しいログを出力する。 ファイル数が10を超えると、古いものが上書きされる。
何世代まで保存するか	5世代
運用すると常に増加するログか	自動発見を行うと増加する。
容量制限することは可能か	Windows GUIで以下の設定を行うことで出力しないようにすることが可能。 [スタート] メニューから [ESMPRO] － [統合ビューア] を選択し、オペレーションウィンドウを開く。 オペレーションウィンドウのメニューから [ツール] － [自動発見] － [手動起動] － [TCP/IPホストの発見] を選択し、「自動発見(TCP/IPホスト)」画面を開き、[詳細] をクリックし、「自動発見の詳細設定」画面を開く。 [調査用ログを出力する] チェックボックスをオフにすると、ログは出力されない。
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	削除して問題ない。 空ファイルを作成する必要はない。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- 状態監視ログ

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥ESMDSVAPディレクトリ
ファイル	ESMDSVAPXXXXXXXXXXXXXX.log ESMDSVAPXXXXXXXXXXXXXX.log.gz ("XXXXXXXXXXXXXX" はファイル作成日時)
出力内容	SNMP状態監視 / Ping監視処理の内部ログ
用途	障害解析
最大容量	50MB

最大容量に達した場合の動作	"XXXXXXXXXXXXXX" 部分を更新し、新規に.logファイル作成。また、50MBに達したファイルは定期的な処理で圧縮され、.log.gzとなる (サイズは約1/20となる)。
何世代まで保存するか	21世代
運用すると常に増加するログか	増加する
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	レジストリ[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE]WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥ESMDSVAPディレクトリ
ファイル	CompressLogXXXXXXXXXXXXXX.log
出力内容	ESMDSVAPXXXXXXXXXXXXXX.logファイル圧縮処理の内部ログ
用途	障害解析
最大容量	500KB
最大容量に達した場合の動作	"XXXXXXXXXXXXXX" 部分を更新し、新規に.logファイル作成。
何世代まで保存するか	3世代
運用すると常に増加するログか	ESMDSVAPXXXXXXXXXXXXXX.logファイル圧縮時に増加する
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- SNMP 通信エラーログ

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥NVBASEディレクトリ
ファイル	nvX.lgo (Xは1～5)
出力内容	SNMP通信処理でエラーが発生した場合のエラー詳細
用途	障害解析
最大容量	1 MB
最大容量に達した場合の動作	1MB * 5ファイルをサイクリックに使用する。
何世代まで保存するか	5世代
運用すると常に増加するログか	SNMP通信処理でエラーが発生した場合に増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- WMI プロバイダログ

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥ESMPVMPRディレクトリ
ファイル	esmpvmprXXXXXXXXXXXXXX.log
出力内容	WMIプロバイダのメイン処理ログ
用途	障害解析
最大容量	1MB
最大容量に達した場合の動作	"XXXXXXXXXXXXXX" 部分を更新し、新規に.logファイル作成。
何世代まで保存するか	5世代
運用すると常に増加するログか	増加する
容量制限することは可能か	不可

定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	レジストリ [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥ESMPVMPRディレクトリ
ファイル	autodiscXXXXXXXXXXXXXX.log
出力内容	WMIプロバイダの自動発見ログ
用途	障害解析
最大容量	1MB
最大容量に達した場合の動作	"XXXXXXXXXXXXXX" 部分を更新し、新規に.logファイル作成。
何世代まで保存するか	5世代
運用すると常に増加するログか	増加する
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- CLI (esmcli) ログ

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMSM¥bin
ファイル	esmclilogXX.log ("XX" は連番)
出力内容	esmcliの内部ログ
用途	障害解析
最大容量	1MB
最大容量に達した場合の動作	ファイル名の "XX" を増加させて新しいログを出力する。 ファイル数が2を超えると、1番古いファイルを削除する。
何世代まで保存するか	2世代

運用すると常に増加するログか	esmcliを使用すると増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。 ただし、esmcliを使用中は削除できません。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- 障害解析用内部ログ

フォルダ	レジストリ[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE] WorkDirで示されるディレクトリ配下のtmp¥nvAccessorディレクトリ
ファイル	nvAccessorXXXXXXXXXXXXXX.log
出力内容	障害解析用内部ログ
用途	障害解析
最大容量	500KB
最大容量に達した場合の動作	"XXXXXXXXXXXXXX" 部分を更新し、新規に.logファイル作成。
何世代まで保存するか	3世代
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service¥esmpro¥log¥

ファイル	Indication.log EsmNativeAccess.log EsmTools.log EsmViAccess.log EsmWsmanAccess.log EsmEsxServerInfo.log EsmEventManager.log EsmFtinfo.log EsmSnmp4j.log Snmp4j.log
出力内容	障害解析用内部ログ
用途	障害解析
最大容量	Indication.log : 1MB EsmNativeAccess.log : 1MB EsmTools.log : 1MB EsmViAccess.log : 2MB EsmWsmanAccess.log : 2MB EsmEsxServerInfo.log : 2MB EsmEventManager.log : 5MB EsmFtinfo.log : 2MB EsmSnmp4j.log : 2MB Snmp4j.log : 2MB
最大容量に達した場合の動作	XXXX.log.1 にリネームする。 既に存在するXXXX.log.nは、XXXX.log.n+1にリネームする。
何世代まで保存するか	EsmEventManager.log : 6世代 その他 ：3世代
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- アプリケーションログ

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service
ファイル	hislog.txt

出力内容	管理サーバとの通信やオペレータが行った作業などのイベント
用途	アプリケーションログ
最大容量	2000件 (デフォルト)
最大容量に達した場合の動作	.bakファイルにリネームし、新規に.logを作成。
何世代まで保存するか	2世代 (hislog.txt、hislog.bak)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	2000行～10000行の範囲で変更可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要 削除した場合は、以下のサービスを再起動してください。 ・ESMPRO/SM Common Component ・ESMPRO/SM Web Container
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- システムログ

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service
ファイル	syslog.txt
出力内容	開発内部の障害解析
用途	システムログ
最大容量	250KB
最大容量に達した場合の動作	syslog.bakにリネームし、新規にsyslog.txtを作成する。
何世代まで保存するか	2世代 (syslog.txt、syslog.bak)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要 削除した場合は、以下のサービスを再起動してください。 ・ESMPRO/SM Common Component ・ESMPRO/SM Web Container

参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

- コンソールログ

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service
ファイル	xx.txt (xx: サーバID)
出力内容	リモートコンソールの画面データ
用途	コンソールログ
最大容量	64KB (デフォルト)
最大容量に達した場合の動作	xx.bakにリネームし、新規に.txtを作成する。
何世代まで保存するか	2世代 (.txt、.bak)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	4KB～1000KB範囲で変更可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ)

- データベースログ

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service
ファイル	rmmanager.log
出力内容	ExpressUpdate内部データベースの実行状況を格納
用途	障害解析
最大容量	3MB
最大容量に達した場合の動作	古いrmmanager.logを削除し、新規にrmmanager.logを作成する。
何世代まで保存するか	1世代 (rmmanager.log)
運用すると常に増加するログか	3MBを上限に増加

容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題あり 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ)

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service
ファイル	derby.log
出力内容	ExpressUpdate内部データベースの起動・実行状況を格納
用途	障害解析
最大容量	なし
最大容量に達した場合の動作	最大容量がないため、動作もなし。
何世代まで保存するか	1世代 (derby.log)
運用すると常に増加するログか	エラー発生時のみ増加する。 ただし、サービス起動の度にクリアされる。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題あり 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ)

- Axis2 ログ

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service
ファイル	axis2.log
出力内容	共通基盤の実行状況を格納
用途	障害解析
最大容量	1MB

最大容量に達した場合の動作	axis.log.1、axis.log.2にリネームし、新規にaxis.logを作成する。
何世代まで保存するか	3世代 (axis.log、axis.log.1、axis.log.2)
運用すると常に増加するログか	1MBを上限に増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題あり 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ)

◆ AlertManager 部が出力するログ

注: ESMPRO/ServerAgent が先にインストールされた場合、既定値は以下のようになります。
(C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥AlertMan) → (C:¥ESM¥AlertMan)

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥AlertMan¥Work¥
ファイル	AMVSCKR.log
出力内容	TCP/IP通報受信処理の内部ログ
用途	障害解析
最大容量	1000KB
最大容量に達した場合の動作	.bakファイルにリネームし、新規に.logを作成。
何世代まで保存するか	2世代 (.log、.bak)
運用すると常に増加するログか	TCP/IP通報を受信すると増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥AlertMan¥Work¥
ファイル	NVCRTCPY.LOG

出力内容	受信情報の設定のログ 通報テーブルが反映される度に古いものは削除し、新規作成する。
用途	障害解析
最大容量	1000KB
最大容量に達した場合の動作	増加はしない。
何世代まで保存するか	1世代
運用すると常に増加するログか	増加はしない。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥AlertMan¥Work¥
ファイル	NvIRTCp2.log NvIRTCpy.log
出力内容	受信情報の設定の内部処理のログ
用途	障害解析
最大容量	1000KB
最大容量に達した場合の動作	.bakファイルにリネームし、新規に.logを作成。
何世代まで保存するか	2世代 (.log、.bak)
運用すると常に増加するログか	受信情報の設定を行うと増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	問題なし 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVWORK¥AMWORK¥SCK¥
ファイル	AMVSCKR.LOG
出力内容	TCP/IP通報受信の内部ログ
用途	障害解析
最大容量	2000KB

最大容量に達した場合の動作	古い情報から更新していく。
何世代まで保存するか	1世代
運用すると常に増加するログか	TCP/IP通報を受信すると増加する。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	不可
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	不可 (バイナリ)

◆ RAID システム管理機能が出力するログ

以下のログは、管理対象マシンが VMware ESXi 5 以降の場合のみ登録します。管理対象マシンが Windows、Linux、VMware ESX の場合は登録しません。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service¥log¥S**XX**¥uru **XX** : サーバID
ファイル	raid.log
出力内容	RAIDシステムのログ (テキスト形式)
用途	RAIDシステムの情報を格納
最大容量	1536KB
最大容量に達した場合の動作	新しいメッセージの書き込み前に、最古のメッセージから順に削除して必要な容量を確保する。 容量確保が完了したら、新しいメッセージを追記する。
何世代まで保存するか	1世代 (raid.log)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	動作には問題ないが、過去のRAIDシステム情報がわからなくなるため障害解析に支障が出る可能性あり。 空ファイル不要。
参照することができるのか (参照する方法、直接見られるか)	参照可 (テキストエディタ)

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service¥log¥S**XX**¥uru **XX** : サーバID
ファイル	raid_log_bin.dat

出力内容	RAIDシステムのログ (バイナリ形式)
用途	内部処理
最大容量	3072KB
最大容量に達した場合の動作	新しいメッセージの容量分を、最古のメッセージから順番に削除して確保したのちに追記する。
何世代まで保存するか	1世代 (raid_log_bin.dat)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	動作には問題ないが、過去のRAIDシステムの状況がわからなくなるため障害解析に支障が出る可能性あり。 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照不可 (バイナリ)

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service¥log¥S**XX**¥uru **XX** : サーバID
ファイル	raidconn_lsismis.log
出力内容	LSI SMI-Sコネクタの内部ログ
用途	障害解析
最大容量	1024KB
最大容量に達した場合の動作	.bakファイルにリネーム後zip圧縮し、新規に.logを作成。
何世代まで保存するか	2世代 (raidconn_lsismis.log、raidconn_lsismis.log.bak.zip)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	動作には問題ないが、過去のLSI SMI-Sコネクタの内部処理状況がわからなくなるため障害解析に支障が出る可能性あり。 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service¥log¥S**XX**¥uru **XX** : サーバID
ファイル	raid-config.txt

出力内容	RAIDシステム構成情報
用途	障害解析
最大容量	構成情報1件 (最新状況のみ)
最大容量に達した場合の動作	古い構成情報を上書き。
何世代まで保存するか	1世代 (raid-config.txt)
運用すると常に増加するログか	最新のRAIDシステム構成情報1件だけを保持する性質上、増加し続けることはない。
容量制限することは可能か	不可
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	動作には問題ないが、RAIDシステム構成がわからなくなるため障害解析に支障が出る可能性あり。 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

フォルダ	C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro¥WEB-INF¥service¥log¥S**XX**¥uru **XX** : サーバID
ファイル	battery.log
出力内容	バッテリ情報の内部ログ
用途	障害解析
最大容量	2048KB
最大容量に達した場合の動作	.bakファイルにリネーム後zip圧縮し、新規に.logを作成。
何世代まで保存するか	2世代 (battery.log 、battery.log.bak.zip)
運用すると常に増加するログか	最大容量まで増加する。
容量制限することは可能か	可能
定期的に削除しても問題ないか / 削除した場合、同一名称で空ファイルを作成する必要があるか	動作には問題ないが、過去のバッテリ情報がわからなくなるため障害解析に支障が出る可能性あり。 空ファイル不要。
参照することができるのか **(参照する方法、直接見られるか)**	参照可 (テキストエディタ) ただし、内部ログのため構造は非公開。

付録

- 付録 A　ネットワークポートとプロトコル一覧 205
- 付録 B　構成情報データベースの移行 227
- 付録 C　データベースが使用する容量の見積もり方法 239
- 付録 D　アクションシーケンスの種類 243
- 付録 E　改版履歴 247
- 付録 F　ライセンス情報 249

付録 A　ネットワークポートとプロトコル一覧

SigmaSystemCenter の各コンポーネントは既定で以下のネットワークポートを使用するよう設定してあります。ネットワークポートとプロトコルに関する情報について記載します。

関連情報: SigmaSystemCenter インストーラにより、Windows ファイアウォールの例外リストにプログラム、またはポートを登録することができます。登録することのできるプログラム、またはポートについては、「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」の「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

SystemProvisioning

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
DPM制御		自動	HTTP	→	DPMサーバ	80	Webサービス (IIS)
死活監視 (Ping)	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe		ICMP	→ ←	管理対象マシン		
死活監視 (Port)	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	自動	TCP	→	管理対象マシン	任意	
Hyper-V管理	¥Program Files¥WINDOWS¥System32¥svchost.exe	自動	TCP (DCOM)	→	Hyper-Vホスト WMI (Hyper-V)	135	
Hyper-V管理	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	自動	TCP (DCOM)	→	Hyper-Vホスト WMI (Hyper-V)	1024-65535 ※2	
Hyper-V管理		自動	TCP	→	ファイルサーバ	139	(システム)
Hyper-V管理		自動	TCP	→	ファイルサーバ	445	(システム)
KVM管理	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	自動	TCP	→	KVMホスト	16509, 16514 ※4	
内部制御 SystemMonitor 性能監視接続 ※1	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	26102	TCP	←	管理サーバ SystemMonitor 性能監視サーバ	自動	

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
内部制御 管理サーバ群 ※1	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	26150	TCP	←	管理サーバ 外部管理サーバ	自動	
Web API ※3	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	26105	TCP	←	Web APIクライアント	自動	
Webコンソール		80	TCP	←	Webブラウザ 仮想マシンコンソール	自動	
Out-of-Band Management	¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe	自動	UDP (IPMI)	→	BMC	623	
	¥WINDOWS¥System32¥snmptrap.exe	162	UDP (SNMP Trap) 162	←	BMC	自動	

※1 SystemMonitor性能監視からの接続、Webコンソール、コマンドなどSystemProvisioningモジュールからの接続で使用しています。

※2 ポートを制限する場合は、Microsoft KB300083、KB154596などの点にご注意ください。

※3 Web APIを使用して、SigmaSystemCenter外部モジュールから接続する場合に使用します。Web APIの詳細については、Web API リファレンスガイドを参照してください。

※4 ポートを変更する場合は、libvirtのドキュメントを参照してください。

SystemProvisioning (仮想マシンコンソール・SOLコンソール)

項目 ※1	実行ファイル名 ※2	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
仮想マシンコンソール(Hyper-V)	HyperVConsole.exe	自動	TCP	→	Hyper-Vホスト	2179	
		自動	TCP	→	Webコンソール	80	
仮想マシンコンソール(XenServer)	VncConsole.exe	自動	TCP	→	XenServerホスト	443	
		自動	TCP	→	Webコンソール	80	
仮想マシンコンソール(KVM)	VncConsole.exe	自動	TCP	→	KVMホスト	5900-65535 ※3	
		自動	TCP	→	Webコンソール	80	
SOLコンソール	SOLConsole.exe	自動	UDP (IPMI)	→	BMC	623	

※1　仮想マシンコンソール (VMware) は、VMwareホストの902 (TCP) に接続します。
詳細については、VMware社発行の各製品マニュアルを参照してください。

※2　実行ファイルは以下のフォルダに配置されます。

・ Windows Server 2008以降:
¥Users¥*ユーザ名*¥AppData¥Local¥Apps¥2.0¥*ランダムなフォルダ*

・ Windows Server 2003以前:
¥Documents and Settings¥*ユーザ名*¥Local Settings¥Application Data¥Apps¥2.0¥*ランダムなフォルダ*

※3　仮想ディスプレイのポート番号を自動割り当てに設定している場合

DeploymentManager

◆ DPM サーバについて ※1

項目	実行ファイル ※2	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
電源ON	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥magicsend.exe	自動	UDP	→	管理対象マシン※3	5561	
シャットダウン	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥apiserv.exe ¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥schwatch.exe	自動	TCP	→	管理対象マシン	26509 ※4	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥DepAgent.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/Depagtd
ネットワークブート※6	DHCPサーバ または ¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe ※7	67	UDP(DHCP)	←	管理対象マシン	68	
	DHCPサーバ、 または ¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe ※7	67	UDP(DHCP)	→	管理対象マシン	68	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	67	UDP	→	管理対象マシン	68	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	4011	UDP	←	管理対象マシン	68	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	4011	UDP	←	管理対象マシン	4011	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	67	UDP	→	管理対象マシン	4011	

項目	実行ファイル ※2	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxemtftp.exe	69	UDP (TFTP)	←	管理対象マシン	※8	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxemtftp.exe	69	UDP (TFTP)	→	管理対象マシン	※8	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkressvc.exe	26503 ※4	TCP	←	管理対象マシン	26503 ※4	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkressvc.exe	26502 ※4	TCP	←	管理対象マシン	26502 ※4	
ディスク複製OSインストール ※9	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥ftsvc.exe	26508 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	
バックアップ ※10	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥ftsvc.exe	26508 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkressvc.exe	26501 ※4	TCP	←	管理対象マシン	26501 ※4	
リストア (マルチキャスト) ※10	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥ftsvc.exe	26508 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkressvc.exe	26501 ※4	TCP	←	管理対象マシン	26501 ※4	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkressvc.exe	26530 ※4	UDP	→	管理対象マシン	26530 ※4	
リストア (ユニキャスト) ※10	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥ftsvc.exe	26508 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkressvc.exe	26501 ※4	TCP	←	管理対象マシン	26501 ※4	

項目	実行ファイル ※2	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
リモートアップデートによるサービスパック / HotFix / Linuxパッチファイル / アプリケーションのインストール	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	自動	TCP	→	管理対象マシン	26510 ※4	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥rupdsvc.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/Depagtd
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	自動	UDP	→	管理対象マシン	26529 ※4	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥rupdsvc.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/Depagtd
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	26507 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	・Windowsの場合のみ ¥WINDOWS¥system32¥rupdsvc.exe ※5
自動更新（DPMサーバからの通知による）でパッケージの適用	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	自動	TCP	→	管理対象マシン	26511 ※4	¥WINDOWS¥system32¥rupdsvc.exe ※5
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	26506 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	¥WINDOWS¥system32¥rupdsvc.exe ※5
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	26507 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	¥WINDOWS¥system32¥rupdsvc.exe ※5
自動更新（管理対象マシンからの要求による）でパッケージの適用	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	26506 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	¥WINDOWS¥system32¥ rupdsvc.exe ※5
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe	26507 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	¥WINDOWS¥system32¥ rupdsvc.exe ※5

項目	実行ファイル ※2	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
管理対象マシンのOS / HotFix情報取得	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥depssvc.exe	26504 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥ rupdsvc.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/Depagtd
DHCPサーバを使用しない運用	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	26505 ※4	TCP	←	管理対象マシン	自動	
DPM Webコンソールとの通信	Webサービス(IIS)	80 ※11	HTTP	←	DPMのWebコンソール	自動	
イメージビルダ(リモートコンソール)との通信	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥ftsvc.exe	26508 ※4	TCP	←	イメージビルダ(リモートコンソール)	自動	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥DIBuilde.exe
DPMコマンドラインとの通信	Webサービス(IIS)	80 ※11	HTTP	←	DPMコマンドライン	自動	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥dpmcmd.exe
管理サーバ / ポート検索	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	67	UDP(DHCP)	←	管理対象マシン	68	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥ GetBootServerIP.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/GetBootServerIP
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe	67	UDP(DHCP)	→	管理対象マシン	68	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥ GetBootServerIP.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/GetBootServerIP

項目	実行ファイル ※2	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxemtftp.exe	69	UDP (TFTP)	←	管理対象マシン	自動	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥ GetBootServerIP.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/GetBootServerIP
	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxemtftp.exe	69	UDP (TFTP)	→	管理対象マシン	自動	・Windowsの場合 ¥WINDOWS¥system32¥ GetBootServerIP.exe ※5 ・Linuxの場合 /opt/dpmclient/agent/bin/GetBootServerIP

※1 DPMサーバをインストールしたマシンは、内部処理用 (DPMサーバとWebサービス (IIS) との通信) にポート (TCP:26500) を使用するため、このポートを使用できるようにしてください。

※2 表中には、x86 OSにDPMサーバをインストールした場合の実行ファイルのパスを記載しています。

x64 OSにDPMサーバをインストールした場合は、パス中の "Program Files" を "Program Files (x86)" に適宜読み替えてください。

※3 DPMサーバをインストールしたマシンと同じセグメントのマシンに対しては255.255.255.255宛てとなります。DPMサーバをインストールしたマシンと別セグメントの場合はダイレクトブロードキャストとなります。

例) 192.168.0.0 (MASK=255.255.255.0) セグメントの場合→192.168.0.255宛になります

※4 DPM 6.1より前のバージョンとDPM 6.1では使用するポートが変更されています。DPMサーバがDPM 6.1より前のバージョンからアップグレードした場合は、従来使用していたポート番号をそのまま引き継ぐため、DPM 6.1新規インストール時のポート番号 (表中の値) とは異なります。DPM 6.1より前のバージョンのポート番号は、該当するバージョンのユーザーズガイドを参照してください。

ただし、Webサービス用ポート (56050) は引き継がず、新しいポート (26500) を使います。

※5 表中には、x86 OSにDPMクライアント (Windows) をインストールした場合の実行ファイルのパスを記載しています。x64 OSにDPMクライアント (Windows) をインストールした場合は、パス中の "system32" を "SysWOW64" に適宜読み替えてください。

※6 一連の流れはPXEブート (DHCP、およびtftp) です。

※7 DHCPサーバを同一マシンに構築している場合は、DHCPサーバが使用します。DHCPサーバを別マシンに構築している場合は、pxesvc.exeが使用します。

※8 添付装置のNIC ROMに依存します。

※9 「リストア」の項目に記載されているプロトコルとポート番号も、追加で必要となります。

※10 DHCPを使用する運用を行う場合は、「ネットワークブート」の項目に記載しているプロトコルとポート番号も追加で必要となります。

DHCPを使用しない運用を行う場合は、「DHCPサーバを使用しない運用」の項目に記載しているプロトコルとポート番号が追加で必要となります。

(マルチキャストによるリストアは、DHCPサーバを使用する運用のみサポートしています。)

※11 以下の手順を参考にして、使用するポート番号を変更することができます。

例) IIS7.0の場合

1) [スタート] メニューから [管理ツール] ー [インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ] を選択します。

2) 「インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ」画面が起動しますので、ツリービュー上でコンピュータ名ー [Web サイト] ーWebサイト名をクリックした後に [バインドの編集] を選択してポート番号を変更します。

DPM サーバについては、上記の表以外にも以下のプロトコルも使用しています。

- 生存確認として DPM サーバから管理対象マシンに対して ICMP ECHO (ping) を使用しています。
- リストア (マルチキャスト) として DPM サーバから管理対象マシンに対してマルチキャストを使用しています。
- リモートアップデートによるサービスパック / HotFix / Linux パッチファイル / アプリケーションのインストールとして DPM サーバから管理対象マシンに対してマルチキャストを使用しています。

関連情報: 管理対象マシンをマスタマシンやマスタ VM として使用して、ドメイン参加させる場合、ドメインネットワークのポートもオープンする必要があります。詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編」の「1.1.1 ディスク複製 OS インストールを行う場合の環境構築の注意」、および「1.2.1 システム構成について」の仮想環境全般を参照してください。

◆ NFS サーバについて

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
OSクリアインストール		111	TCP	←	管理対象マシン	自動	
		111	UDP	←	管理対象マシン	自動	
		1048 ※1	TCP	←	管理対象マシン	自動	
		1048 ※1	UDP	←	管理対象マシン	自動	
		2049	TCP	←	管理対象マシン	自動	
		2049	UDP	←	管理対象マシン	自動	

※1 このポート番号は動的に変更される場合があります。もし通信に失敗する場合は、"rpcinfo -p" コマンドで mountd (NFS mount daemon) サービスが使用するポート番号を確認し、そのポートを開放するようにしてください。この方法によっても改善されない場合は、Windowsファイアウォールの設定を無効にしてください。

ESMPRO/ServerManager

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
サーバ構成情報 / 状態監視 (SNMP)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe	自動	UDP	→ ←	ESMPRO/ServerAgent	161	
死活監視(Ping)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe		ICMP	→	管理対象マシン		
マネージャ通報 (SNMP)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe ※5	162	UDP	←	ESMPRO/ServerAgent	自動	
マネージャ通報 (TCP / IP in Band)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥amvsckr.exe	31134 ※1	TCP	← →	ESMPRO/ServerAgent	自動	
Remote Wake Up	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥RWUSTART.exe	自動	UDP	→	ネットワークカード	10101	
マネージャ間通信	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe	自動	TCP	→	ESMPRO/ServerManager	8806 ※2	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe
	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe	8806 ※2	TCP	←	ESMPRO/ServerManager	自動	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe
ESM Alert Service	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥esmasvnt.exe	8807 ※3	TCP	←	アラートビューア	自動	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥esmaview.exe
SANMPトラップ転送	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥esmtrprd.exe	自動	UDP	→	他のSNMP管理コンソール	162	
サーバ構成情報 / 状態監視 (SNMP)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe	自動	UDP	→	EMカード	161	
マネージャ通報 (SNMP)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥nvbase.exe ※5	162	UDP	←	EMカード	自動	

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
マネージャ通報に対するACK送信	¥Program Files¥NEC¥SMM¥NVBASE¥bin¥esmasvnt.exe	自動	UDP	→	EMカード	5002 ※4	
vProとの通信	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	→ ←	vPro	16992	
リモートコンソール	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	→ ←	vPro	16994	
サーバ監視 (WS-Man)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	→ ←	ESXi5	443	
CIM Indication 予約	¥Program Files¥ESMPRO¥ESMWEB¥jslem¥jsl.exe	自動	TCP	→ ←	ESXi5	5989	
CIM Indication 受信	¥Program Files¥ESMPRO¥ESMWEB¥jslem¥jsl.exe	6736 ※6	TCP	← →	ESXi5	自動	
Webブラウザ	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥esmweb¥jsl.exe	8185, 8105, 8109	TCP	→ ←	ESMPRO/ServerManager	自動	
マネージメントコントローラ管理機能	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	47117 ※7	UDP	← →	BMC	623 ※8	
リモートコンソール(CUI、SOL未使用)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	47115	UDP	← →	System BIOS	2069	
BMC設定、ExpressUpdate (OOB)	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	BMC	443 ※9	
情報収集、スケジュール運転	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	ESMPRO/ServerAgent Extension	47120-47129 ※10	C:¥Program Files (x86)¥ServerAgent Extension¥service¥jsl.exe
ExpressUpdate	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	ExpressUpdate Agent	自動	C:¥Program Files (x86)¥axis2c¥bin¥eciServiceProgram.exe

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
RAIDシステム管理機能	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	Universal RAID Utility	自動	C:¥Program Files (x86)¥axis2c¥bin¥eciServiceProgram.exe
ExpressUpdate検出	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	ExpressUpdate Agent	427	C:¥Program Files (x86)¥axis2c¥bin¥slpd.exe
RAIDシステム検出	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	Universal RAID Utility	427	C:¥Program Files (x86)¥axis2c¥bin¥slpd.exe
VMware ESXi5サーバ検出	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	自動	TCP	← →	VMware ESXi5	427	
マネージメントコントローラ管理機能	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.exe	47117 ※7	UDP	← →	EMカード	623	

※1 ESMPRO/ServerManagerの以下で変更できます。
Windows GUI : アラートビューアの [ツール] － ［通報の設定］
Web GUI : アラートビューアの [TCP/IP通報受信設定]

※2 ESMPRO/ServerManagerのWindows GUIでのみ変更できます。
Windows GUI : オペレーションウィンドウの [オプション] － [カスタマイズ] － [自マネージャ]
マネージャ間通信を行っている場合は、あわせて隣接マネージャ上で [オプション] － [カスタマイズ] － [マネージャ間通信] で隣接マネージャ設定の変更が必要です。
マネージャ間通信はWindows GUIのみの機能です。

※3 ESMPRO/ServerManagerのWindows GUIでのみ変更できます。
Windows GUI : アラートビューアの [ツール] － [ポート設定]
ファイアウォールでの設定は不要です。

※4 EMカード側の設定で変更ができます。

※5 SNMPトラップ受信方式を "SNMPトラップサービスを使用する" にしている場合は、"%windir%¥system32¥snmptrap.exe" を使用します。
SNMPトラップ受信方式は以下で確認できます。
Web GUI : アラートビューアの [SNMPトラップ受信設定]
Windows GUI : オペレーションウィンドウの [オプション] － [カスタマイズ] － [自マネージャ]

※6 ESMPRO/ServerManagerのWeb GUIでのみ変更できます。
Web GUI : アラートビューアの [アラート受信設定] － [CIM-Indication受信設定] － [ポート番号]

※7 ESMPRO/ServerManagerの環境設定から変更できます。

※8 OSが認識しているNICではなく、BMCのネットワークインターフェースで使用します。

※9 BMCのポート番号は、ESMPRO/ServerManagerの [BMC設定] － [ネットワーク] － [サービス] から変更できます。

※10 記載された範囲のうち、最も若い番号の未使用ポートを1つ使用します。

SigmaSystemCenter/電源管理基本パック

◆ 管理サーバについて

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
マシン生存確認 / 制御		自動	UDP	→	被管理マシン群	6000	
マシン生存確認		6000	UDP	←	被管理マシン群	自動	
Remote Wake Up		自動	UDP	→	被管理マシン群	4005	
UPS生存確認 / UPS制御		自動	UDP	→	UPS	161	
UPSイベント通知 (SNMP)		162	UDP	←	UPS	自動	
マシン生存確認 / 制御		自動	UDP	→	被管理マシン群	6000	

◆ 管理 PC について

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
マシン生存確認 / 制御		自動	UDP	→	被管理マシン群	6000	
Remote Wake Up		自動	UDP	→	被管理マシン群	4005	
UPS生存確認 / UPS制御		自動	UDP	→	UPS	161	
UPSイベント通知 (SNMP)		162	UDP	←	UPS	自動	

◆ クラスタサーバ (被管理マシン群) について

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
クラスタサーバ生存確認		自動	UDP	→	クラスタサーバ (被管理マシン群)	4000	
クラスタサーバ生存確認		4000	UDP	←	クラスタサーバ (被管理マシン群)	自動	

◆　管理サーバ / 被管理マシン群について

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
クライアント生存確認		3999	UDP	→	管理対象クライアント	3998	
クライアント生存確認		3999	UDP	←	管理対象クライアント	自動	

SystemMonitor性能監視

◆ 監視対象マシンについて

項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
性能データ収集 (Windows)		137	UDP	→	監視対象マシン	137	(システム)
	(システム)	137	UDP	←	監視対象マシン	137	
		自動	TCP	→	監視対象マシン	139	(システム)
		自動	TCP	→	監視対象マシン	445	(システム)
		自動	TCP	→	監視対象マシン	22	ユーザ指定
性能データ収集 (Linux / KVM) ※1		自動	TCP	→	監視対象マシン	23	
性能データ収集 (Linux / KVM) ※2		自動	TCP	→	監視対象マシン	22	
性能データ収集 (ESX / ESXi、Xen)		自動	TCP	→	監視対象マシン	443	

※1 Telnet経由で性能データを収集する場合に使用します。

※2 SSH経由で性能データを収集する場合に使用します。

◆ 管理コンソールマシンについて

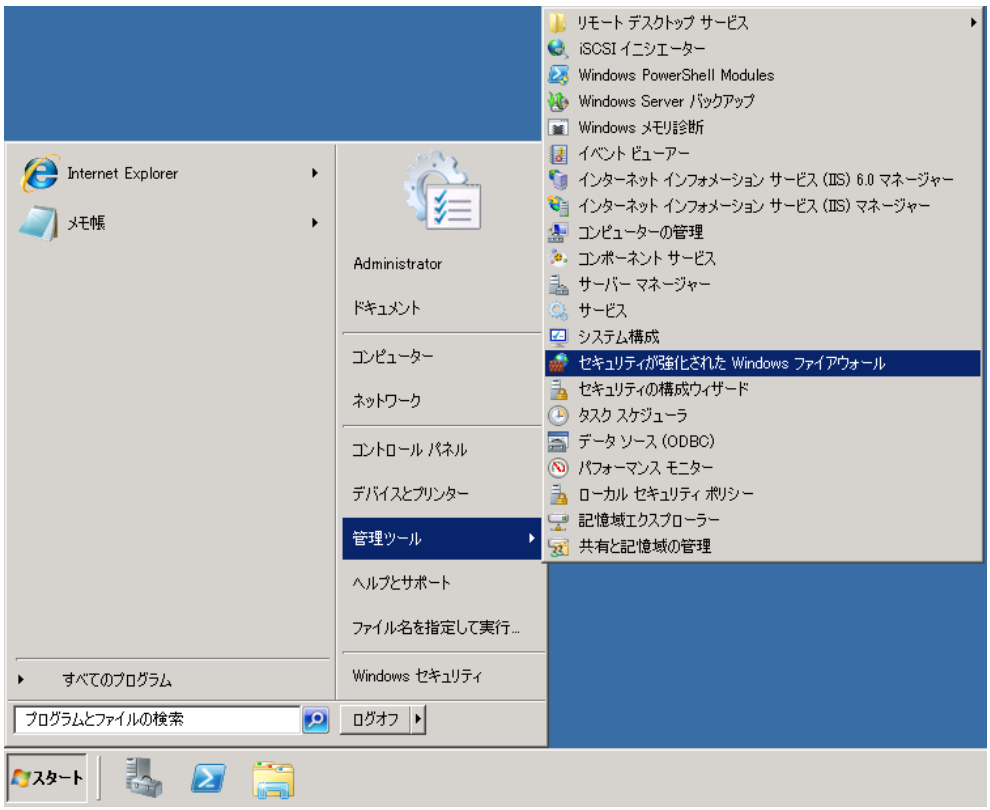
項目	実行ファイル名	ポート番号	プロトコル	接続方向	接続対象	ポート番号	実行ファイル名
管理サーバ － 管理コンソールマシン間通信		自動	TCP	→	管理コンソールマシン	26202	¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥bin¥RM_PFMCONSOLE.exe
	¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥bin¥rm_pfmservice.exe	26200	TCP	←	管理コンソールマシン	自動	

Windows Server 2008 ファイアウォールにおける ICMP Echo Replyの例外設定方法

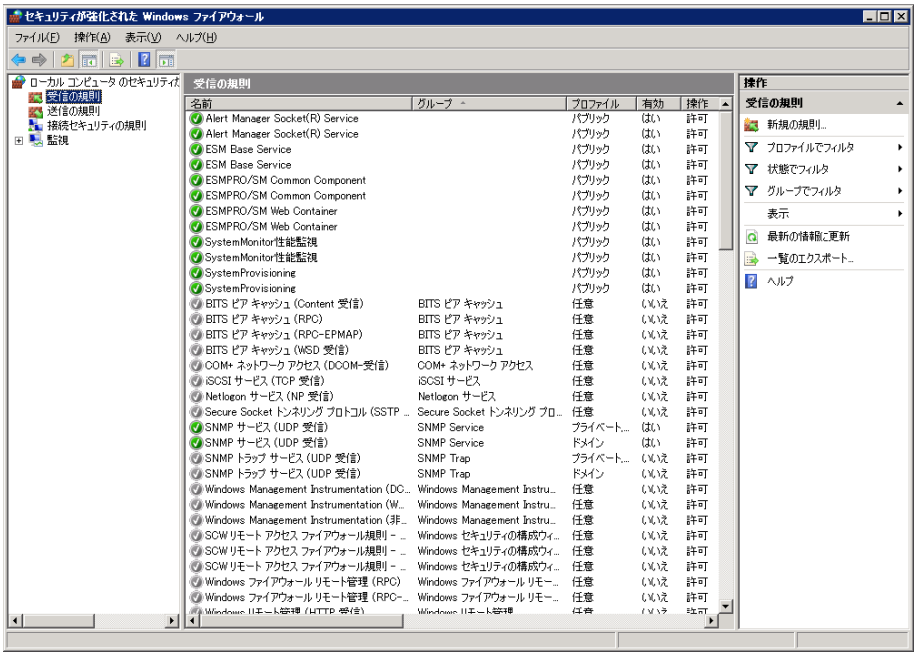
Windows Server 2008 では、SystemProvisioning は既定で ICMP Echo Reply を受信できません。Windows ファイアウォールで受信が、ほぼブロックされるためです。

Windows Server 2008 で、死活監視機能の "Ping 監視" を利用する場合には、以下の手順に従って、ファイアウォールへの例外設定を行ってください。

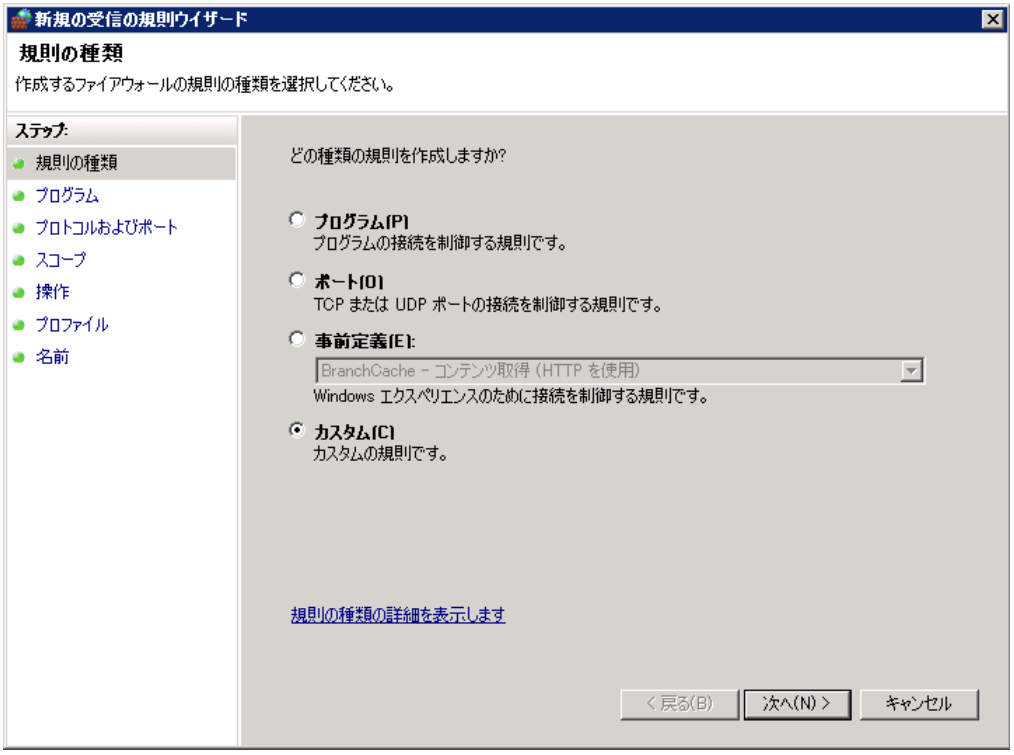
1. [スタート] メニューから [管理ツール] ー [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール] を開きます。



2. 左ペインから [受信の規則] を選択し、右ペインで[新規の規則...] をクリックします。

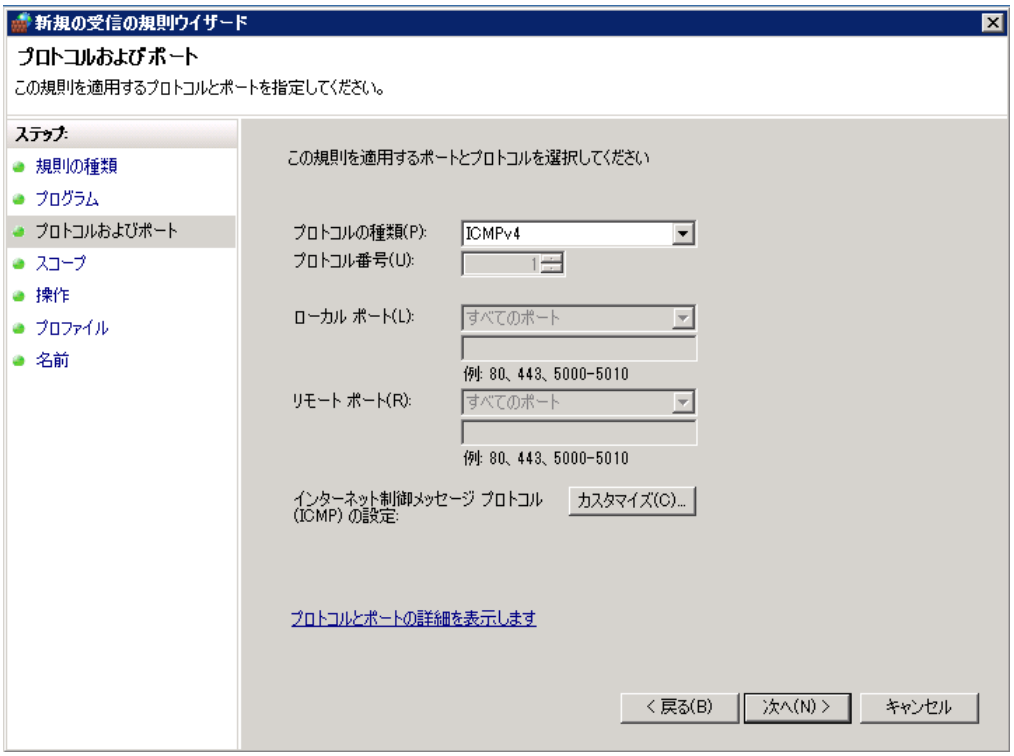


3. [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。

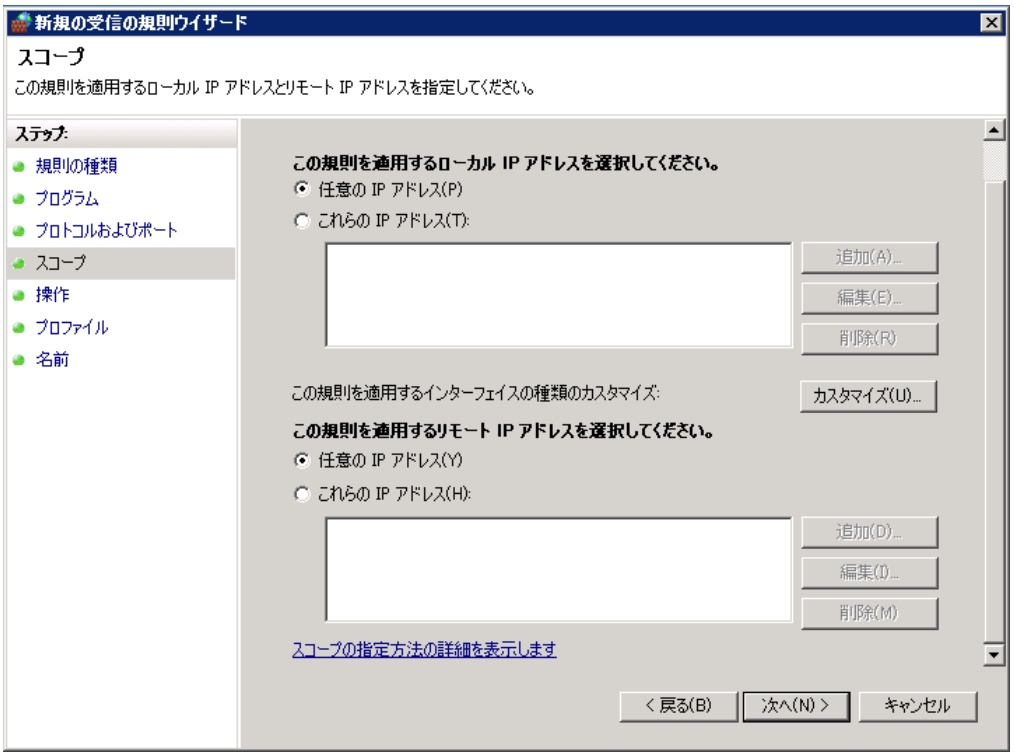


4. %ProgramFiles%¥NEC¥PVM¥bin¥PVMServiceProc.exe を入力し、[次へ] をクリックします。

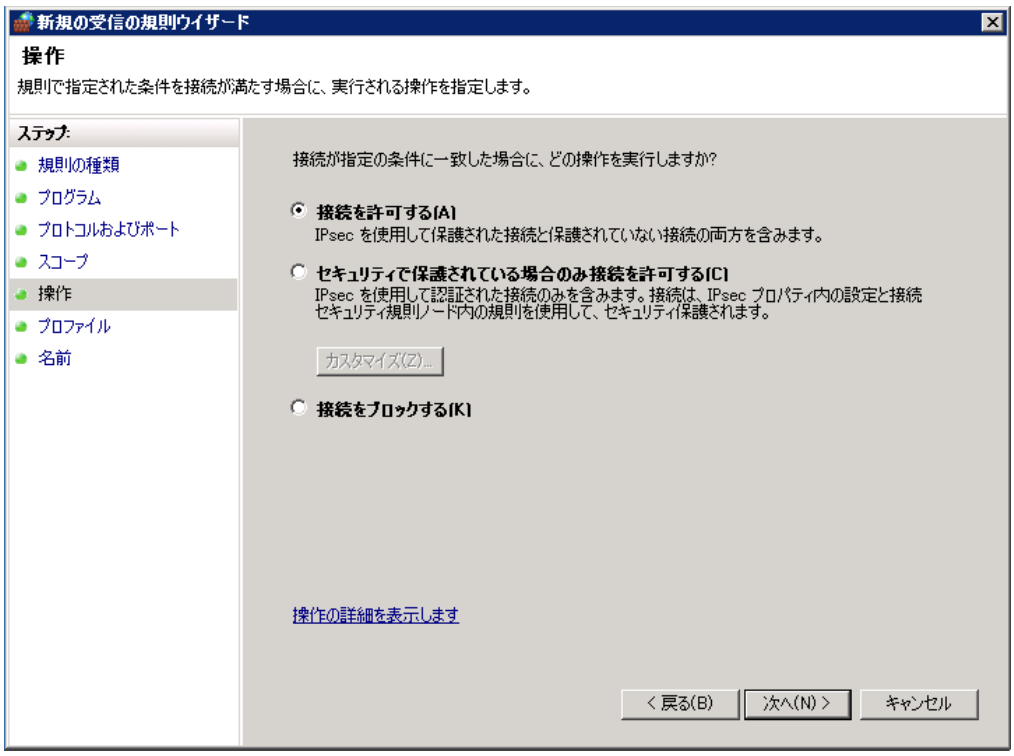
5. [プロトコルの種類] に "ICMPv4" を選択し、[次へ] をクリックします。



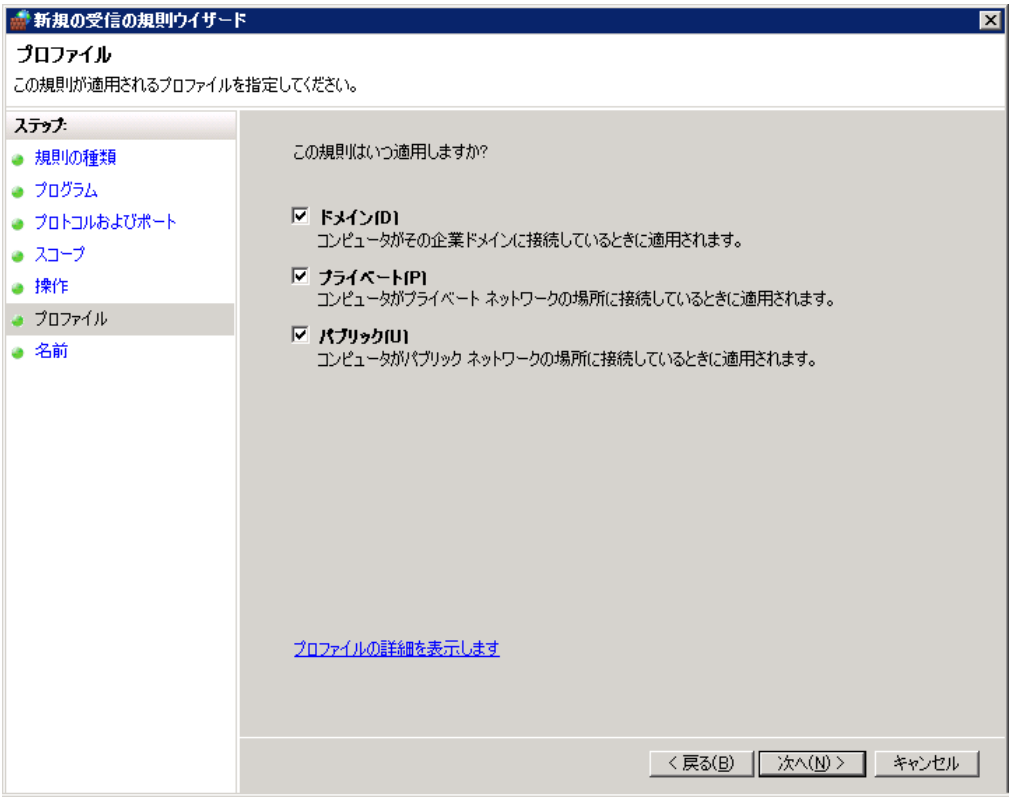
6. [次へ] をクリックします。



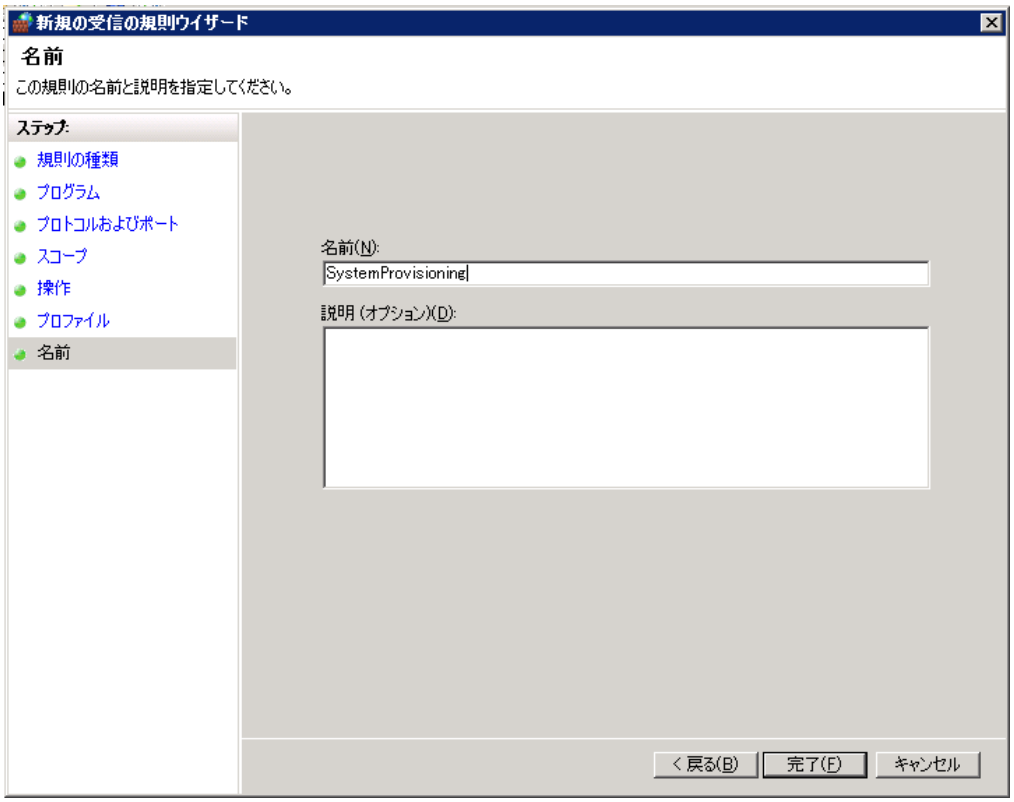
7. [次へ] をクリックします。



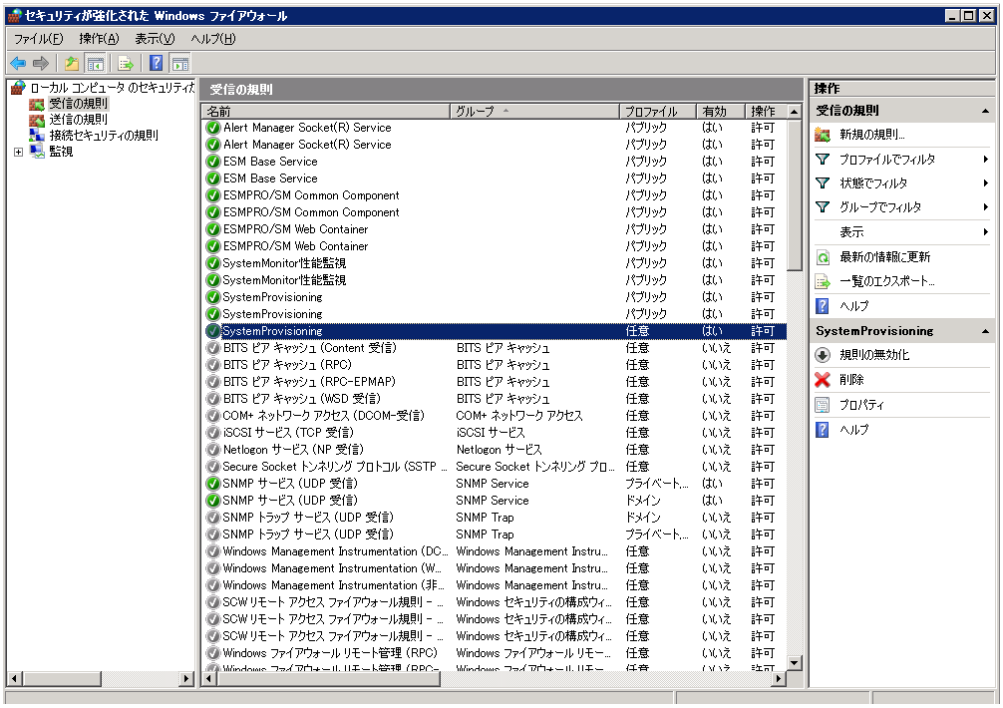
8. [次へ] をクリックします。



9. [名前] に任意の名称を設定し、[完了] をクリックします。



10. [受信の規則]に設定が追加されていることを確認します。



付録 B　　構成情報データベースの移行

構成情報データベースは、SystemProvisioning のインストール時に管理サーバに作成されますが、ネットワーク上の別のサーバに構築された SQL Server を利用することもできます。ここでは、管理サーバとは別の "SERVER1" という名前のサーバ上に、SQL Server 2008 R2 Express のインスタンス (インスタンス名: SSCCMDB) を作成し、それを構成情報データベースとして利用する例を認証モード別に記載します。

ただし、構成情報データベースを管理サーバと別のサーバ上に移行した場合、SystemProvisioning が構成情報データベースに頻繁にアクセスするため、データベースの性能が得られず、動作に影響があります。

そのため、本手順の構成情報データベースの移行は推奨しません。

注:

- 本手順は、管理サーバ、および別サーバで SQL Server 2008 R2 を使用する場合の例です。

  SigmaSystemCenter 3.1 update 1 では、製品に同梱された SQL Server 2012 Express Edition を既定でインストールします。

  SQL Server 2012 を使用する場合は、お問い合わせください。

- SystemMonitor 性能監視のデータベースは、管理サーバとは別のサーバ上に構築することはできません。

Windows認証ログインを使用する

Windows 認証ログインを使用する場合、構成情報データベースを移行するには、以下の手順に従ってください。

注: SERVER1 がドメインに参加している場合のみ有効です。ワークグループに参加している場合は、SQL 認証ログインを使用してください。

---

1. **SystemProvisioning のバックアップ**

   SystemProvisioning のバックアップを行います。

   手順の詳細については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「10.2.1 SystemProvisioning をバックアップするには」を参照してください。

   注: バックアップファイル名は、backup.dat とします。

   ---

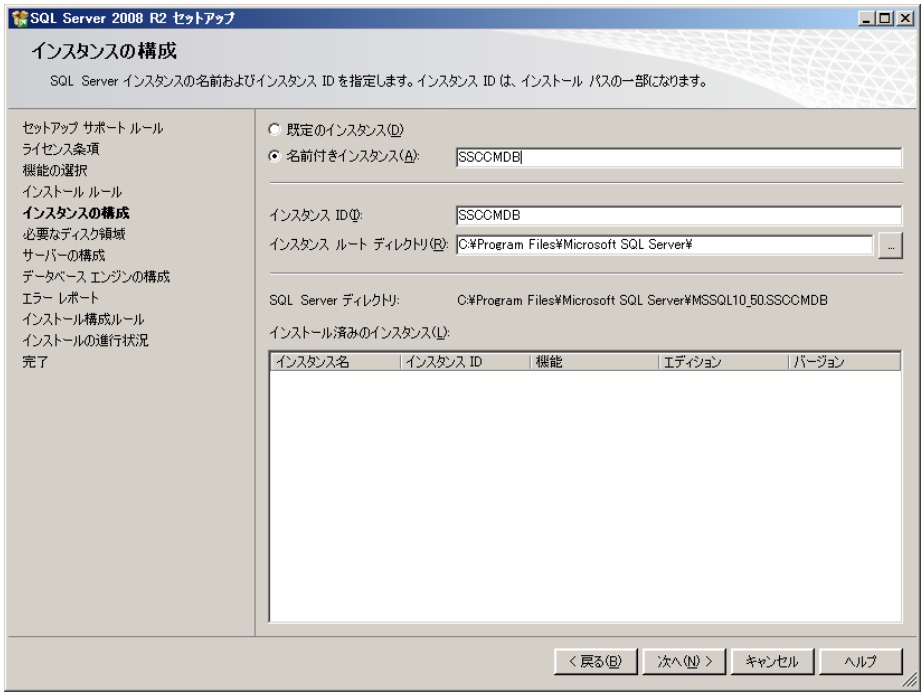
2. **インスタンスの作成**

   SERVER1 上で SQL Server 2008 R2 Express のセットアップを行います。

1. 下記のサイトから SQL Server 2008 R2 Express のセットアッププログラムをダウンロードします。

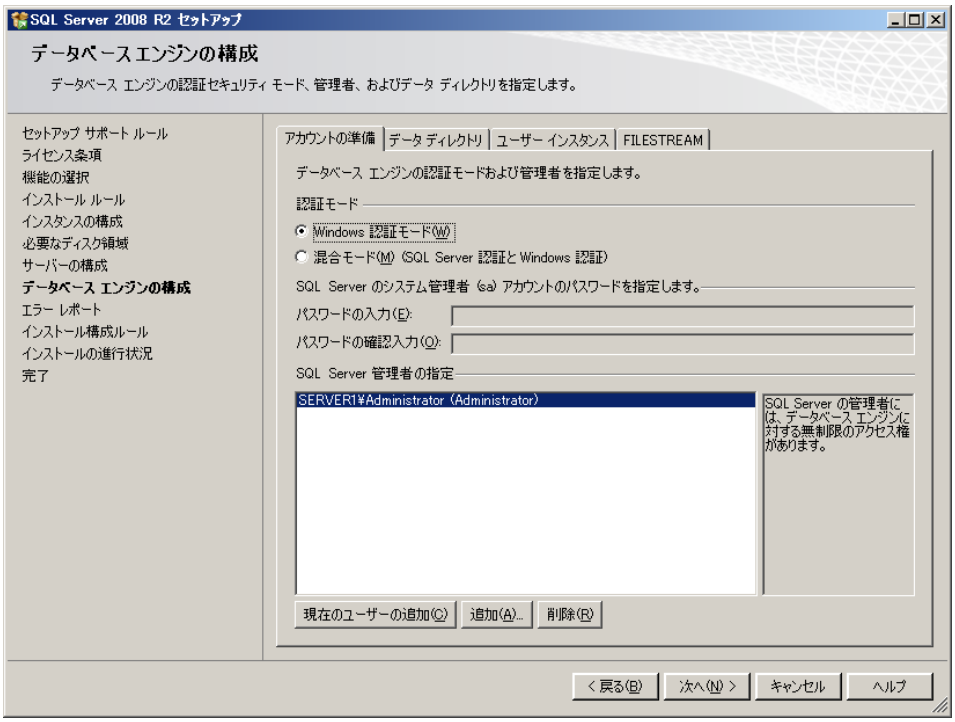
   http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=26729

2. ダウンロードした SQLEXPR_JPN.EXE を実行し、表示される画面に従ってセットアップを進めます。
3. 「インスタンスの構成」ダイアログボックスが表示されます。[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」と入力します。



4. 「サーバーの構成」ダイアログボックスが表示されます。SQL Server Database Engine サービスのアカウント名に、NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE を選択します。

5. 「データベース エンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。[Windows 認証モード(W)] をオンにします。



以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

3. ネットワーク接続の有効化

SQL Server 2008 R2 Express では、ローカルクライアント接続のみが既定で許可されているため、ネットワーク接続を有効化する必要があります。

更に、SQL Server Browser の起動と、ファイアウォールの例外作成が必要です。

関連情報: 詳細については、下記サイトを参照してください。

http://support.microsoft.com/kb/914277/ja

4. データベースの作成

SERVER1 上のコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。構成情報データベースとして使用するデータベース名は、必ず "pvminf" を使用してください。

例 1)

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB -Q "create database pvminf"
```

例 2)

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB
1> create database pvminf
2> go
```

5. サービスの再起動

SERVER1 上で [スタート] メニューから [コントロールパネル] － [管理ツール] － [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。

下記のサービスを右クリックし、[再起動] をクリックします。

表示名: SQL Server (SSCCMDB)

サービス名: MSSQL$SSCCMDB

6. SERVER1 へのデータベースの移行

手順 1 でバックアップを行ったファイルをリストアします。

バックアップファイルは SERVER1 上のローカルディスクにあらかじめ置いておきます。ここでは、バックアップファイル名を C:¥temp¥backup.dat とします。

例 1)

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB -Q "restore database pvminf
from disk = 'C:¥temp¥backup.dat' with replace"
```

例 2)

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB
1> restore database pvminf from disk =
'C:¥temp¥backup.dat' with replace
2> go
```

7. **SQL Server ログインの作成**

SERVER1 上のコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。構成情報データベースとして使用するデータベース名は、必ず "pvminf" を使用してください。

```
> sqlcmd –E –S (local)¥SSCCMDB
1> CREATE LOGIN [ログイン名] FROM WINDOWS WITH
DEFAULT_DATABASE=[pvminf]
2> go
1> EXEC master..sp_addsrvrolemember @loginame = N'ログイ
ン名', @rolename = N'sysadmin'
2> go
1> exit
```

注: ログイン名には以下が入ります。

- ドメインの場合: ドメイン名¥管理サーバのコンピュータ名$

例) ドメインの場合の入力例

ドメイン名: Domain

管理サーバのコンピュータ名: SSC_Management_Server

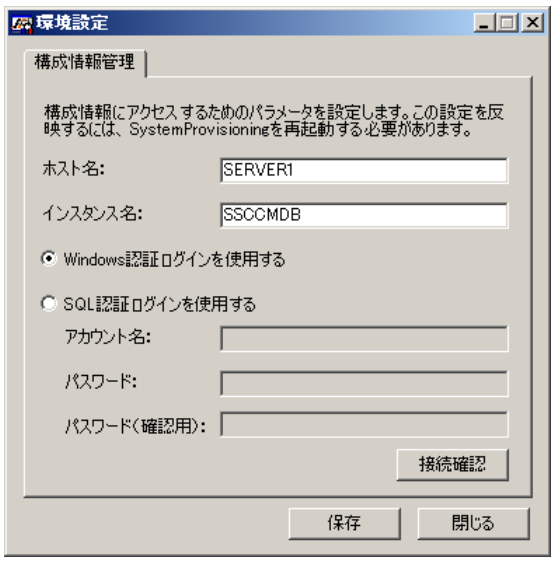
```
> sqlcmd –E –S (local)¥SSCCMDB
1> CREATE LOGIN [Domain¥SSC_Management_Server$] FROM
WINDOWS WITH DEFAULT_DATABASE=[pvminf]
2> go
1> EXEC master..sp_addsrvrolemember @loginame =
N'Domain¥SSC_Management_Server$', @rolename =
N'sysadmin'
2> go
1> exit
```

8. **環境設定**

環境設定を行い、PVMService の再起動を行います。

1. 管理サーバ上で SystemProvisioning インストールフォルダ¥bin¥PvmConfig.exe を起動します。

2. 「環境設定」画面が表示されます。



3. [ホスト名] テキストボックス、および [インスタンス名] テキストボックスを入力し、[Windows 認証ログインを使用する] をオンにします。[保存] をクリックします。
4. [スタート] メニューから [コントロールパネル] － [管理ツール] － [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
5. サービス一覧から「PVMService」を選択し、[サービスの再起動] をクリックします。

以上で、Windows 認証ログインを使用する場合の構成情報データベースの移行は完了です。

SQL認証ログインを使用する

SQL 認証ログインを使用する場合、構成情報データベースを移行するには、以下の手順に従ってください。

1. **SystemProvisioning のバックアップ**

   SystemProvisioning のバックアップを行います。

   手順の詳細については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「10.2.1 SystemProvisioning をバックアップするには」を参照してください。

   注: バックアップファイル名は、backup.dat とします。

2. **インスタンスの作成**

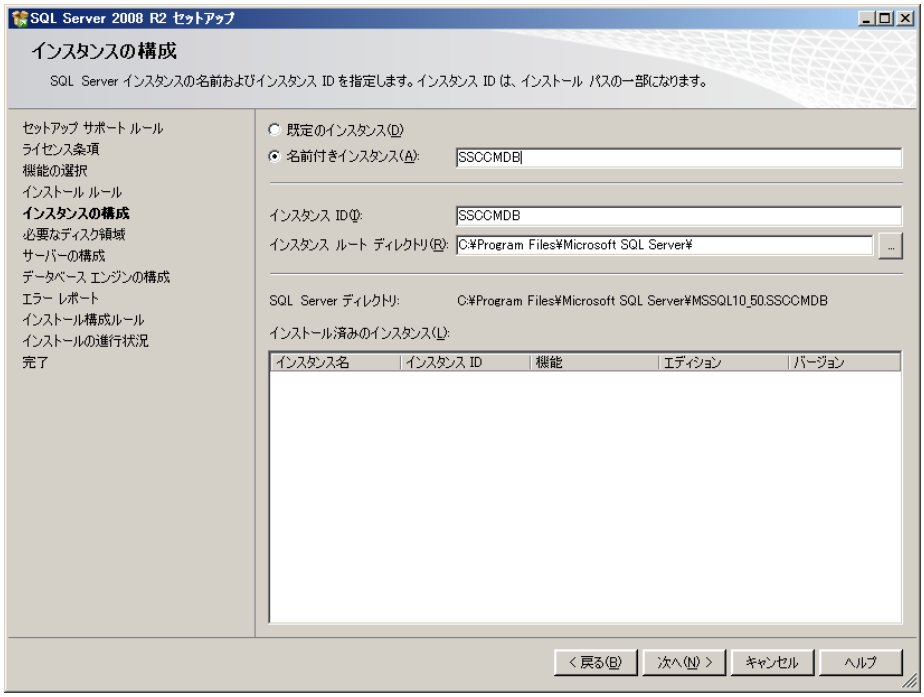
   SERVER1 上で SQL Server 2008 R2 Express のセットアップを行います。

   1. 下記のサイトから SQL Server 2008 R2 Express のセットアッププログラムをダウンロードします。

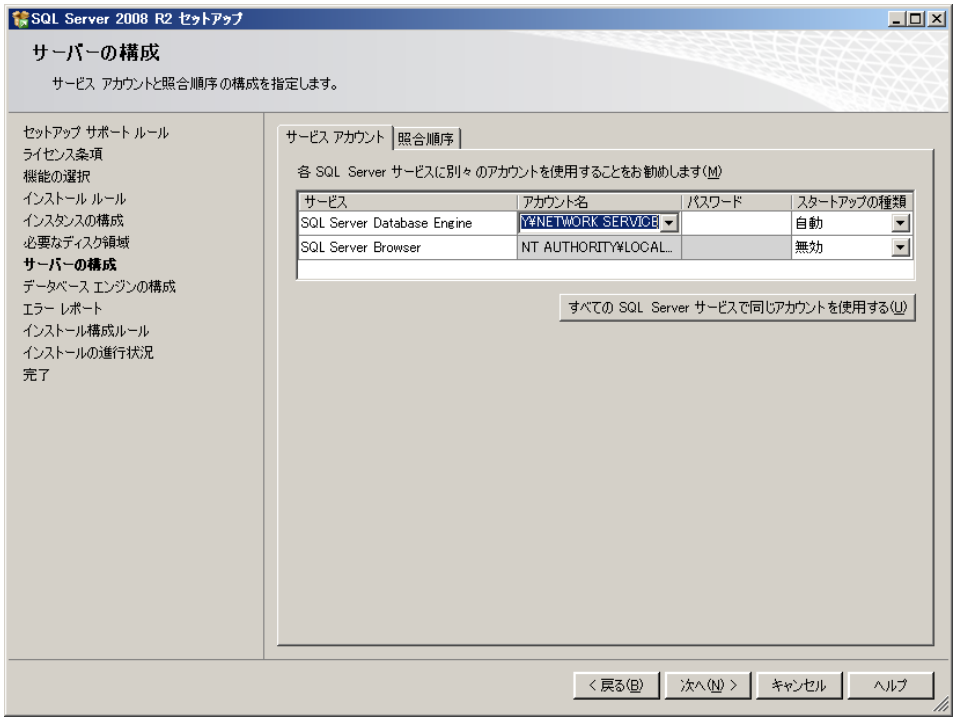
      http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=26729

   2. ダウンロードした SQLEXPR_JPN.EXE を実行し、表示される画面に従ってセットアップを進めます。

3. 「インスタンスの構成」ダイアログボックスが表示されます。[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」と入力します。

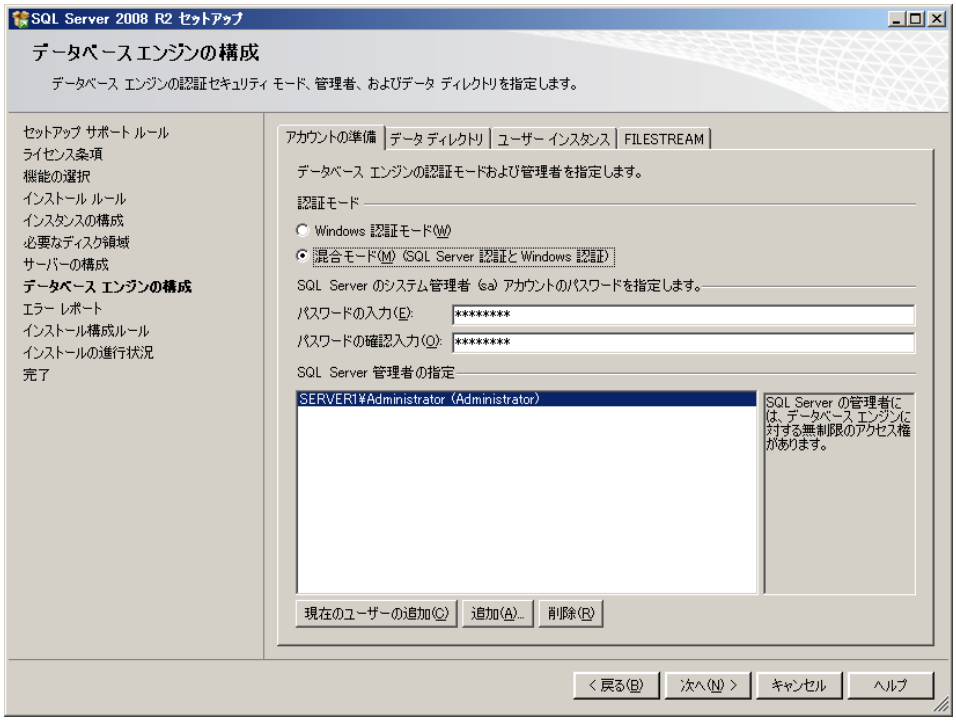


4. 「サーバーの構成」ダイアログボックスが表示されます。SQL Server Database Engine サービスのアカウント名に、NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE を選択します。



5. 「データベース エンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。[混合モード(M)(SQL Server 認証と Windows 認証)] を選択し、[パスワードの入力(E)] テキストボックス、および [パスワードの確認入力(O)] テキストボックスに、sa ログオンパスワードを入力してください。

注: パスワードは管理者が決定してください。



以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

3. ネットワーク接続の有効化

SQL Server 2008 R2 Express では、ローカルクライアント接続のみが既定で許可されているため、ネットワーク接続を有効化する必要があります。

更に、SQL Server Browser の起動とファイアウォールの例外作成が必要です。

関連情報: 詳細については、下記サイトを参照してください。

http://support.microsoft.com/kb/914277/ja

4. データベースの作成

SERVER1 上のコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。構成情報データベースとして使用するデータベース名は、必ず "pvminf" を使用してください。

例 1)

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB -Q "create database pvminf"
```

例 2)

```
> sqlcmd –E –S (local)¥SSCCMDB
1> create database pvminf
2> go
```

5. サービスの再起動

SERVER1 上で [スタート] メニューから [コントロールパネル] － [管理ツール] － [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。

下記のサービスを右クリックし、[再起動] をクリックします。

表示名: SQL Server (SSCCMDB)

サービス名: MSSQL$SSCCMDB

6. SERVER1 へのデータベースの移行

手順 1 でバックアップを行ったファイルをリストアします。

バックアップファイルは SERVER1 上のローカルディスクにあらかじめ置いておきます。ここでは、バックアップファイル名を "C:¥temp¥backup.dat" とします。

例 1)

```
> sqlcmd –E –S (local)¥SSCCMDB –Q "restore database pvminf
from disk = 'C:¥temp¥backup.dat' with replace"
```

例 2)

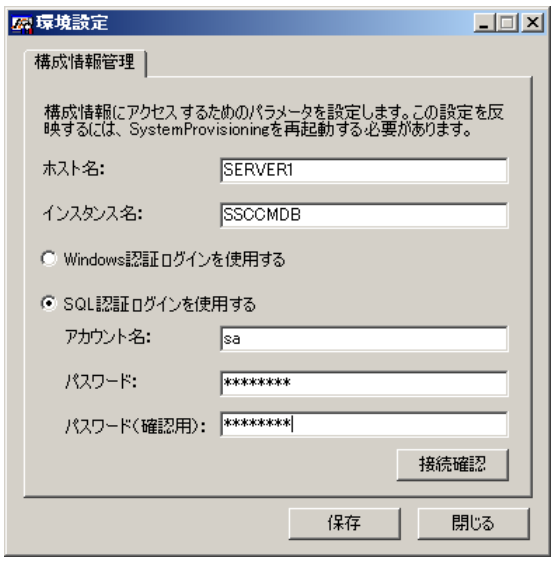
```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB
1> restore database pvminf from disk =
'C:¥temp¥backup.dat' with replace
2> go
```

7. 環境設定

環境設定を行い、PVMService の再起動を行います。

1. 管理サーバ上で SystemProvisioning インストールフォルダ¥bin¥PvmConfig.exe を起動します。

2. 「環境設定」画面が表示されます。



3. [ホスト名] テキストボックス、および [インスタンス名] テキストボックスを入力し、[SQL 認証ログインを使用する] をオンにします。[アカウント名] テキストボックスに「sa」と入力し、[パスワード] テキストボックス、および [パスワード(確認用)] テキストボックスに、手順 2-5 で入力した sa パスワードを入力します。[保存] をクリックします。
4. [スタート] メニューから [コントロールパネル] － [管理ツール] － [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
5. サービス一覧から「PVMService」を選択し、[サービスの再起動] をクリックします。

以上で、SQL 認証ログインを使用する場合の構成情報データベースの移行は完了です。

付録 C　データベースが使用する容量の見積もり方法

SigmaSystemCenter では、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視、DeploymentManager が、データベースを使用します。

以下にデータベースが使用する容量の見積もり方法について記載します。

SystemProvisioning

各マシンタイプ別に、予想される容量の内訳を記載します。

◆ 物理マシン

ブレード筐体とブレードサーバ 1 台を管理するために、約 4.1 [KByte] を使用します。
個別で計算する場合は、以下を目安にしてください。

ブレード筐体	0.8 [KByte / 台]
ブレードサーバ	3.3 [KByte / 台]

例 1) ブレードサーバの場合

5 台のブレードサーバを格納したブレード筐体を 20 台構築した場合は、以下のように計算することができ、約 346 [KByte] の容量が必要となります。

必要なディスク容量 346 [KByte] = 20 (ブレード筐体数) * 0.8 [KByte] + 100 (ブレードサーバ数) * 3.3 [KByte]

単体マシン 1 台を管理するために、約 4.1 [KByte] を使用します。

例 2) 単体マシンの場合

5 台の単体マシンで構築した場合は、以下のように計算することができ、約 20.5 [KByte] の容量が必要となります。

必要なディスク容量 20.5 [KByte] = 5 (ブレードサーバ数) * 4.1 [KByte]

ただし、マシンに接続する NIC やメモリの数が増えれば、必要なディスク容量も増加します。

◆ 仮想マシン

仮想マシンを管理するためには、vCenter Server や ESX を構築する必要があります。

仮想マシン 1 台を管理するために、約 9.0 [KByte] を使用します。

個別で計算する場合は、以下を目安にしてください。

vCenter Server	0.5 [KByte / 台]
DataCenter	0.6 [KByte / 台]
ESX	4.0 [KByte / 台]
仮想マシン	3.3 [KByte / 台]
テンプレート	0.6 [KByte / 個]

例 1)

vCenter Server * 1、DataCenter * 5、ESX * 50、仮想マシン * 1,500、テンプレート * 300 で構築した場合は、以下のように計算することができ、約 5.4 [MByte] の容量が必要となります。

必要なディスク容量 5333.5[KByte] =1(vCenter Server 数) *0.5[KByte] + 5(DataCenter 数) * 0.6[KByte] + 50(ESX 数) * 4.0[KByte] + 1,500(仮想マシン数) * 3.3[KByte] + 300(テンプレート数) * 0.6[KByte]

なお、ESX や仮想マシンに接続する NIC やメモリの数が増えれば、必要なディスク容量も増加します。

◆ 論理設定

論理設定には、サーバグループ、ホスト定義、IP アドレス定義があります。

個別で計算する場合は、以下を目安にしてください。

サーバグループ	1.5 [KByte / 個]
ホスト定義	0.7 [KByte / 個]
IPアドレス	0.4 [KByte / 個]

例 1)

IP アドレスを 1 つ設定したホスト定義を 10 個持ったサーバグループを 1 個作成した場合は、約 12.5 [KByte] の容量が必要となります。

例 2)

DHCP 運用のホスト定義を 500 個持ったサーバグループを、50 個作成した場合は、約 17.5 [MByte] の容量が必要となります。

◆ 運用ログ

SystemProvisioning のデータベースには、運用ログを記録します。

運用ログは、ログ部とその元になったイベントの 2 種類の情報を合わせて保持しています。

イベントに対し、一般的に「ログ部」は複数登録されることから、ログの保持件数に対し、イベントはその 1/3 まで保持する仕組みになっています。

よって、容量の計算としては、運用ログ 1 件あたりのログ部、イベントの目安をそれぞれ 0.6KByte、2.8 / 3KByte として計算してください。

運用ログサイズ [KByte] = 運用ログ件数 [件] * (0.6 + 2.8 / 3) [KByte]

例)

運用ログを、最大の 100,000 件保持する場合は、約 153 [MByte] の容量が必要となります。

運用ログサイズ 約153 [MByte] = 100,000 [件] * (0.6 + 2.8/3) [Kbyte] = 60,000 + 93,333[KByte]

SystemMonitor性能監視

SystemMonitor 性能監視では、収集した性能データをデータベースに蓄積していきますので、運用形態によっては、SQL Server の最大容量を超過することが考えられます。SQL Server 2008 R2 Express Edition の最大容量は 10GB です。

回避する方法としては、以下の 2 つの方法が挙げられます。

1. SQL Server 2008 R2 Express Edition を SQL Server 2008 R2 へアップグレードする
2. SystemMonitor 性能監視の設定で、データベースに保存されるデータ量を制御する

SystemMonitor 性能監視は、データの間隔毎にデータベーステーブルを分けて管理します。

監視対象マシンが 1 台、性能情報が 1 つ、収集間隔が 1 分、保存期間が既定値の場合、以下のように見積もることができます。

1分収集データ : 3 (日間) * 60 [KByte] = 180 [KByte] 5分集計データ : 7 (日間) * 30 [KByte] = 210 [KByte] 15分集計データ : 30 (日間) * 7 [KByte] = 210 [KByte] 1時間集計データ : 3 * 30 (日間) * 2 [KByte] = 180 [KByte]

1日集計データ ：5 * 365 (日間) * 0.1 [KByte] = 182.5 [KByte]
総サイズ ：(180 + 210 + 210 + 180 + 182.5) [KByte]
= 962.5 [KByte] ≒ 1 [MByte]

※ なお、上記保存期間を超えたデータは定期的に削除されます。

監視する性能情報数、データの保存期間、データの収集間隔を調整することにより、必要とされるデータベース容量についても調整することが可能です。

DeploymentManager

SQL Server 2012 Express には、約 900 [MByte] 必要です。

DPM サーバのインストールの際に、256 [MByte] 分のデータベース容量を必要とします。

その後の運用による増加分に対して必要とされるデータベースの容量の概算値は、以下の計算式で見積もることができます。

必要なディスク容量 = 登録したコンピュータ数 * 10 [KByte]
+ 登録したパッケージ数 * 3 [KByte]
+ 登録したコンピュータ数 * 0.15 [KByte] * 登録したパッケージ数

例)

登録したコンピュータ数 40,000 台、登録したパッケージ数 100 の場合は、約 1.0 [GByte] 増加となります。

付録 D　　アクションシーケンスの種類

以下の表は、主なアクションシーケンスの一覧です。

項番	アクションシーケンス名 対応するマシンの構成変更	機能	物理マシン	仮想マシン
1	ChangeServerGroup マシン用途変更 (物理マシン)	グループで稼動しているマシンを他の用途へ変更 (他のグループへ移動) します。	○	×
2	CreateMachineToGroup マシン稼動 / 新規リソース割り当て (仮想マシン)	仮想マシンを作成し、指定したグループで稼動します。	×	○
3	DeleteManagedVirtualMachine	管理対象で待機している仮想マシンの実体を削除します。	×	○
4	DeleteVirtualMachine VM削除 マシン削除 / 割り当て解除 (仮想マシン) マシン解除 / スケールイン (仮想マシン)	グループで稼動している仮想マシンをグループから削除 (管理対象) します。また、グループから削除した仮想マシンの実体を削除します。	×	○
5	DistributeSoftwareToMachine	グループで稼動しているマシンへソフトウェアを配布します。	○	○
6	DistributeSoftwareToMachinesInGroup	グループで稼動しているすべてのマシンにソフトウェアを配布します。	○	○
7	DistributeSoftwareToMachinesInGroupWithScenario	グループで稼動しているすべてのマシンに対して指定したソフトウェアを配布します。	○	○
8	DistributeSoftwareToMachineWithScenario	指定したマシンに対して指定したソフトウェアを配布します。	○	○
9	FailoverVMServer	故障発生した仮想マシンサーバ上の仮想マシンをグループ内の別の仮想マシンサーバ上へ移動します。	×	○
10	LoadBalanceVMServer	負荷の高い仮想マシンサーバ上の仮想マシンをグループ内の別の仮想マシンサーバ上へ移動し、高負荷を解消します。	×	○
11	MoveFromGroupToPool マシン削除 / 割り当て解除 (物理マシン) マシン削除 / スケールイン (物理マシン)	グループで稼動しているマシンをシャットダウンしてプールマシンとして待機させます。 ESMPRO/ServerManagerの監視対象から削除 (※1) します。	○	○
12	MoveFromManagedToPool	共通プールにあるマシンをシャットダウンしてグループのプールに追加します。	○	○

項番	アクションシーケンス名 対応するマシンの構成変更	機能	物理マシン	仮想マシン
13	MoveFromPoolToGroup マシン稼動 / リソース割り当て (物理マシン) マシン稼動 / スケールアウト (物理マシン) マシン稼動 / リソース割り当て (仮想マシン) マシン稼動 / スケールアウト (仮想マシン)	プールマシンをグループで稼動させます。ソフトウェアの配布、マシンの個性反映 (※2)、ESMPRO/ServerManagerの監視対象への登録を実施 (※1) します。DPMへの自動登録が設定されている場合は、DPMにマシンが登録 (※3) されます。	○	○
14	MoveFromPoolToManaged	マシンをグループのプールから削除し、共通プールで待機させます。	○	○
15	MoveMachine VM移動 (仮想マシン)	仮想マシンを別の仮想マシンサーバ上に移動します。	×	○
16	MoveMasterMachineToGroup マシン稼動 / マスタマシン登録 (物理マシン) マシン稼動 / マスタマシン登録 (仮想マシン)	共通プールにいるマシン、およびグループプールのマシンをマスタマシンとして稼動します。ソフトウェア配布は実施しません。 また、ESMPRO/ServerManagerの監視対象への登録を実施 (※1) します。DPMへの自動登録が設定されている場合は、DPMにマシンが登録 (※3) されます。	○	○
17	RebootMachine マシン電源操作 / 再起動	マシンに対してリブートを実施します。	○	○
18	ShutdownMachine マシン電源操作 / シャットダウン	稼動しているマシンをシャットダウンします。	○	○
19	StartupMachine マシン電源操作 / 起動	停止しているマシンを起動します。	○	○
20	SuspendMachine マシン電源操作 / サスペンド	稼動しているマシンをサスペンド状態にします。	○	○
21	TakeOverMachine マシン置換 (物理マシン)	グループで稼動しているマシンとプールマシンを置換します。新しく置換したマシンには、置換前の情報を引き継がれます。 置換されたマシンは必ずグループのプールで待機します。	○	×
22	PowerOnMachine マシン電源操作 / 電源ON	停止しているマシンの電源をオンにします。	○※4	×
23	PowerOffMachine マシン電源操作 / 電源OFF	起動しているマシンの電源をオフにします。	○※4	×
24	ResetMachine マシン電源操作 / リセット	起動しているマシンをハードウェアレベルでリセットします。	○※4	×
25	PowerCycleMachine マシン電源操作 / パワーサイクル	起動しているマシンに対し、電源オフを行った後にオンにします。	○※4	×
26	AcpiShutdownMachine マシン電源操作 / ACPIシャットダウン	起動しているマシンに対し、ACPIシャットダウンを行います。	○※4 ※5	×

項番	アクションシーケンス名 対応するマシンの構成変更	機能	物理マシン	仮想マシン
27	DumpMachine マシンのダンプ採取	マシンに対し、ダンプ採取要求を送信します。	○※4 ※5	×
28	LedTurnOnMachine	起動しているマシンに対し、LED点灯要求を送信します。	○※4	×
29	LedTurnOffMachine	起動しているマシンに対し、LED消灯要求を送信します。	○※4	×
30	ApplyOptimizedPlacementRule	VM配置制約を適用します。	×	○
31	CreateImage	イメージの作成を行います。	×	○
32	CreateTemplate	テンプレートの作成を行います。	×	○
33	InvestigateAndPowerOff	マシンの診断を行います。	○	○
34	InvestigateMachineAndSetFaulted	指定タイプでのマシン診断を行います。	○	○
35	InvestigateMachineAndSetReady	総合的な回復診断 回復設定を行います。	○	○
36	ModifyRunningMachine	構成変更を行います。	○	○
37	PowerSaveVMserver	VMサーバのパワーセーブを実行します。	○	×
38	PredictiveShutdownVMServer	VMサーバを停止します。(予兆)	○	×
39	PredictiveStartupVMServer	予備VMサーバを起動します。	○	×
40	ReconstructVirtualMachine	再構成を行います。	×	○
41	ScaleIn	スケールインを行います。	○	○
42	ScaleOut	スケールアウトを行います。	○	○
43	ShutdownAtScaleIn	グループの設定に従いマシンを停止します。	○	○
44	StartupAtScaleOut	グループの設定に従いマシンを起動します。	○	○
45	SuspendAtScaleIn	グループの設定に従いマシンを休止します。	×	○

※1　対象が物理マシンの場合のみ実施されます。

※2　対象が仮想マシンの場合は、マシンの個性反映が行われます。対象が物理マシンの場合は配布するソフトウェアに依存します。

※3　対象が仮想マシンの場合のみ実施されます。

※4　Out-of-Band Management管理が有効である必要があります。

※5　対象となるマシンで動作しているOSに適切な設定を行う必要があります。

○:アクションシーケンス対象マシン
×:アクションシーケンス対象外マシン

付録 E　　改版履歴

◆ 第 2 版 (2013.1): Update 1 での機能強化に関する記載を追加して改版

配置制約機能強化による記載追加

2章　　「2.2.1 SystemProvisioningのイベントログ」

ファイアウォール対応による記載追加

2章　　「2.2.1 SystemProvisioningのイベントログ」

メール通報機能強化による記載追加

1章　　「1.7.1 通報 / E-mail通報、イベントログ出力」
　　「1.7.2 通報 / E-mail送信」

◆ 第 1 版 (2012.6): 新規作成

付録 F　　ライセンス情報

本製品には、一部、オープンソースソフトウェアが含まれています。当該ソフトウェアのライセンス条件の詳細につきましては、以下に同梱されているファイルを参照してください。また、LGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、お問い合わせください。

<SigmaSystemCenterインストールDVD>¥doc¥OSS

▪ PXE Software Copyright (C) 1997 - 2000 Intel Corporation.

▪ 本製品には、Oracle Corporationが無償で配布しているJRE (Java Runtime Environment) を含んでいます。使用許諾に同意したうえで利用してください。著作権、所有権の詳細につきましては、以下のLICENSEファイルを参照してください。
<JREをインストールしたフォルダ>¥LICENSE

▪ 本製品には、Microsoft Corporationが無償で配布しているMicrosoft SQL Server Expressを含んでいます。使用許諾に同意したうえで利用してください。著作権、所有権の詳細につきましては、以下のLICENSEファイルを参照してください。
<Microsoft SQL Server Expressをインストールしたフォルダ>¥License Terms

▪ Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under a Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/ for more details.

▪ This product includes software developed by Routrek Networks, Inc.

▪ Copyright 2005 - 2010 NetApp, Inc. All rights reserved.